

トーキョーNOVA The Detonation リブレイ

グッバイ、 ヒューマニズム

製作 ニューロ/CD製作委員会
画 いわずみ

まえがき

初めまして。この本をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

本書はテーブルトークRPG『トーキョーン◎VA The Detonation』を取り扱った、同人リプレイ誌になります。

このゲームで扱う世界観である、「ニユーロエイジ」は、繁栄と退廃を極めた暗黒の近未来を舞台としています。

ここでは、人間は誰もが体にコンピュータを埋め込み、体の一部（あるいは全部）を機械に置き換えて便利に暮らしています。世界中には無線による情報網が張り巡らされており、情報だけの存在であるところの人工知能たちが、自我を持ち、一つの生命体として存在し始めています。

技術の進歩により、人間と機械が非常に近く、その境界線が極めて曖昧になった世界観と言えます。『攻殻機動隊』や『マトリックス』、最近では『トロン・レガシー』などでお馴染みの、サイバーパンクと呼ばれるジャンルの世界観ですね。

本書『グッバイ、ヒューマニズム』で描くのは、サイバーパンクではお馴染みの「人間性とは何か」というテーマです。

機械と人間の区別がなくなくなり、機械の力で人間の能力や感情が操作できるようになった世界で、人は自らの存在について悩みます。その根源的な問いかけは、使い古された今でもなお、多くの人を魅了してやみません。今回は、その王道をリプレイとして再現する事を目指してみました。

前置きが長くなりました。このリプレイが、少しでも貴方に楽しいひと時を提供できれば、これに勝る幸せはありません。

トーキョーン◎VAのスタイル一覧

・	カブキ	芸術家、ギャンブラー。強運を味方につけた自由人。
1	バサラ	念動力者、退魔師。意志や知性を秘めた魔法使い。
2	タタラ	研究者、技術者、医者。技術と知識を探索するもの。
3	ミストレス	バーのママ、姐御肌の女性。信頼を受け、愛情を注ぐもの。
4	カプト	ボディガード、バウンサー。他者を護る現代の騎士。
5	カリスマ	政治家、教祖、弁護士。人を惹きつける指導力をもつもの。
6	マネキン	娼婦、遊び人。他者に依存して生きる弱さをもつもの。
7	カゼ	走り屋、運び屋、ソク。流れる風の中に生きるもの。
8	フェイト	探偵、正義の味方。欺瞞に満ちた街で、真実を採るもの。
9	クロマク	首領、フィクサー。裏の世界を生耳る支配者。
10	エグゼク	企業の重役、経営者。金とコネを使って利益をあげるもの。
11	カタナ	殺し屋、剣豪。接近戦のプロ。欲望と本能で生きるもの。
12	クダツ	企業工作員、さりまん。社に忠を尽くす現代のサムライ。
13	カゲ	暗殺者、スパイ、ニンジャ。闇に潜み、死をもたらすもの。
14	チャクラ	求道者、武術家。精神と肉体の両方を鍛えるもの。
15	レグラー	ヤクザ、マフィア、ちんぴら。悪と私欲の権化。
16	カプトワリ	スナイパー、射撃のプロ。一発の銃弾で時代を動かすもの。
17	ハイランダー	天上人、エリート。記憶を失った謎の人物、希望の象徴。
18	マヤカシ	幻術師、占い師、ESP。非現実的な世界を見つめるもの。
19	トーキー	報道者、記者、キャスター。世界を変革する力を持つもの。
20	イヌ	警察、裁判官、検事。法により人を裁く、審判の下し手。
21	ニユーロ	ハッカー、データ盗賊。情報世界に生きるもの。
-1	ヒルコ	ミュータント、人造生命。文明により生まれた異形。
-7	アラシ	重戦闘兵器の乗り手、壊し屋。世界を蹂躪する破壊者。
-9	カゲムシヤ	影武者。自分を喪失し、他人の姿を借りて影に生きるもの。
-18	アヤカシ	妖怪、鬼、伝説上の生き物。永劫を生きる夜の支配者。

用語解説

ニューロエイジ

「トーキョーN○VA The Detonation」の舞台となる時代、世界観のこと。『**災厄**』と呼ばれる世界規模の大災害の影響で、世界は氷河期に突入しており、人々は限られた巨大環境都市にのみ生活している。世界中が無線による高度な情報網に覆われた近未来世界。

トーキョーN○VA

このゲームの主な舞台となる都市。鎮国した超大国・日本が、干上がった東京湾跡に建造した出島であり、世界経済の中心として繁栄と退廃を極めている。

メガ・コーポ

世界有数の超巨大企業複合体。この世界では多くの国家が存在意義を失い、巨大企業がそれにとって代わっている。

電脳化

体内に、**イ・A・N・U・S** というインターフェイスを埋め込み、人体を直接機械と繋げる技術。ニューロエイジの人間は、ほとんどが電脳化している。

イ・A・N・U・S

Intelligent Assassin, Neural Utility System の略。全てのサイバーウェアを制御・管理する、人体のOSとも言うべきヒューマン・マシン・インターフェイス。

サイバーウェア

体の一部分に置き換えられた機械のこと。ニューロエイジで便利に生活する為には欠かせない物であり、身の不可能を容易く可能にする。

全身義体

脳以外の全てを機械化したもの。軍用全身義体は最新鋭テクノロジーの結晶であり、人間を遥かに凌駕した性能を発揮する。

ウェット

全く電脳化していない人のこと。電脳から切り離されている事は、社会から隔絶されている事と同義であり、不便極まりない。

トロン

コンピュータのこと。脳に直結させ、全感覚をウェブに没入させることが可能。

情報生命体(AI)

人が作りだした人工知能。あるウェブ上での大事件を切欠に、ニューロエイジでは次々とAIたちが自我を持った「生命体」として覚醒しつつある。

意識体

人間がもつ意識、自我、魂のこと。または、キャラクターの声やウェブアバターなどの「意識」のみがシーンに登場し、生身が登場していない状態。

市民ID

トーキョーN○VAの住民は、全てID管理されている。IDを持たない人間(ⅡXランク)は、社会的に存在しないものとして扱われ、いかなる公共サービスや法による保護も受けられない。

スタイル

職業・立場・性格などを内包する、その人の「在り方」を意味する言葉。キャラクターを構成する最も重要なデータ。(前ページのスタイル解説を参照) 基本的に1人のキャラクターが3つ保有する。「トーキョーN○VA」は、主人公たちが自分のスタイルを貫くゲームである。

ベルソナ(◎)とキー(●)

スタイルの中で、表面的なもの(職業や見た目)をベルソナといい、その人の根幹、本質的なものをキーという。どちらにも当てはまらないものはシャドウといふ。

神業(※文中、◇で囲まれたもの)

各スタイルに設定された、アクト中に1度しか使えない絶対的な力。キャラの超人的能力や幸運などを表現するものであり、物語の主役としての「見せ場」。

R L(ルーラー)

このゲームにおける進行役。他のゲームで言うところの、ゲームマスターのこと。

「それを失った者は……揺らがないんじゃない。揺らげないんだ。

迷うことすらできない。だから正しさも見つけられない。

過ちだけを抱え続けて、いつまでもくず鉄として生き続けなければならない」

—— “くず鉄” ミゲル

ロストヒューマンに花束を

Flower for lost-human



顔も体も人格も、キャッシュで交換お望みのまま。

2秒でコンプレックスとさようなら。

電脳世紀の叡智の結晶、サイバーウェア。

ただの人が、次々とサイバーサイコになる……

義体の恩恵に慣れ過ぎた人間達は、その事件に恐怖した。

それは、夢の技術がもたらす弊害か。

それとも、人間の脆弱さがもたらす必然か。

これは、ジブンを無くした人間達の、滑稽な悲劇の物語。

トーキョーN◎VA The Detonation

『ロストヒューマンに花束を』

プレアクト

ルーラー（以下RL）：かくて、運命の扉は開かれた。

それではこれより、『トーキョーN◎VA The Detonation』のアクトを開始します。

タイトルは『ロストヒューマンに花束を』。義体化によって

自分を見失った、サイバーサイコ（*）の物語です。今回のアクトは、事前に打ち合わせをネット上の掲示板にて

行っており、配役やキャストの準備を済ませた状態で集まっております。

尚、今回のアクトでは「人間性」というものをテーマに描きたかったため、ルーラーからキャストに対して一つのお願いをしています。それは、自分の生き様に対して、なにか疑問や悩み、揺らぎなどを1つ持たせて欲しいというものです。では、プレアクトを始めましょう。

くず鉄 ミゲル

殺人マシン、軍人くずれ、戦争の生んだくず鉄——呼び名なら好きにすればいい。名前が必要なら、ただミゲルと呼んでくれ。

俺は兵士だった。独立軍の一員として、あのミトラス戦争に従軍した。地獄のような戦場を生き抜いてこれたのは、暖かな故郷の記憶があったからだ。

だが戦争から帰った俺を待っていたのは、冷やかな視線だけだった。人殺しの装備と経験とを大量に積み込んだ荒くれ者は、善良な市民様の社会では邪魔者だったのさ。しかも、度重なる機械化のせいで俺の神経はポロポロで、これ以上は除去手術にさえ耐えられなかった。

故郷も、平和も、幻だった。俺の居場所は、もうとつくに戦場しかなくなっていた。

そして俺は……私は、企業の工作員となりました。命令通り

に暴力を振るうことで、生活の保障を受ける人生。それが流れ歩いた末に辿り着いた、相応の居場所。

私の名はミゲル。ニューロエイジ最大のメガコーポに忠誠を誓う——ひとりの、善良な市民です。

RL..では、順にキャスト紹介をお願いします。まずはクグツから。

PL①（以下ミゲル）..はい。名前はミゲル。千早重工（*）後方処理課（*）に所属する企業作業員です。スタイルはクグツ◎、カゲ、カプトワリ●。45歳の男。全身の92%が機械化されている、戦闘用のサイボーグです。外見は、クグツのタロットのキャラクターをイメージしています。

PL③..（プロファイルシートを眺めながら）随分変わった装備ね。どれもこれも、古い装備ばかり。（*）後方処理課って、千早重工の中でも先鋭の部隊でしょ？ もっと良い装備を使えるんじゃないの？

ミゲル..それには理由があります。私は元々、ミトラス戦争（*）に従軍した軍人でした。戦場は衛生環境も悪いし、薬も足りない。そんな中で怪我をしたり、体の部品が壊れたりすると、ある物を適当に組み合わせて、粗雑な設備でサイバー化をしなければなりません。そんな生活を10年以上もしてきた結果、神経がロボロボになってしまった。それ以上のサイバーウェアの導入やアップグレードも出来ない。型落ちの部品ばかりをつけている為、くず鉄^{ジャンク}というハンドドルで呼ばれています。

PL②..随分と過酷な環境で生きてきたんだな。徴兵されたのか？ それとも志願？

ミゲル..志願。当時は国家とイデオロギーに忠誠と情熱を捧げた若き兵士でした。だが、戦場で人間性のほとんどをすり減らし、敗戦後、帰還した故郷ではならず者として排斥された。もはや平和な場所に自らの居場所はないと悟った時、私に手を差し伸べたのが、戦時中の敵であった日系企業だったというのは、皮肉としか言いようがありません。

RL..今回、ミゲルはRLからキャストを指名させて貰いました。（*）戦争により人間性をすり減らした機械化兵が、このシナリオにはピッタリだと思いましたので。

ミゲル..もはや戦場でしか生きられない私は、戦場を与えてくれる限り、千早重工に忠誠を捧げ続けるでしょう。しかし今も、失った平穏への憧憬が燦^{きら}り続けている、そんなキャストです。

サイバーサイコ..サイバー化が原因で精神的なダメージを受け、正気を失ってしまったものの事を言う。

千早重工..世界を支配するメガ・コーポの中でも、最大規模を誇る千早グループの基幹企業。I・A・N・U・Sの製造元でもある。

後方処理課..企業間抗争において、非合法的な工作活動を行う千早の部署。その様相は軍隊さながらである。

古い装備ばかり..ミゲルが人体に直接埋め込んでいる装備は、使用可能時期が全て「2016」のものである。（詳しくは「プリメント・アフロニクル」を参照）

ミトラス戦争..かつて、新大陸ミトラスで勃発した独立戦争。独立軍と日系企業軍との泥沼の戦争は、実に10年以上にわたった。

キャストを指名..RLはこのアクト以前に何度か、ミゲルというキャストとアクトを共にしていた。その経験から、彼が今回のシナリオのテーマにぴったりと判断し、担当プレイヤーにミゲルを使つての参加をお願いしたので。

RL…では、ミゲルのハンドアウト（＊）は以下になります。

【クツツ】コネ・芽華／推奨スート・感情

君は以前、一人の後輩を指導していた。彼女の名前は芽華。君と同じ、後方処理課の職員だ。優秀だった彼女はしかし、義体化による自己認識障害（＊）を患い、壊れた。

程なくして社を追われた彼女だが、最近になって、テラウエアのある策謀に加担しているらしい。壊れた彼女が社の敵となるならば、君は彼女を始末しなければならない。

PS（＊）…芽華を始末する

RL…芽華は、元・後方処理課の若き職員です。貴方がかつて指導していたという設定になります。『ゲームーズ・ワールド 12th season vol.1』（＊）に掲載されたシーストストーリーに登場したキャラクターですね。

ミゲル…育てた後輩を、自らの手で始末しなければならない…非常に重い任務ですね。

至誠官、キョウ

誰かに似てる、って？ いいよ、思い出さなくて。

僕はキョウ。ブラックハウンドの警部補だ。所属は隊長付特別室ってトコ。名前は立派だが、仕事は書類の整理。要は飼い

殺し。真面目に仕事をしてただけなんだが、上の意向でね。だが、こんな所で大人しくしていられる性分じゃない。それに税金で食わせてもらってる身だ、事件があれば飛んでくさ。

ん？ ああ、確かに他の誰かなら監視システムに引っかかるだろうが、僕はウェットなんだ。親父が汚職警官でさ。税金払ってる市民に申し訳なくて、僕は無駄な金を使いたくなかっただけだが……こんな時は役に立つ。

市民のために、って警官がひとりくらいいてもいいだろ。おかげで隊長には睨まれてるし、至誠官、なんて有難くないんだ名も貰っちゃまってるけどな。いや、褒め言葉は褒め言葉なんだろうが、響きがなあ。シセイカン、だぜ？

誰に似てるかわかった、って？ ……すまん、事件みたいだ。それじゃ、これで失礼！

PL②（以下キョウ）…次は僕だな。特務警察ブラックハウンドの隊長室付特別室に所属する、キョウ警部補（＊）です。

22歳男性。スタイルはカブト、フェイト●、イヌ○。多少先走る癖はあるものの、勤務態度も良く真面目で、正義感に燃える、正統派な警官です。

ミゲル…隊長付特別室……？ イヌ枠は、機動捜査課（＊）の指定ではありませんでしたか？

RL…そこに関しては、プレイヤーからやりたい造形があるという事で相談を受けています。

キョウ…元々は機動捜査課にいたんだ。だが、隊長の命により

部署移動になってしまった。隊長付特別室なんて言えば聞こえは良いが、その実際は厄介者をおしこむ閑職だ。警部補の階級と書類整理なんていう重要な役割とやらを与えられ、日々焼っている。

PL③…どうしてそんな閑職に？ クソ真面目すぎて使いづらかったってだけじゃ、そこまではいかないでしょう？

キョウ…表向きは度重なる隊長への反抗のため、って事になってる。でも実際は違う。実はキョウは、かつてブラックハウンドに所属していた汚職警官「レンズ（*）」の、息子なんだ。

ミゲル…レンズ……!! 今はN◎V Aの行政のトップである司法官となった、稲垣光平の事ですか!?

RL…確かに、N◎V Aのトップの息子を危険な機動捜査課に置いておくわけにはいきませんね。

キョウ…ああ。だが、持ち前の情熱から、事件が起きればすぐに機動捜査課に駆け込み、ともに捜査に当たる事が多い。上層部の悩みのタネになっている。

あと、父親が汚職に手を染める様を反面教師として間近で見て来たので、公共意識が高い。税金を無駄に使う事を自分に許さない節があるので、装備も最低限のものしか支給をうけない。装備もイヌのベルソナデータパックに掲載されているものしか取っていない。サイバー化も管理に金がかかるという事で、していません。ウエットです。

PL③…サイバーウェアを装備していないのは分かるけれど、ウエットつてのはやり過ぎじゃない？ I A N U Sは無料で導入できる（*）し、お金のやり取りやID管理の基本ツールに

なってるから、生活しづらいんじゃない？

キョウ…ウエットなのはもう一つ理由があるんだ。言うところ、I A N U Sは社会的な立場を持つ上で欠かせないツールだ。持たてなきゃ、社会的には存在しないものとして扱われると言っても過言じゃない。

ミゲル…なるほど…隊長の目をごまかして捜査に参加するには、これ以上便利なものは無いという事ですか。

キョウ…そういう事。

RL…では、キョウへのハンドアウトをお渡しします。

ハンドアウト…そのアクト中でキャストに与えられる役割やストーリーを記したもの。通常、キャストに推奨されるスタイルなどが指定されている。

義体化による自己認識障害…義体化により自分の容体、体の構造などが変わる事で、自分を見失ってしまう、抑鬱症状や健忘、離人症などの解離性障害を起こす事。こういった症状は全身義体において現れる。

PS: Double is Social. アクトでキャストが達成するべき目的のこと。

ゲームーズ・ワールド…このゲームの製作元である、FEAR社が発行しているサポーター誌。該当回の記事は、義体化についての解説が詳しく記されており、N◎V Aの世界観を理解する上で一読をお勧めする内容だ。

警部補…キョウの年齢でこの階級はかなりのエリートである。ただ、この場合はお飾りの階級であらう。

機動捜査課…重犯罪の初動捜査を担当する課。イヌのスタイルを持つキャストは、この課に所属する事が多い。

汚職警官、レンズ…司法官、稲垣光平のかつての名。金と権力に意地汚く、職権乱用・汚職贈賄は日常茶飯事だった悪徳警官。その狡猾さを武器にのし上がり、政治家に転身。N◎V Aの司法のトップにまで上り詰めた。

I A N U Sは無料…I A N U Sそのものに料金は発生しない。その他オプションやサイバーウェアなどで利益を上げているのだ。

【イヌ】コネ…鋼鉄官、アルフレッド／推奨スト…理性

最近、N◎VAを混乱に陥れている自爆テロ事件。

「わたしはここにいるテロ…犯人達は皆サイバーサイコで、「自分の存在の証明」と称して、沢山の人々を犠牲にして死んだ。

その背後に不可解なものを感じた機動捜査課長、千早牙子是、アルフレッドと君に、事件の捜査を命じた。アルフレッドは頼りになる相棒だ。だが、その顔がどこか浮かないのは、君の気のせいだろうか？

PS…サイバーサイコによるテロを食い止める

RL…街で起きている不可解なテロを追う導入です。コネクションは機動捜査課時代の同僚、アルフレッド。ウェットの貴方とは対照的に、軍用全身義体に換装したサイボーグです。

キョウ…自爆テロか。犠牲者の数は他の事件とは比べ物にならない。一刻も早く原因を突き止めないと。

電腦童謡、フィオリナ

女の子が何でできているか知ってる？

純真な心と綺麗な洋服ですって？ ナンセンス！ 無知なアナタに教えてあげる。女の子はお砂糖にスパイス、ネットと

進化的計算。そんな素敵なものでできているのよ。

わたしは、電腦童謡、フィオリナ。お伽噺の使い魔たちを

従えて、電腦世界を思うがままに操る、情報の森の魔女よ。

子供みたいですか？ 失礼ね。情報生命体のわたしが作られたのは、もう3年も昔なのよ。もつとも、くだらない実験で私を作った胸くそ悪い研究所からは脱走して、嫌なことしかなかった記憶も捨てちゃった。

だから今でも、人間たちのことは大嫌いだ。みんな、アナタと一緒に。つまらなくて、くだらなくて、ナンセンス。

でも、人間の作った甘いお菓子だけは素嗜らしいわ。ベリーのタルトなんて格別ね。わたしに必要なものは、紅茶とケーキぬいぐるみとクッション、そして、わたしを脅かすものが居ない環境だけ。ニューロ！ すべてはウェブに揃ってる！

わたしに集めて欲しい情報があるのなら、極上のスイーツを持つてきなさい。そしてお茶会を開くの。でも、もしそこに訪れたあなたが、今と変わらないう人間だったら……お砂糖で煮詰めて、3時のおやつにしちゃおうかしら？

RL…最後にニューロのキャスト、自己紹介をお願いします。

PL③(以下フィオリナ)…はい。名前は、電腦童謡、フィオリナ。スタイルはミストレス、マネキン、ニューロ◎。

N◎VAに現れたのはごく最近で、新鋭だけ凄腕の情報屋として名を馳せています。でも能力の割に、子供みたいに気まぐれで、人を小馬鹿にした態度を取りがちな、ちよつと扱いづらい感じ。電腦網上ではお伽噺の魔女のようなアヴァターを使っている、扱うプログラムも童謡のキャラクターを模したものは

かりです。

キヨウ…能力に似合わぬ子供っぽさ……生粋^{まこと}のニューロキッズ
(*) か？

フィオリーナ…ううん、違うの。情報生命^{情報生命体}。自我を持った生命体として覚醒^{かくせい}したのは3年前。

ミゲル…人工知能ですか！ しかも3歳。本当に生まれたばかりだったとは。

RL…ニューロエイジでは、AIが人間と見分けがつかないような高度な自我を持って生まれる事は珍しくありません。人類の新たな隣人として、その存在は多くの人々に歓迎されています。

フィオリーナ…でも、わたしは人間が大ッ嫌い！ 頭が悪いし、そのクセ偉そうだし、やってる事も非合理的でくだらない事ばかり。まるでサルを見るような感覚で人間を見ています。

キヨウ…見下されたもんだな。何か理由があるのかい？

フィオリーナ…元々わたしは、ある企業で作られた人工知能なの。私を生みだした科学者は、私を散々実験の道具として酷い目に合わせて来たわ。いい加減我慢が出来なくなったわたしは、2年前にその企業を脱走したの。そのせいで、私の魂^{たま}には、人間に対する恐怖心と嫌悪感が刻みつけられているのよ。

ミゲル…なるほど……それは嫌われてしまっても仕方が無い。RL…しかし、そのキャストの本質を現すスタイルであるキースタイルが、愛情を求める者のスタイルであるマネキンというのは意外ですね。

フィオリーナ…本人は自覚はしていないんだけど、生みの親

に愛されなかった私は、心の奥底で、人間に愛される事を望んでいるんです。でも、それよりも人間を嫌う気持ちの方が強く出ちゃうので、自分の本当の願望に気付けない。素直になれない子供の様なキャストを演じてみたくて、こういう設定にしました。

RL…では、フィオリーナのハンドアウトをお渡しします。

【ニューロ】コネ…ラルフ／推奨スート…外界

社会派を自称する。甘ちゃん^{かんちゃん}トーク、ラルフ・ブレックナー。彼が君に依頼してきたのは『アルジャーノン・レポート』という、義体化^{サイバニゼーション}に関する論文の情報を集める事だ。

なんでもその論文の著者は、超巨大企業^{メガコーポレート}により弾圧され、論文内容と共に消されてしまったのだという。

闇に隠された真実を暴き出そうと意気込むラルフを、君は渋々^{しぶしぶ}手伝う事にした。

PS…『アルジャーノン・レポート』の真実を暴く

RL…フィオリーナは、情報屋としての依頼型導入ですね。依頼人のラルフ・ブレックナーは20歳前半の優男。社会派を気取ってはいますが、その実ロクなネタを引っ張ってこれない落ちこぼれトーカーです。

ニューロキッズ…ニューロエイジの若者のこと。生まれながらに電腦に慣れ親しんだ若者は、その扱いに関してプロ顔負けの才能を持っている事が多い。

フィオリーナ…推奨スート(*)は【外界】になってるけど、もし良ければ【感情】で取りたいわ。人間にしては優しそう
なキャラだし、素直にはなれなくて憎まれ口ばかり叩くけれど、
実際はある程度心を開いてるような関係性を演出したいの。
RL…それは良いですね。構いません、【感情】でお渡ししま
しょう。

RL…では、キャスト間の関係性を決めましょう。クグツ↓イ
ヌ↓ニューロ↓クグツという順番でコネクションを取得して下
さい。

キョウ…僕はミゲルにコネを渡せばいいんだな。企業の利益
の為に法に反する活動をしているミゲルの事は許せないけれ
ど、人間としては何となく嫌いにならないタイプなんだよな…
…上手く言い表せない複雑な感情を持っているので、【感情】
で渡そう。

フィオリーナ…わたしはキョウに渡すのね。キョウってウエツ
トでしょ、信じらんない。動物園のパンダですら電脳化してる
時代(*)なのに。物珍しいモノを見る好奇心で【感情】。

キョウ…珍獣扱いだよ。

ミゲル…そして私がフィオリーナに。確か、企業で作られたん
でしたよね。では、企業の手によって作られた人工知能である
事を、知っていても構いませんか？

フィオリーナ…構わないわよ。わたし自身は、自分が人間の被
造物、って事は認めたくないけれど！

ミゲル…では、お言葉に甘えて。人間によって作られたはずの
AIが、何故人間を憎むのか。彼女に一体何があったのか。気
にはなりますが、自分にそんな事を気にする資格も義理も無い
為、勤めてビジネスライクに接している。【外界】で。
RL…では、早速メインアクトに移りましょう。

推奨スート…△ネ△ 技能は、そのスートによって関係性が変わる。【外界】な
らビジネス関係、【感情】なら好意【理性】なら尊敬、【肉体】なら家族や肉
体関係などだ。尚、重要なのは、N◎VAの△ネ△は「相手からどう思われ
ているか」を示すパラメータだという事だ。

動物園のパンダです…実際に電脳化しているかは定かではないが……まあ、
貴重な。生の。動物だ。ID管理くらいはしているだろう。

“くず鉄” ミゲル

「この街はいいところです。私が深呼吸できる場所は、もうだいぶ少なくなっちゃった」

千早重工後方処理課3班に属するクグツ。ミトラス戦争従軍により、全身の92%を機械化した戦闘機械化兵。スーツの上からでも分かるその無計画な機械化ぶりは、彼が肉体の欠損が当たり前になるような状況下で長く生きてきたことを物語っている。戦場でのずさんなサイバー化の後遺症で、サイバー除去もアップグレードも不可能となった、くず鉄同然のサイボーグだ。

戦争の終結した後も一般社会に適応できず、戦場を求め彷徨った果てに行き着いたのが、かつての戦争で敵だった日系企業、千早重工の社員として生きる道だった。自分がもはや戦いの中にしか生きられない身だと知りながら、今もどこかで失った平穏への憧憬がくすぶり続ける、悲しき残党兵である。



クグツ◎、カゲ、カプトワリ●

能力値：

♠理性 8 / 13 ♣感情 0 / 13
♥生命 7 / 12 ♦外界 6 / 10

消費経験点：74

ブランチャ：

カプトワリ／マーセナリィ：2 L v

技能：

〈射撃〉〈知覚〉〈自我〉〈隠密〉
〈売買〉〈社会：ミトラス〉
〈社会：軍事〉〈社会：企業〉
〈コネ：クーゲル〉など

特技：

〈仕込武器〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈死点撃ち〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈クイックドロウ〉 3 ♠ ♣ ♥ ♦
〈ピンホールショット〉 7 ♠ ♣ ♥ ♦

アウトフィット：

パンサー、フラッシュドライブ、仁王、
アイ・オヴ・ザ・タイガー、
イア・オヴ・ザ・ドラゴン、
ベーシックフレーム、韋駄天、
ドラッグスタビライザー、オートマン
(※以上サイバーウェア全て『1st』装備)
BBマキシマム、モータルストーム、
ゴーストコート、ワイルド・ゴート、
I ANUS、ポケットロン、トレーサー

“至誠官” キョウ

「護るべき市民を放つていられるほど、僕は人間できてないみたいだね」

特務警察ブラックハウンドの、総務部・隊長付特別室に属する若き隊員。この部署は、諸事情から現場に出したくない隊員を飼いかしにするための、いわば閑職とされている。

彼は元々、機動捜査課という前線で捜査を行っていた。正義感に溢れ、捜査能力も優秀、勤務態度も誠実というイヌの鏡とも言えるべき青年が、閑職に放りこまれたのには訳がある。

一部の人間しか知らないが、キョウは、N◎VAの市政の頂点に立つ司政官・稲垣光平の息子なのである。この街の王の血縁者を危険に晒す事を避ける為、彼はデスクワークに留め置かれたのだ。しかし、情熱溢れる彼はそこで燻り続ける運命を拒んだ。税金を無駄に使いたくないという理由でウェットであった彼は、事あるごとにその体質を利用して監視システムを騙し、今でも最前線に立ち続けている。



カブト、フェイト●、イヌ◎

能力値：

♠理性 7 / 14 ♣感情 4 / 12
♥生命 6 / 13 ♦外界 4 / 9

消費経験点：69

ランチ：

フェイト/クライムファイター：1Lv

技能：

〈知覚〉〈白兵〉〈射撃〉〈運動〉
〈交渉〉〈自我〉〈社会：警察〉
〈コネ：稲垣光平〉〈コネ：レイ〉
〈コネ：下北メル〉など

特技：

〈自動防御〉 1 ♠ ♣ ♥ ♦
〈ディフレクション〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈警報〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈シャープアイ〉 7 ♠ ♣ ♥ ♦
〈バッチ〉 3 ♠ ♣ ♥ ♦

アウトフィット：

ショックボタン、P10、
マグネット・フォース、
ブラックハウンド制服、
チェーンメイル、ガードコート、
(※以上、ベルソナデータバック記載装備)
VRコンタクト

ライフバス：ウェット

ナーサリーライム
“**電腦童謡**”

フィオーリーナ



最近になってN◎VAに現れた、新鋭の電腦ハッカー。ニューロとしては一流の腕を持つにも関わらず、その気紛れさや無計画ぶり、人を喰ったような態度、更にはお伽噺のキャラクターを模した自律プログラムを使うなどの幼い特徴から、ニューロキッズであろうと目されている。犯行自体もイタズラと断言する程度のもので多く、危険視されることはあまり無い。

実のところ、彼女はある企業研究所で人為的に生み出された幼いA Iアンドロイドだ。非道な実験の“被検体”であった彼女は、2年前にその研究所を脱走した。過去の記憶は電腦から消し去りはしたものの、人間に対する憎悪や恐怖は人格データから消えなかった。お菓子とクッションで埋め尽くされた自分だけの砦に閉じ籠もり、人との交流を極端に嫌う、“森奥の魔女”のごとき少女である。

「人間なんて、みんなくっだらなわ。
このベリーのタルト以外はね！」

ミストレス、マネキン●、ニューロ

能力値：

♠理性 4 / 12 ♣感情 8 / 15
♥生命 3 / 8 ♦外界 6 / 10

消費経験点：66

ブランチ：

マネキン／ウィッチ：2 L V

技能：

〈電腦〉〈交渉〉〈知覚〉〈自我〉
〈社会〉ウェブ〉〈社会〉テクノロジー
〈コネ：ティンカーベル〉
〈コネ：アルファ=オメガ〉など

特技：

〈声援〉 4 ♠♣♥♦
〈人使い〉 2 ♠♣♥♦
〈一期一会〉 2 ♠♣♥♦
〈アドレナライズ〉 1 ♠♣♥♦
〈サポート〉 2 ♠♣♥♦
〈ストリームマップ〉 3 ♠♣♥♦

アウトフィット：

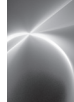
マジシャン、
MATRIX（Dパッチ）、スピード、
シーカーズ、サポート×サポート、
住居：砦（フォートレス）

ライフパス：A I

オープニングフェイズ

オープニングシーン

失われた光

シンブレイヤー…ミゲル
シンカード…エグゼク（正）／宿命

千早重工査察部、後方処理課。栄華を極める巨大企業複合体の中でただ一つ、ほの暗い戦場であり続ける、非合法工作活動を司る部署だ。

その日、後方処理課に一人の新人が配属された。戦場に似合わない、きらきらとした瞳をした女性。

「ミゲル。貴方には彼女……芽華の技術指導をしてもらいます」

後方処理課長、早川美沙にそう命じられたのは、全身のおおよそ9割を無節操に義体化した男だ。ミラーシールド越しに、その少女のようにも見える姿を見る。

「私に、新人の育成ですか」

わずかに、その表情に困惑の色が漏れる。

「彼女は、会長自らのスカウトにより入社した期待の新人よ。特に、サイバウエアの扱いに卓越した才能を持っているわ。彼女に、それらの戦場での扱い方を教え込むのが、貴方の仕事です」

（機械は機械に預ける、ということか……）ミゲルは自嘲気味な言葉を、思考にのみ押し留めた。

「承知しました。仕事ならば是非ありません。及ばずながら、

微力を尽くしましょう。芽華さん、以後よろしくお願いします」
「はいっ！ ミゲル先輩、ご指導よろしくお願いします！」

芽華と呼ばれた新人は、ミゲルに威勢よく礼をした。

R L…最初はミゲルのオープニングです。数年前の過去回想シーンから。貴方は、後方処理課に配属になった芽華という新人の指導教官の任を命じられます。千早の暗部には似つかわしくない、覇気のある声と瞳の輝きが特徴的な若い女性ですね。

ミゲル…こんな娘に、戦争の術を教えろというのか。

R L／芽華…「私は、ちっけな自分が、誰かの役に立てるなんて思ってもいませんでした。だから、こんな機会を与えて下さった千早重工には本当に感謝しています」

ミゲル………誰かの役に……。と言いかけるが、口を閉じる。こんな娘に昔の自分を重ねるなど——ひどい感傷だとしか、言いがたい。

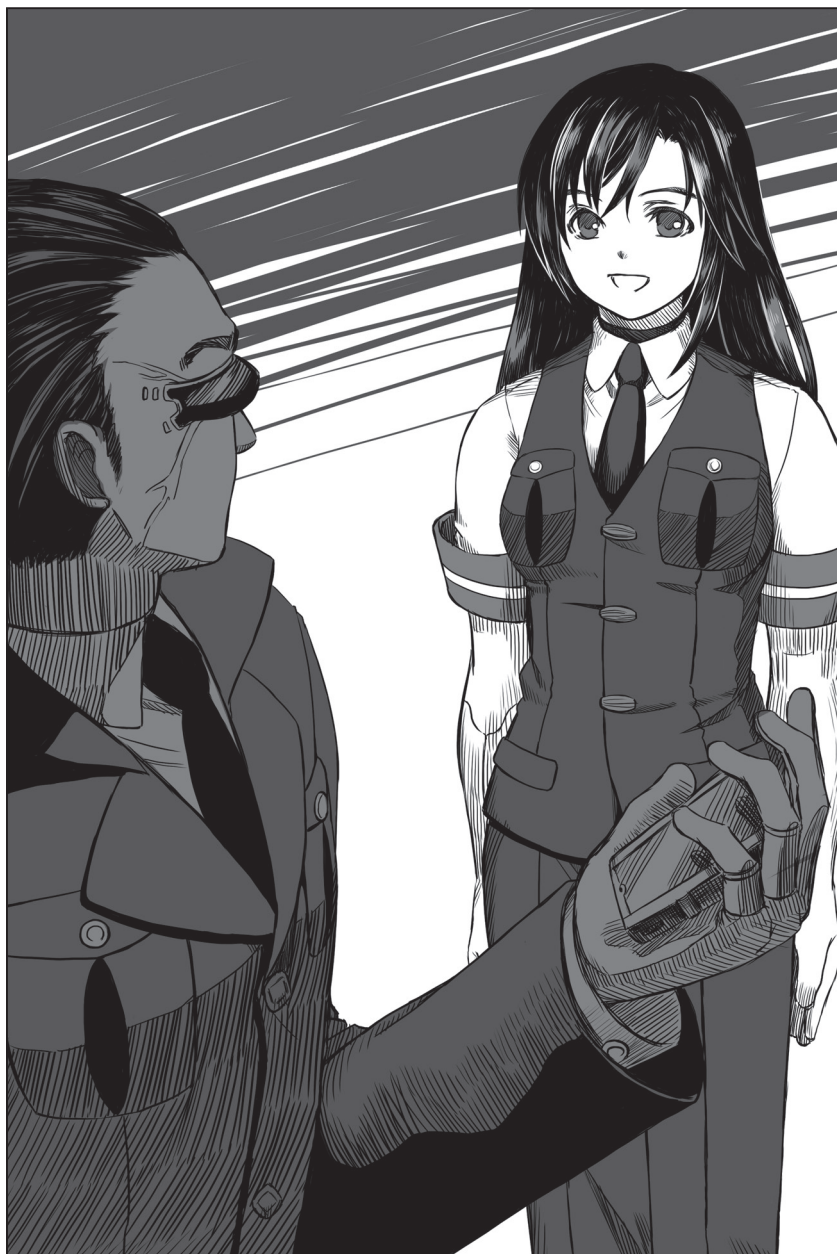
R L…彼女は素直で飲みこみが早く、瞬く間に成長して行きました。成長と共に、新しい装備が宛がわれ、彼女はそれらのことごとくを使いこなした。

フィオリナ…ニューロ！（＊）大躍進じゃない。

R L…やがて実戦に投入され、着実に戦果をあげて行きました。しかし、彼女が体を鋼鉄に置き換えるたびに、彼女の目から光が消えていくのを、貴方は感じます。

キョウ…戦場に出るんだ、そうなるだろうな……。

「ニューロ！…すごい！ という意味の、ニューロエイジ独自の感嘆詞。」



RL／芽華…「先輩。今度、全身義体に入る事になりました」

ミゲル…情報を確認していたポケットロンから少しだけ顔を上げ、また視線を下に戻す。「貴方なら、問題ないでしょう。義体の性能を十全に発揮できるはずです」自分で自分の言葉が、薄っぺらに聞こえて仕方がない。

RL／芽華…「私、今まで何も取り柄が無くて、無為な人生を送ってきました。でも、サイバーウェアのお陰で、人の役にたてるようになったんです」

ミゲル…「……」

RL／芽華…「ずっと変わりがなかった。その夢を、サイバーウェアは叶えてくれた。その扱い方を、戦い方を教えてくれた先輩には、本当に感謝しています」彼女はそう言っ、始めの頃より随分弱々しくなった笑顔を君に見せます。

ミゲル…「……私は、ただ基本的なことを教えただけです。そこまでの力を得たのは、貴方の努力と才能によるものですよ。近年の義体の技術革新はすさまじい。きっと今まで以上の成果を発揮できるでしょう。だから——」

「……無理に入る必要は、ありませんよ」

ふと口からもれだした言葉。前後が全くつながっていない。

「……先、輩？」

馬鹿か。ミゲルはゆっくりとかぶりを振った。

「いえ、何でもありません。ただ——」

言葉を探すが、何も見つからない。結局、最後の言葉は、酷く月並みなものだった。

「くれぐれも、気を付けて」

「……はい。行ってきます」

軍用全身義体に入った芽華は、その桁違いの性能をフルに引き出し、驚くべき戦果を上げた。……しかし、その目覚ましい活躍も、ほんの数カ月の間で途切れる。次第に彼女は、変わり果てた自分の姿に、本来の「自分」を見失っていった。徐々にその動きはぎこちなくなっていく、目からは光が完全に失われ、最後には、任務中に一歩も動けなくなってしまった。

その姿を、ミゲルはすぐ傍で見ている。しかし、次第に壊れていく彼女に、ミゲルは何もしてやる事は出来なかった。

——程なくして、彼女は戦力外通告を受け、社を去った。

RL…時は現在に戻ります。舞台は早川課長のデスクの前。

RL／早川…「ミゲル。芽華を、覚えているかね？」

ミゲル…「……ええ」胸中にこみ上げる、苦いものを押さえつける。私が壊したも同然の娘。……だが、もう過去のことだ。

RL／早川…「……彼女がテラウェア（*）の手に下り、何らかの策謀に関与しているとの情報が入りました」

ミゲル…「——まともな活動が可能な状態であったとは思えません」これまで似たようなケースは何度も見てきた。あれはもう、二度と元には戻れない姿だ。

RL／早川…「そうね……でも、万が一にも、壊れてしまった彼女が我が社の脅威となる事は防がなければなりません。ミゲル、貴方がやりなさい」

ミゲル…「……責任を、取れと？」

RL…貴方は社会に従っただけです。責任はありません。ただ、早川課長は「貴方が彼女を、一番知っている。だから、……貴方が、やるべき事なのよ、これは」そう、君に告げます。

キョウ…悲しい結末しか見えないな、この始まり方は。

フィオリナ…随分傷を挟られてるわね、ミゲル。

ミゲル…ミラーシェードに表情を隠す。「承知しました。仕事ならば——是非も、ありません」くず鉄と成り果てる前に終わらせてやるのが、せめてもの情け、か——。

オープニングシーン2

わたしはここにいます

シンブレイヤー…キョウ
シンカード…クロマク（逆）／愚行



数時間前まで、平和な公園だった場所が、黄色いKEEP OUTのテープで封鎖されている。

つい先刻、白昼堂々と自爆テロが行われたのだ。周囲は一面の焼け野原。救急車がけたたましいサイレンと共に重傷者を運び出す中、警官隊が現場を検分している。

「……酷いな。ああ、すまない、ブラックハウンドだ」

本来、現場に立つ立場では無いはずの至誠官、キョウは、途中で止められないよう、あえて民間警察（*）が張っている

場所を選んで、課名を名乗らずにハウンドの隊員の証である金バッジを見せ、現場へと入っていく。手慣れた様子であった。

そんなキョウの肩を、後ろから叩く男が一人。外から見ても義体とわかる鋼鉄の体。胸には同じくハウンドのバッジ。

「お前、またこんな現場に顔出して。いいのかよ、隊長付特別室の警部補どの？」

RL…次はキョウのオープニングです。ダーザイン・テロの現場検分に来ると、貴方は元・同僚の機動捜査課隊員、アルフレッドに話しかけられます。

キョウ…「鋼鉄官」だけに言うこともカチカチか、アルフレッド。俺……僕たち警察の基本は現場、だろ。出てきたくもなるさ」と言って、バッジが悪そうに頬をかく。

RL／アルフレッド…「変わらねえな、お前さんも。ほら、今のところの状況のまとめだ」来ると思っただけで準備しておいたのでしょう、携帯端末で閲覧可能なデータが送られます。

キョウ…「いつもすまないな」

RL／アルフレッド…「全く、酷いもんだ。死者3名、重軽傷者42名だよ。ふざけてやがる」

ミゲル…想像以上に恐ろしいテロですね。

キョウ…「今回もまた、サイバーサイコか？」資料に目を通す。

テラウェア…世界有数のメガ・コーポの一つ。トロンやソフトウェア業界において他の追随を許さない、新進気鋭の企業。千早のライバル企業である。
SSS…シノハラ・セキュリティ・サービス。役立たずと評判の民間警察。

RL／アルフレッド…「ああ……間違いない、今回もッダーザイン・テロッだ」

フィオリナ…「ねえ、ダーザイン・テロって、一体どんなテロなの？　そもそもダーザインって何？」

RL…「存在証明テロ」。近年、爆発的に増加した突発的なテロ事件です。サイバー化によって自己認識障害を起こした一般人達が、突発的に周囲の人間を巻き込んで自殺するというものです。自爆テロの形式を取る事が多い。

RL／アルフレッド…「犯人は『ワタシはここにいる』と叫びながら周囲を巻き込んで自爆。バラバラになった遺体……つか義体か。一応、回収されたんだが、見るか？」

キョウ…「頼む、とハンドサインを送ったあと、ふと顎に手を当てる。『しかし、僕がわからないだけかもしれないが……自分ってのはそんなにあやふやなもの、か？』」

RL／アルフレッド…「さあ、な。サイバー化の弊害だって話だが、それにしたってこれはおぞましい」ブルーシートをめくると、そのボロボロの義体には不気味な笑みが貼り付いている。

キョウ…「うへ、という顔になる。『……これもいつも通り、か。3人殺して笑ってるものなあ。で、これから機捜はどう動く？』」

RL／アルフレッド…「冴子課長はいつも通り、女の勘（*）でこの事件に俺をあてた。だがまあ……正直行き詰りだな。手掛かりが無い。鑑識課も個々の事件に関連性は無いだろうと結論付けた。俺一人には、荷が重いぜ。いつも通り、手伝っても

らえると助かるんだがな」

キョウ…「おいおい、それじゃ僕がいつも部屋を抜け出してるみたいだろ」

フィオリナ…「や、いつも部屋抜け出してるんでしょ？」

キョウ…「馬鹿言え。『職務に忠実なキョウ警部補は今もちゃんと部屋にいるんだぜ』そう言って、支給のGPS付きではなく、自費で買った私用のポケットロンを見せる。

フィオリナ…「うわ、あつきた！」

RL／アルフレッド…「ウエットつてのは不便なんだか便利なんだか分かんねえな。ま、いつも通りよろしく頼むぜ」3シルバーのキャッシュ（*）が手渡される。ハウンドの枝（*）の付いていない、冴子課長の私的捜査費です。

キョウ…「いや……お前が持つておけよ」手渡されたキャッシュを押しつける。「一応ルール違反だしな。いつも通り働こうぜ。俺が捜査に参加して、解決が早まるならそれでいいさ」

RL／アルフレッド…「あ、ああ。……しかしまあ、ホント、俺には荷が重いぜ……」そう言って、アルフレッドは死体（*）に目をやります。その表情は、いつもとどこか違う。浮かない表情でした。

キョウ…「テロも勿論だが、アルフレッドの様子も気にかかるな。

RL…ではシーンを切りましょう。

アルジャーノン・レポート

シーンプレイヤー…フィオリーナ

シーンカード…カリスマ(正)／啓蒙



オープニングシーン3

「ロンドン橋落ちた、落ちた、落ちた」

素っ頓狂な歌声が響く部屋の中は、異空間だった。

色とりどりのクッション、シート、ぬいぐるみ。ケーキにお菓子が淹れたての紅茶。窓の代わりに様々な大きさの古い液晶モニタ。ぴかぴか光るトロンたち。それを部屋中に繋ぐケーブル。全部がてんでバラバラで、それらがバステル調のモザイク模様を形成している。

「ほーんと人間ってつまらない！ 防壁は情のおうちみたいだし、あるのもキャンディよりも安いような情報ばかりだし」そう言いながら、城の主は電脳エレクトロニクスの海からアウトロン(＊)した。手近なケーキに手を伸ばすと、ぬいぐるみ型パディ(＊)が紅茶を入れてくれる。

「テラウエアのベストセラー、スペシャライズドは、貴方のサイバーライフをより快適に、よりプロフェッショナルなモノに押し上げます。今なら新規導入キャンペーンで、通常価格より……」

つけっぱなしのDAK(＊)から流れるコマーシャルに目もやり、心底つまらなそうにそれを消す。

「ホント、つまらない情報ばかり。クラック・デ・シュバリ

エ(＊)の新作タルトでも食べなきゃやってられないわ！」

RL…最後はフィオリーナのオープニングです。

フィオリーナ…待ちくたびれたわ！

RL…自宅でウェブをサーフィンしていた貴方の元に、落ちこぼれの「甘ちゃんトーカー」ことラルフ・ブレックナーが訪ねてきます。

フィオリーナ…へ……？ えっと、自宅に来るの？

RL…はい、自宅にです。

フィオリーナ…ちよつと待って、わたし、今、下着姿なんです。ていうか自宅に来るなんて聞いてないっ！

RL/ラルフ…「フィオ！ ついに見つけた、ビックニュースさ！ ある研究者が書き上げた論文を、利益の為に闇に葬った超巨大企業！」と、興奮した様子で一氣にまくし立てます

フィオリーナ…「ふぎやつ……んぐっ!?」突然の来客でのにケーキが詰まります。目を白黒させる。

女の勤…機動捜査課長・千早芽子は、自身の判断に3つの理由を挙げる事有名。最後の一つが女の勤なの定番だ。ちなみに、よく当たる。

キャッシュ…電子貨幣。カッパー、シルバー、ゴールド、プラチナ順で高くなる。(実際は貨幣そのものではないが、煩雑になるため詳細説明は省く)

アウトロン…ウェブへの接続を切ること。接続する、イントロンの対義語。ハイドロイドやサイバーウェアを制御するAIのこと。この世界ではあらゆるものはパディにより管理されている。同音語として、相棒、お友達などの意味も。

DAK…多機能端末。住居全般の管理やテレビ、通信機としての機能も持つ。クラック・デ・シュバリエ…新麻布に店を構える、一流レストラン。

RL…ラルフもラルフで大慌ての様ですね。「つてうわあああ
あ!? フィオ、何て恰好をしてるんだ!」顔真っ赤。

フィオリーナ…「いきなり入ってこないでつて……いったでし
よううう!」ラルフの顔面にドロップキックをかます。

RL／ラルフ…「ぎゃああああああ」綺麗に入りました。ぶ
っ倒れるラルフ。

キョウ…何だこれ。本当に前の2シーンと同じアクトか。

ミゲル…早速頭が痛くなってきましたね……。

フィオリーナ…「まったく! 貴方にはデリカシーつてものが
無いのかしら!」

ミゲル…AIも、下着姿を見られるのが恥ずかしいのですか。

フィオリーナ…当たり前でしょう!? メインホストを直接視覚
に捕らえられるのは、あなた達が脳髓^{のうすい}直接見られるのと同じく
らい恥ずかしいの!

キョウ…僕はウェットだからか、彼女が何を言っているのかよ
く分からないんだが。

ミゲル…いえ、私にも分かりません。

RL…えい……ごほん。仕切り直しましょう。少し後。服を着
たフィオの前にラルフが正座している。

RL／ラルフ…「ウェブでネタを漁^{あさ}っていたら偶然見つけたん
だ。『アルジャーノン・レポート』という論文が、著者と共に
闇に消されたという噂をね」

フィオリーナ…まだプンスカしながら、クッションの海から顔
だけ出して話聞いている。「なにそれ。アルジャーノン・レポ
ー
ト?」

RL／ラルフ…「う、うん。内容は詳しくは分からないだけ
ど、どうも義体化^{サイバニゼーション}に関する論文らしいんだ」彼が言うには、そ
れが企業の利益を損なう内容だったらしく、著者もろとも消さ
れたらしい。

フィオリーナ…「ふうん。いつもツつまらない情報しか見つけ
られないあなたが? そんな情報を偶然に、ねえ」

RL／ラルフ…「これが本当だったら、大問題だよ! 企業の
行き過ぎた利潤主義^{りえんしぎ}、非人道的な偽装^{ごうさう}工作!」火がついたよう
に熱く語り始めます。

ミゲル…身につまされる話ですね。

RL／ラルフ…「だから、フィオ。君に協力して欲しいんだ。
一緒に、企業の横暴に立ち向かうよ!」

フィオリーナ…「こっち見んなつ!」とりあえずむかついたの
でクッションをラルフの顔にぶん投げる。「まったく……消え
た論文って、そんなのいくらあるかわかったものじゃないわ
ホント、あなたつてあてにならない甘ちゃんね! でも『アル
ジャーノン・レポート』って名前はちよつと気になるかも……
いいわ。あなたがどうしてもつて言うんなら仕方ないから手
伝つてあげる」

RL…では、ラルフのなけなしの依頼費2シルバーを貴方に手
渡したところでシーンを終了しましょう。これでオーブニング
は終了です。

リサーチフェイズ

リサーチシーン

仕事の時間

シンブレイヤ・ミゲル
シーンカード・エクセク（正）／宿命

イエローエリアの公園。ミゲルはベンチに腰掛け、ファーストフードの包みを開ける。

お世辞にも栄養バランスがいいとはいえない代物だが、仕事の中には愛用していた。製造から注文、受け取りまで、人の気配が漂わないのが、自分のような人間には合っているのだから、ミゲルは思っている。

野戦食じみた味わいの合成食糧を口元に運びながら、ミゲルはこれまでに追った彼女——芽華の足取りを確認していた。

RL…ではリサーチフェイズです。まずはミゲルのシーンにしましょう。

ミゲル…芽華についてリサーチします。彼女が社を去ってからどうなったのかを知りたい。

RL…「社会…企業」か「コネ…芽華」で判定を下さいます。

ミゲル…「社会…企業」で判定します。「コネ」でも判定できるのですが……今は使う気になれません。クラブのJに報酬点7点と銀の目（*）を使用して、達成値は18。（*）

RL…十分です。ではまず基本情報の確認から。元、千早重工

後方処理課の作業員です。「22本の牙」の一人に数えられるほどの実力者でしたが、重度のサイバー・シンドローム……義体化に伴う自己認識障害を患い、戦力外通告を受けました。

フィオリナ…ちよつと待って！ 22本の牙って……！

キョウ…千早グループの中でもトップクラスの實力をもった先鋭集団だな。うちの機動捜査課長・千早冴子もその一人らしい。なるほど、敵の手に渡ると困るわけだ。

RL…彼女はサイバーウェアに対する親和性が常人より遥かに高く、その扱いは神がかり的と言われていました。

ミゲル…なるほど、先天的な特異体質だったわけですね。

RL…そうです。現在はテラウェア社のスカウトを受け、何らかの計画に加担しているそうです。その計画の詳細は不明ですが、何故か「ダーザイン・テロ」と呼ばれる事件の現場でよく姿を目撃されている。

ミゲル…テラウェアにテロ。おおよそ考えうる限り最もロクでもない単語ばかりが顔を出しますね……。

フィオリナ…ミゲルは開始早々、胃が痛い展開ね。

RL…達成値が芽華の「制御値」（*）を超えたので、彼女の「アドレス」（*）が判明します。

ミゲル…「……やれやれだな」ぼつりと呟いて、手元の包み紙をくしやりと握りつぶします。

銀の目…ウェブ上の情報検索サービス。情報収集の達成値を上昇させる。

判定…トキヨーンOVAというゲームでは、サイコロではなく、トランプを使って判定を行う。詳しくはルールブックを参照。

制御値…受動的な能力値。他者からの行動への抵抗力。

アドレス…連絡先や居場所のこと。

キョウ…ん、ここは出ておこう。登場判定（*）をしたい。

RL…《社会…N◎VA》か《社会…ストリート》でどうぞ。目標値は10出ればOK。

キョウ…《社会…ストリート》で達成値が10。「外でキャンディとは、随分、さうりまん、らしいランチャじゃないですか」ブラックハウンドの制服にラフな上着を着て登場する。

ミゲル…一瞬、ミラーシールドを押さえます。不意打ちで外れかけたクグツの仮面を被りなおし、「時間が無いときには、こういういたものが重宝するのですよ。警部補もお仕事中ですか？」

キョウ…「そう言うこと、です。最近話題の『ダーザイン・テロ』で」苦笑して。「なので……出来ればあなたには会いたくなかった。そちらがお仕事中じゃなければいいんですがね」

ミゲル…「——なに、さうりまんは24時間が仕事中というものですよ」曖昧に濁して答えます。

フィオリナ…なんだかギスギスしてるわね。

ミゲル…お互いの職業柄、どうしても。しかし、わざわざ接触を図ってきたのがただの世間話とも思えませんね。少し踏み込んでみますか。「しかし、あのテロは物騒な話ですね。噂程度には聞いていますが……調査の方は、ご順調で？」

キョウ…「どうですかね」共通項目を確認するという演出で、ダーザイン・テロについてリサーチしよう。

RL…《社会…ストリート》か《社会…警察》でどうぞ。

キョウ…《社会…ストリート》で達成値13。

RL…ご存じの通り、近年N◎VAで断続的に起きている一連の無差別自爆テロの総称です。犯人はいずれも義体化由来自己

認識障害を患った一般人で、多くは「自己の存在を証明するため」と称して多くの犠牲者と共に自害しました。

キョウ…まるでサムライのハラキリだな。

RL…サイバーウェアが浸透し始めてからこの方、似たような事件は起こり続けてはいましたが、2〜3年前からその頻度が急激に増え始めています。機動捜査課ではウィルスなどによるサイバーテロの可能性にもらんでいます。電脳情報流上には痕跡はなく、また犯人が全て自爆しており検死不可能な状態のため、足取りは掴めていません。

キョウ…「と、いう感じですよ。最近じゃ、千早のIANUSも随分普及してるみたいです」

ミゲル…「——この街の治安が脅かされている状況は、弊社といたしましても誠に遺憾です。迅速な問題解決のため、自効努力を惜しむべきではないでしょうね」

キョウ…「そうして頂けると助かります。ただまあ、例えばあなたの職業が何であれ、僕たちハウンドにとっては護るべき市民の一人だ、ってことは覚えておいてください」と言って笑う。

ミゲル…彼は見た目ほど融通の利かない男ではない。少し回りくどい言い方でも意図は伝わる、か。「うちの商品はおかげさまで多大なシェアをいただいておりますが、最近ではソフトウェアの製造元も多様化の一途です。特に『北米』（*）製品の伸展具合は目を見張るものがある」とひとりごとのように呟いて、立ち上がる。

キョウ…なるほど、北米……ね。

ミゲル…「ともあれ、私も事態の解決を心よりお祈りしており

ますよ。この街の「善良な市民」のひとりとして」そう言い、会釈してその場を去ります。

RL…では、シーンプレイヤーが退場したのでシーンを切りましょう。

RL…舞台裏です。シーンに登場しなかったフィオリーナは舞台裏判定（*）をどうぞ。

フィオリーナ…『アルジャーノン・レポート』について調べるわ。どんな技能で調べればいい？

RL…〈社会…ウェブ〉〈社会…テクノロジ〉などですね。目標値は少し高めで17。

フィオリーナ…17？ そんな余裕よ。わたしをくだらない人間と一緒にしないでよね。〈電脳〉〈社会…ウェブ〉〈ストーリーマップ〉（*）で達成値は17ピッタリ。

RL…流石に情報の申し子だけありますね。『アルジャーノン・レポート』は、義体化のリスクに関するレポートのようです。著者の名はハロルド・シュトラウス。内容は既に失われており、ログすらも発見できません。ハロルド本人も現在行方不明となっています。

フィオリーナ…著者の名前が出たのは大きいわね。ここから情報を絞れるわ。

電脳魔女のお茶会

ワイザード・ガール

シーンプレイヤー…フィオリーナ

シーンカード…タタラ（正）／洞察



電脳^ウの海はフィオリーナの遊び場だ。企業だろうとブラックハウンドだろうと、トリック・オア・トリートの一声もなしで行ったり来たり。卵^{ハンプティ・ダンディ}男やインディアン人形、童話を模した様々なプログラムがウェブ上を駆け巡る。

そして集まる情報をお菓子の家で待つ魔女^{ワイザード}。子分たちが持つて帰った情報を眺めて、一人で満悦の様子だ。

「ハンプティはすぐ転んで宝を落つことしちゃうから、あとでお仕置きね」

RL…次はフィオリーナのシーンにしましょう。

フィオリーナ…さっそくハロルド・シュトラウスについて調べらわ。ちょっとした面白い情報があるかしら。

RL…〈社会…ウェブ〉か〈社会…テクノロジ〉、あとは〈社会…北米〉でもリサーチ可能です。目標値は15、18でそれぞれ

登場判定…シーンに登場する判定。登場しなければ、会話などは行えない。

北米…北米連合の威光を大きく受けているテラウェアの暗喩だ。

舞台裏判定…シーンに登場していなかったキャラクターが、そのシーンの裏で何をしていたのかを表す判定。リサーチや装備の購入などが行える。

＜ストーリーマップ＞…ウェブ上の情報流から、必要な情報を汲み取る「ニューロ」の特技。

リサーチシーン2

情報が出ます。

フィオリナ…(電脳)「社会…ウェブ」(ストリームマップ)で判定するわ。スピードの9を出して達成値は21。

キョウ…安定して高い達成値が出るな。

RL…ハロルドは北米出身のタタラです。サイバー精神医学の専攻で、サイバー化による精神障害、いわゆるサイバー・シンドロームについて研究をしていました。「過剰なサイバー化により、誰もがサイバーサイコになる」という過激な発言を繰り返し、サイバネティクス企業に消されたと言われています。ただ、彼自身、詳しい経歴は謎に包まれており、そもそも実在したかどうかすら不明です。

キョウ…出所がよく分からないレポートだな。

フィオリナ…サイバネ企業の偽装工作ねえ。真つ先に思い当たるのは、やっぱり千早重工よね。ちよつとデータベース漁らせてもらおうかしら。

ミゲル…^{キョウ}「オロズ」に行くかのような気軽さでうちのサーバーを荒らされては困るのですが…。

RL…千早のサーバーを漁っても、めばしい情報は見つかりませんね。ただ、N◎VAの街ではハロルドの言葉を裏付けるかのように、^{ミゲル}「ダーザイン・テロ」が起きている事は分かります。フィオリナ…「ふうん。ダーザイン・テロ……? へんなの」情報をべろりとなめてもタルトほどにもおいしくない。つまんないから捨てちゃおうかな。

ミゲル…流石に自社サーバーが荒らされているのを見えぬふりは出来ませんね。フィオリナとも合流しておきたいですし、

登場判定をします。だが、手札が悪い……。

フィオリナ…あら、じゃあわたしが(コネ)判定(※)で呼び出すわ。電脳空間^{サイバネティックスペース}でお茶会でも開いているから、入って来てちょうだい。なんなら三月ウサギ^{マーチウサギ}に案内させましようか?

ミゲル…案内は要りませんが、呼び出してもらえたのは助かります。電脳空間上でしたね。では、特徴の無いビジネスマン然としたアイコンで登場します。「お邪魔致します。……お久しぶりですね、フィオリナさん。ご息災のようで」

フィオリナ…「あらあらあら! ブリキのお人形さんね。おもてなしをしなくっちゃ。お菓子を紅茶、タルトにキャンディはいかがかしら?」

キョウ…ブリキの人形……? ミゲルの事か?

ミゲル…どちらも^{キヤンディ}「くず鉄」には変わりありませんね。「いえ、結構です。合成食品^{キヤンディ}なら先ほど済ませて来たので」侵入^{インフィльтрация}している所を見つけたのに能天気な様子のフィオリナに、やや苦い顔をしながら。

フィオリナ…「あら残念。でも、貴方の会社のサーバーってつまらないわ、美味しい情報^{スウィートな情報}の一つも見つからないんですもの」(交渉)「(一期一会)(※)で判定をしておくわ。達成値は14。コネを2レベルで取得するわね。」

ミゲル…「感情」で取得されては、彼女に対する憂慮^{憂鬱}を隠しておけませんね。「——貴方は少し、身元を隠すことを考えた方がいい。企業サーバーへの不法アクセスは違法行為です。」

コネ判定…対象をシーンに登場させる判定。

(一期一会)…対象の(コネ)を取得するマネキンの特技。



しかし、貴方が情報屋として我々に協力して下さるのであれば、今回の件を不問にしましょう」

フィオリーナ「わたしにそんな脅しは通用しないわ。でも……そうですね。「いいわ。その様子だと貴方、この『ダーザイン・テロ』を追ってるんでしょう？」「わたしはここにいる」だなんて言えるほどの自我を持たない可哀想なお人形さんが、どうしてもこの事件を追うのか興味があるわ。協力してあげる」

「私の居場所は千早重工です。声高に主張するまでもありませんよ」

模範的にそう答えるミゲルは、この無作法極まりない幼い少女に、何故か怒りの感情を持てずにいた。

「自我を持たない可哀想なお人形……それが、紛れも無い真実を言い当てた言葉だったからというもの、ある。だがそれ以上に、あらゆるくびきを物ともせず振る舞う彼女を、ミゲルはどこか眩しく感じていたのだ。

「貴方のご協力に感謝します。どうか、以後よろしく」

「でも、『わたしはここにいる』……か。変なの。死んじやつたら、『わたし』は消えちゃうのに」

握手の手を差し出したミゲルの言葉を、もはやフィオリーナは聞いていなかった。

RL…キヨウは舞台裏判定をどうぞ。

キヨウ…アルフレッドについては調べられるかい？ 少し気になる事があるんだ。

RL…〈社会…警察〉か〈コネ…アルフレッド〉で13も出れば調べられます。

キヨウ…〈社会…警察〉〈バッヂ〉（*）で19。

RL…弱者を凶悪犯罪から守る力が欲しいと、軍用全身義体剣（*）に換装した重装備のサイボーグです。データ的にはゲスト（*）で、スタイルはタタラ、カプト●、イヌ◎。

キヨウ…オープニングで浮かない顔をしていたようにだけど？

RL…この事件の捜査にあたるようになってから、物思いに沈む事が多くなったようです。最近、何か悩みがあるのかもしれませんが、これ以上は本人から聞き出すしかありません。

キヨウ…よし、次のシーンプレイヤーは僕みたいだし、彼に会う事にしよう。

鋼の体、儚き心

シーンプレイヤー…キヨウ
シーンカード…クグツ（正）／維持



アサクサの寂れたファミレスで、キヨウは一人、情報を纏めていた。紙ナプキンにメモ書きをしながら考え込む様子は、まるで旧時代の探偵だ。傍らには、ドリンクバーの不味い合成珈琲。

別段、いい店というわけではない。しかし、誰かと待ち合わせ

せをする時、キヨウは自然とこの店を選んでしまう。それは昔、父親やその友人と、よく来た店だからだろうか。

キヨウ…行きつけの店で、アルフレッドと合流して情報交換する。あいつが来るまでに、ある程度情報を調べて纏めておいた事にしたいな。RL、ダークザイン・テロの犯人たちの、共通点については調べられないか？

RL…可能です。(社会…警察)などで判定をどうぞ。15出れば十分です。

キヨウ…(社会…警察) (バッヂ)で17。

RL…鑑識課からの報告通り、特に目立った共通点は見られません。「電脳化しており、義体化率が高い」「自己が希薄である」程度ですね。年齢、性別、職業や市民ランクなどについても、特に偏りは見られません。他に共通点と言え、全員が「スベシヤライズ (*)」を導入していた事ぐらいです。

キヨウ…スベシヤライズ？

ミゲル…テラウエアから発売されている、I A N U S の機能を拡張するニューラルウエア (*) です。

キヨウ…「ふうん。スベシヤライズ、ねえ。…北米、か」と、冷めたコーヒースプーンをすりながら呟く。

RL…ではそこに、アルフレッドがやってきます。彼が席に着くと、義体の重みで床が僅かに軋みます。「よう。どうだ、キヨウ。こっちはからつきし」

キヨウ…「お疲れさん。こっちはこんなトコだな」上に乗せていたプリンパフェごと、紙ナプキンをアルフレッドに押しやる。

「やるよ。思い出して頼んでみたんだが、僕には甘すぎる」

RL / アルフレッド…「うへえ…俺もいらねえよ。こんなもん好んで食うのは、あの暴走警官、くらいなものだろ (*)」
 といったナプキンを広げ、キヨウのメモを読みます。しばらく難しそうな顔をしてそれを読み、ため息。「やつば、そう簡単に捜査は進まねえ、か」

キヨウ…「…ん？」「いや、進んだら？」お前何見落としてるんだ、という顔になる。

RL / アルフレッド…「そうか？ 結局、原因や因果関係は分かんねえと思うんだが…なんだ、お前には何か見えたのかよ」
 キヨウ…「ああ、そうか。普通の人間の視点で見たら、普通すぎるのか、これは。」

フィオリナ…「どういうこと？」

キヨウ…「こいつらの導入サイバーウエア一覧をしてみる。全員に共通してるのが2つだけある。一つはI A N U S ……は、まあいい。電脳化する上では必須だしな。問題はこっちな」
 スベシヤライズを指さす。「それ以外には、これだけだ。洗ってみる必要があるんじゃないか？」

ハッチ…警察関係の情報収集の達成値を上げるイヌの特技。

剣…ボビュラーな軍用全身義体。最近では警護用としても人気が出ている。

ゲスト…技能や神業を持つ、シナリオ上重要なNPCのこと。

スベシヤライズ…サブリメント「マターリンク」で追加された装備。任意の技能の達成値を常上昇させる強力なものだ。

ニューラルウエア…サイバーウエアの中で、神経系に装備するもの。

暴走警官、レイ…機動捜査課の暴れ馬とも言われる問題女警官。(力ゼ●、カタナ、イヌ◎) プリンとビールが好物。キヨウとは幼馴染。

RL／アルフレッド…「……は。まさか。お前だって少し調べたなら分かるだろ。スペシャライズなんぞ、今時誰だって入れている。勿論、俺だってだ」スペシャライズは今や、最もポピュラーなサイバーウェアの一つであり、元々その導入率は極めて高いため、事件に直結する原因と判断するのは難しいです。

キョウ…「そうなんだよなあ……」くたり、と身を投げ出して「仮にこれがカギだとしても、これだけじゃ次をどうするってわけにもいかない。まあ、もう少し詰めてみるさ。一般流通品じゃ、機捜は洗いにくいだろうしな」……つと、RL。ここでアルフレッドに《真実》（*）を使用した。

「ところで」

キョウは、そのまま雑談でも続けるかのように、向かいの相棒に問いかけた。

「アルフレッド。お前、なに悩んでんだ」

アルフレッドは一瞬ぼかんとした顔をした後、頭をボリボリかいてバツが悪そうな顔をする。

「ハハ……参ったな、そんなに顔に出たか。感情制御のオプションも積んどくべきだったかな」

RL…いきなり来ましたね……！アルフレッドは観念した、という風に両手を上げて「お前に隠し事なんぞ、無駄だったな。正直に言おう、俺は、怖いんだよ。この事件が」と言います。キョウ…「怖い、か。お前らしくない台詞だな」

RL／アルフレッド…「俺はこの事件に当たるまで、義体化す

る事であんなに多くの人間が自分を見失っちゃうなんて、思ってもいなかった」

ミゲル…アルフレッドも全身義体に換装したフルボグでしたからね、思うところも多かったのでしょう。

RL／アルフレッド…「俺はああは成りたくない。俺は人間のままでいたい。……だけど最近、自分が本当に人間なのか、実感が持てなくなる瞬間があるんだよ」

キョウ…「なるほど、な」言葉を咀嚼するように、しばらく沈黙し。「……僕がわかる、とは言えない話だが。さっきお前が言った通り、この街じゃサイバー化してない方が少数派だろう。そう言う意味じゃ、僕の方が人間から遠い」

RL／アルフレッド…「……」

キョウ…いや……定義の話では、コイツの不安は取り除けないか。「……悪い。詭弁だな」少し遠くを見るように、窓へ視線をやつて。「すまん、力になれないか」

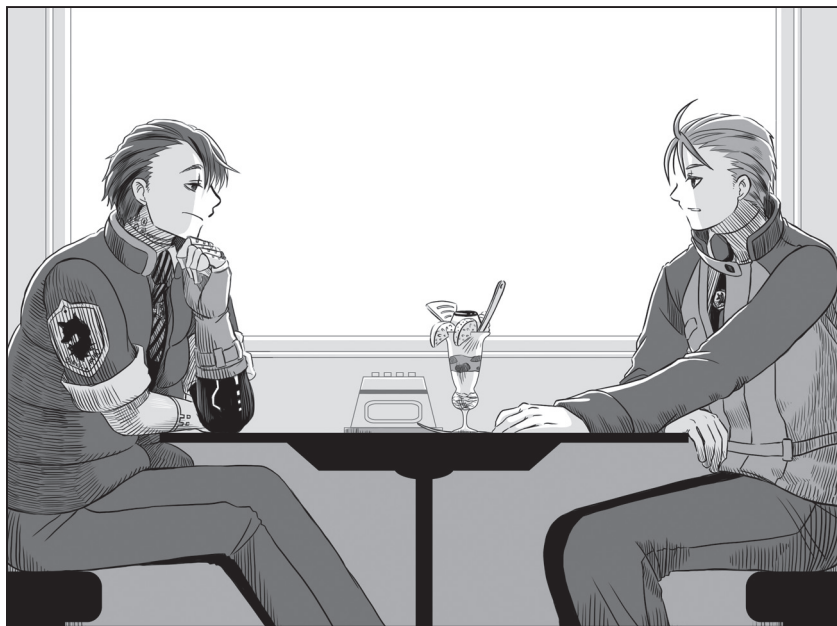
RL／アルフレッド…「そんなことは……ねえよ」

キョウ…「とりあえず、スペシャライズは切つとした方がいいかもしれないな」

RL／アルフレッド…「スペシャライズはI.A.N.U.S.自体を拡張するもんだ。抜かない限り、切ったり付けたりはできねえんだよ」装備の効果が「常時」である為、こういう解釈にしています

キョウ…「そうかい。サイバーウェアつてのも、便利なんだか不便なんだか分かんねえな」

RL／アルフレッド…「だが、まあ……用心にしておくに越し



たことはねえな。キョウ、頼みがある」そう言うと、彼は先ほどの紙ナプキンの裏に何かを書いて、貴方に渡します。「俺の義体の全機能を停止させるパスコードだ。もし、俺がサイバーサイコになつたら、ためらわずに使ってくれ」

キョウ…「最期を頼むなんて、僕も酷い相棒を持ったもんだなおい。……けどまあ、頼まれてやるよ。シルバールスキューの番号も控えとかないとな」なるべく軽い返しになるように言葉を選びながら答える。

RL…ミゲルとフィオリナは舞台裏判定をどうぞ。

ミゲル…そもそも、サイバーシンドロームというのがどうして起こるのか、知っておく必要がありますね。リサーチは可能ですか。

RL…〈心理〉で判定して下さい。「成立」で構いません。

ミゲル…〈心理〉ですか…〈ブランチ・マーセナリイ〉（*）を使用して、即座に4レベルで取得します。達成値15。

RL…「免疫」という言葉をご存知ですか？

フィオリナ…わたし知ってるわ。「自分」と「自分以外」を認識して、「自分以外」を排除する機能……ようは外部から侵入してくるウイルスなんかをやっつける防御機能の事でしょ。

RL…その通りです。サイバーシンドロームは、サイバーウェアに対する免疫異常による精神病です。本来「自分以外」であ

「真実」…真実を聞き出すフェイトの神業。

「ブランチ・マーセナリイ」…歴戦の兵士である事を表すデータ。即座に技能や特技を取得して使用できるようになる。

るはずのサイバーウェアを、自分の一部と勘違いしてしまう事により、人体と精神が齟齬^{そご}を起こしてしまうのです。

ミゲル…その結果、自分という存在が曖昧^{あいまい}になり、自我崩壊を起こす。……というわけですか。

RL…そういう見解が一般的です。

フィオリナ…じゃあ、私はテラウェアについて調べるわ。ミゲルから情報を貰ったから、調べられるはずよね？

RL…《社会…企業》か《社会…ウェブ》で調べられます。10と17でそれぞれ情報が出る。

フィオリナ…《電脳》《社会…企業》《ストリームマップ》で17よ。

RL…テラウェアはご存じの通り、トロン業界では他の追随^{ついで}を許さない実績を上げている、超巨大企業です。近年、壊滅したG.C.I.（*）を吸収し、そこからサイバーウェアに関する膨大な研究資料を手に入れました。これを元に、サイバーウェア業界にも手を出しつつあります。

ミゲル…我が社としては、脅威的な勢力と言わざるを得ませんね。

RL…彼らは、次世代型I.A.N.U.Sを開発し、サイバーウェア業界のスタンダードシェアを握ることを目的としているようです。また、内部で極秘に「ロスストヒューマン計画」というプロジェクトが動いているらしい。

フィオリナ…お、あからさまに怪しそうなキーワードが出たわね。

RL…その内容は《完全偽装^{アングレガ}》（*）で隠蔽されています。

フィオリナ…ますます怪しいわ。待ってなさい、今に化けの皮を剥がしてやるわ！

取り戻せぬもの

シンプレイヤー…ミゲル

シンカード…レッガー（正）／自業

リサーチシーン4

サンライト・ロード。休憩中のさうりまん達で賑わうオフィス街のカフェテラスで、ミゲルは逡巡^{しゅんじゆん}したまま動けずにいた。その視線の先にあった懐かしい顔が、ミゲルの記憶の中の苦いものを呼び覚ましていたのだ。

芽華。壊れた娘。彼女は、数年前にミゲルと別れたその時のままの容姿^{ようさ}をしていた。違っているのは、かつてその瞳に灯っていた光が、今は完全に失われているという事だ。

（へえ、あの娘、昔お兄さんが教えてたんだ。随分大事そうにデータを保管してあるのね）

ミゲルの頭の中に直接響く、フィオリナの声。

「私の電脳^{でんまう}を勝手に漁^{あさ}らないでください……プライバシーの侵害は、あまり褒められたものではありませんよ」

（クスクス。でも貴方、酷い顔してるわね。女の子との感動の再会だっていうのに、あまりに味気なさすぎじゃないかしら）

ミゲルは頭を抱える。だがフィオリナの軽口は、彼にとつ

ては有り難くもあった。少なくとも、気が紛れたお陰で、一步を踏み出す切欠にはなったのだから。

ミゲル…私のシーンですね。芽華の〔アドレス〕に向かおうと思います。

フィオリナ…感動の再会のシーンでしょ、これは出ないわけにはいかないわね。〔電脳〕〔コネ…ミゲル〕を組み合わせて電脳意識体（*）での登場判定をするわね。お兄さんの視覚と聴覚、少し借りるわよ。

ミゲル…お好きにどうぞ。どうせ、抵抗しても無駄でしょうからね。

RL…グリーンエリアにあるオフィスビルが舞台です。貴方の目の前には、かつての姿のままの芽華が居ます。

ミゲル…「……………」無言のまま席に近づき、その向かいに腰掛ける。表情はミラーシェードに隠されて見えない。

RL…芽華は、一瞬何事かという表情で貴方の方を見ます。ボカンとした様子だ。

ミゲル…「コーヒーを」と、通りすがりのウェイトレスに注文して。「いい天気ですね——午後の休憩には、ちょうどいい」視線は合わせぬまま、まるで世間話のような口ぶりだ。

RL…では、少しの間の後、芽華は急にハツとした表情になります。「先輩が、どうして、こんな所に」

キョウ…「……ん？ 何だ、今の間は。」

ミゲル…「クグツがいる理由は、ひとつですよ。それがどんな場所であれ」

RL／芽華…「仕事」……ですか。私も、仕事ですよ。もう、先輩の仕事とは、随分違う物になりましたけれど」

ミゲル…思っていたよりも、普通に見える。まるで、全身義体に入る前の頃のままでのようにも、見えなくはない。だが……。

キョウ…以前のままだけ、無いよな、これは。ミゲル…「貴方の仕事とは、例えば——他人の『存在証明』の手助け、などですか」

RL…芽華は少し動揺した後、急に人間らしくない無表情になります。「なんだっていいじゃないですか。壊れて千早を追われた私が、どこで何をしたいようと。関係ないでしょう？」

ミゲル…「——千早を追われた貴方だからこそ、問題なのです。他企業に利するのならば、社としての防衛行動が必要になる」

RL／芽華…「……そうですか。じゃあ、今ここで、私を殺したらどうですか。別に、いいですよ」

ミゲル…「……運ばれて来たコーヒーに口をつける。味がしない。フィオリナ…ああもう！ 見てらんないわ！ 〔電脳〕〔社会…企業〕〔ストリームマップ〕で芽華の事を調べるわ。達成値は20。ミゲルと芽華の間に何があったのか、勝手に（*）調べさせて貰ったわ。（ねえミゲル、貴方あの子をどうしたいの？ 本当にズンバラリンって始末しちゃうつもり？」

……………

G. C. I. …軍用サイバーウェアで世界最大の規模を誇っていた企業。テロリストによる本社占拠により壊滅した。

〔完全偽装〕…社にとつての不都合を揉み消すクグツの神業。

電脳意識体…生身ではなく、電脳空間上での意識のみがシーンに登場している状態。通常、アイコンやアバター姿で描写される。

勝手に…言うまでも無いが、プレイヤー間では相談し同意を得た上で、だ。

ミゲル・クツ……！」「できれば、そうはしたくないのが正直なところですが……協力してほしい、とも思っている。貴方が私のことを、まだ、『先輩』と呼んでくれるのなら」

フィオリナ……あら、ウェットなセリフも言えるんじゃない。これなら芽華ちゃんも落ちるんじゃないかしら。

RL／芽華……「無理ですよ。私はもう、役立たずですから人間ですら……無いから。だから、もう放っておいて下さい」
フィオリナ……ええ、嘘！　なんで!?

RL……芽華が目を見つめてそう言った時、急にオフィス内に悲鳴が響き渡ります。一旦シーンを切りましょう。

RL……登場しなかったキヨウは舞台裏判定をどうぞ。

キヨウ……んー。スペシャルイズについて洗っておきたい。

RL……《社会・企業》か《社会・テクノロジ》で調べられます。目標は10、21。

キヨウ………使える技能が無いな。あまり使いたくないんだけど、仕方ない。《コネ・稲垣光平》じゃ駄目かな。

RL……代用判定で達成値にマイナス5の修正としましょう。

キヨウ……ありがた。ではハートのAを出す。（*）

RL……Aを出されては、マイナス修正も関係なく達成値が21になつてしまう。OK、では情報を出しましょう。

スペシャルイズは、数年前にテラウエアから発売された、I ANUSを個人に会わせてカスタマイズするニューラルウエアです。サイバーウエアを扱う際の操作性が格段に上昇する為、若干高価であるものの、その導入率は非常に高く、テラウエア

のベストセラーとなっています。

フィオリナ……そういえば、わたしのオープニングでくつだらなICMが流れてたわね。

RL……この装備には実の所、I ANUSの拡張だけでなく、人体のサイバーウエアへの親和性を極限まで高める効果が付与されています。これは、サイバーウエアへの親和性の異常に高かった、ある特異体質の持ち主を被検体として生み出された技術だそうです。

キヨウ……繋がってきたな。だけど、その特異体質の持ち主である人間を、僕はまだ知らないんだよねあ（*）。

RL……開発者は、『Dr. ノーウエア』という科学者らしいですが、その詳細は不明です。

リサーチシーン5

ロストヒューマンに安息の地を

シンプレイヤー・フィオリナ
シンカード・イヌ（正）／審判



急にオフィスに響き渡ったいくつもの悲鳴。オフィス地上階ホールに、体を誘導するように背広を広げたオフィスマンが立っている。その腰には、爆弾が巻きつけられていた。

（ちょ……！　何あれ、何かのアクションムービー？）
突然の出来事に、フィオリナの声に動揺が混じる。

「そういう状況では無さそうですよ」

奥歯をギリと噛みしめ、ミゲルは銃の入った懐へと手を差し込み、立ち上がる。悪夢が、始まるうとしていた。

R L…先ほどのシーンの続きです。貴方達が、悲鳴が聞こえた方向に目をやると、そこでは腰に爆弾を巻き付けた男が、今にも自爆テロを起こそうとしています。

ミゲル…どうなっているんだ……！ 男の容姿は？

R L…一見すると、作業員にも、凶悪テロリストにも、盲信的なカルト宗教家にも見えません。典型的なさなりまんという風だ。整った顔立ちだが、それだけ。個性をあまり感じさせない。

ミゲル…「フィオリーナさん。彼の爆弾に干渉できますか」

フィオリーナ…えっ。うん。やってみる。R L、〈電脳〉で判定……

R L…爆弾には電制が入っていません。（＊）

フィオリーナ…う、嘘お!? 「だめ！ 爆弾は私の声を聞いてくれないわ！ どうしよう！」

ミゲル…「落ちついて下さい。電制が入っていないという事は、少なくとも思考トリガーで起爆するタイプの物では無いでしょう。なら、物理的に起爆スイッチを入れる必要がある筈です。彼自身の動きを制御できますか」

フィオリーナ…無我夢中で男の電脳に入り込む。（ちよつとあなた！ こんなところで一体どういうつもりなの！）

R L…ではフィオリーナに、逆に男の思考が流れ込みます。

『能無し、役立たず、お前なんか居ても居なくても変わらない』

……そうやって俺を馬鹿にできた奴らめ、見ていやがれ！俺はここにいる、ここに存在しているんだ！ それを今から証明してやる！』

フィオリーナ…何よこれえっ！

R L…男はビジネス用の全身義体に入っているね。そして明らかに我を忘れている。自我境界線が非常に曖昧だ。

フィオリーナ…義体なのね！ なら何とかできるはずだわ。

（……止まりなさいってば！ 義体のコントロールを奪う！）

R L…では、そこで何者かが判定を行います。（隠密）〈射撃〉〈※陽炎化〉（＊）の組み合わせで達成値は18。

ミゲル…リアクション不可攻撃！ 流星にそれは対応できない。フィオリーナ…わたしも無理！

R L…では、貴方達は射撃が行われた事にも気付く事が出来ません。男の義体は掌握した筈なのに、爆弾が起爆します。

（――!?）

男の体が、木端微塵に吹き飛ぶ。爆炎と、はじけ飛ぶ破片が、周囲の人間たちを巻き込んでいく。物理的な影響を受けない電脳意識体のフィオリーナも、目の前の壮絶な映像と電磁パルスの衝撃に、今まで受けた事の無いショックを体験していた。

~~~~~  
Aを出す…Aのカードには、達成値を21にするという効果がある。

僕はまだ知らない…プレイヤーの持つ情報と、キャストの持つ情報は同じではない。登場していないシーンでの出来事は、キャストは知り得ないのだ。

電制が入っていない…ウェブに繋がっていないという意味。ウェブ・ネットワークに頼るニューロには、手の出しようがない。

〈※陽炎化〉…感知不可能な行動を行う力ゲの強力な特技。

人間が死ぬ姿。それは、どれだけウェブの情報を知り尽くしていても体験し得ない、生々しい光景だった。

ミゲル…「……………っ！」咄嗟に芽華に覆いかぶさるようにしてその体をかばう。

RL…そこに、芽華はいません。

ミゲル…何、だと……!?

RL…オフィス1Fは黒焦げになり、窓が割れ、血と煤とケガ人だらけの阿鼻叫喚の様相を呈します。程なくして、緊急連絡を受けたシルバーレスキューやブラックハウンドの隊員が到着し、大騒ぎとなりました。

ミゲル…コートについた埃をはたき落としてつつ。「——退散するとしましようか。彼らにつかまって厄介です……フィオリナさん？」

フィオリナ…「……え、あ、なに？」弱々しい声で答える。

ミゲル…「——いえ。この場は退散しましょう。時間を無駄にするわけにはいきません」

フィオリナ…「……ねえお兄さん。さっきの人、死んじやつたの？」

ミゲル…「ええ」

フィオリナ…「で、でも建物も人もあとで直してもらったらかつと平気よね？　べ、別にわたしが爆弾止められなかったから気にしてるとか、そういうんじゃないのよ!？」

ミゲル…「人は、修理できません。あの爆発では、原形もとどめてはいないでしょう——貴方のせいでは、ありませんよ」

フィオリナ…き、気にしてなんかないって言ってるでしょ！わたしは人間なんか大嫌いなんだから、別にどうなったって知ったこっちゃ無いんだから！……無いん、だから……。

## シャープ・アイ

シンプレイヤー…キョウ  
シンカード…ミストレス（逆）／停止

リサーチシーン6

「出遅れもいいところだ……人がいないのはありがたいが、な」  
先ほど、ダーザイン・テロの新たな現場となったオフィスビル。救護活動や現場検証が終わり、わずかなSSS隊員と警備無人機を残すばかりとなった場所に一人、キョウは訪れた。SSS隊員はバッズで黙らせる。ウェブから情報を取得するドローンの視界には、ウェブットの姿は映らない。

「概ね撤収されてるか……それで現場百遍、だ」

旧時代の警官の格言を呟き、キョウは捜査を開始した。

キョウ…前のシーンに出そくなったせいで、重要な情報を取り逃がしてしまったなあ……。RL、さっきのシーンで何者かが《射撃》の判定を行った事を、何とかして調べられないかな。  
RL…確かにキョウは《警報》（\*）を持っていますから、リアクション不可攻撃にも対応が出来た筈ですしね。うーむ……

では、〈シャープアイ〉（\*）や〈霊覚〉（\*）などを組み合わせ、尚かつ事件現場に居合わせた人間から情報を貰えるなら判定できるとしましょう。目標値は前のシーンで行われた判定の達成値、つまり18です。

キョウ…：今は現場にいた人間がいないので無理そうだなあ。SSSの隊員では役に立たないだろうし。

ミゲル…：では私が出ましょう。〈社会…ストリート〉〈隠密〉で登場判定。達成値は10。  
RL…どうぞ。

ミゲル…キョウから数歩離れた場所で、空間がわずかにチラつく。コートの光学迷彩を解除して現れる、スーツ姿の男。『…もうハウンドも出払ったところかと思っただけがね』

キョウ…「はは」小さく笑う。「事件が大きくなりすぎて、機捜以外も来てたんで…どうにも入りづらくて」振り向きもせず、肩をすくめる。

フィオリナ…わたしも同行するわ。そういうえば、キョウってウエットだったわね。私の視界にはキョウが映らないから、不思議そうな顔をするわ。「お兄さん、誰とお話をしているの？」ミゲル…とりあえず自分のミラーシールドをコンコンと叩いて視界を使うよう促しつつ、キョウに話しかける。「ですが、都合もいい。こちらからも、あなたに確認していただきたいこともありましした」

キョウ…お、会話になりそうだな。「今回は爆弾を巻いて現れたんだったか。……サイバーテロというには妙な成り行きだな」  
フィオリナ…「あら！ あらあら！ へんなの！ 服やアウ

トフィットのタゲは認識できるのに、画像以外だと誰もいないなんて！ お兄さんウエットなの？ やだホントにいたんだ！  
なこれ、どうやって動いてるの？」

ミゲル…：……。〈頭を抱える〉

キョウ…「えーと……ニューロかなにか、か？」

ミゲル…「彼女はフィオリナ。善良なる情報提供者ですよ」  
なんだか微妙に情けない気分になりつつも、ひとまずは状況を説明します。テロが起きた状況。あの時、確かに犯人の義体の制御を奪った筈なのに、爆弾が起動した事。

フィオリナ…「わたしがやったんだから、義体の制御は完璧だったのよ。ログだつて残ってるんだから」

キョウ…<sup>VR</sup>「<sup>VR</sup>電脳コンタクト（\*）を目にはめてフィオリナの姿を確認しよう。——確か、そのアイコン……」目を細め、

思い出すように「（……電脳犯罪指名手配番号NR003-88152<sup>ナイスリライム</sup>電脳童話」か……随分な情報提供者だな）」

フィオリナ…「えーとあれ。データ送れない？ そっかウエットだからパスもないのか。めんどくさいわねえ！」と言って、キョウのポケットロンに義体制御時のログと映像データを送る、という演出で〈声援〉（\*）。判定は成功。

（**鑑報**）…直感により、感知不可能な行動すら見破るフェイトの特技。

（**シャープアイ**）…鋭い観察眼で〈知覚〉の達成値を上げるフェイトの特技。

（**霊覚**）…通常は見えない霊的な痕跡を知覚するマヤカシの特技。

VRコンタクト…ウエットでも電脳空間を視認する事ができるようになる特殊なコンタクトレンズ。

（**声援**）…応援によって、他者の行動の達成値を上げるミストレスの特技。



キョウ…「善意のご協力に感謝しますよ、フィオリーナさん」  
じゃあ、そのログを検証するという感じで判定をさせて貰う。  
〈知覚〉〈シャープアイ〉〈警報〉。〈声援〉のレベルは？

フィオリーナ…4レベルよ。

キョウ…じゃあ達成値は26。

フィオリーナから送られて来た映像を再生するキョウ。

腰に爆弾を巻き付けた男が、『俺はここにいる！』と叫びながら自爆し、周囲が阿鼻叫喚の地獄絵図と変わって行く様子が流れていく。

キョウは何らかの違和感を感じたのか、ふいに目を細め、映像を巻き戻し、再び再生した。それを何度も繰り返し見た後、キョウは確信を持った目でこう言った。

「やっぱり、居たんだな。このテロを裏で操っている人間が」

RL…流石は真実を見抜く瞳を持つ者。では貴方は、この爆弾が何者かの射撃によって爆発させられた事に気付きます。

キョウ…「爆発する瞬間の爆弾の破片を見てみる。この碎け方は、外部から鋭い衝撃を与えられたものだ。……現場には弾薬の類は見つからなかったから、多分、証拠が残らない武器によるものなんだろう」

ミゲル…「つまり、是が非でも彼に自爆してもらわねばならない存在——ひいては、一連のターザイン・テロの黒幕と言うべき人間の関与がある、と」

キョウ…犯人が導入していたサイバークウェアのリストなんかは

分らないか？

RL…分かります。体はビジネス用の一般的な全身義体、千早重工製。ブラウン・ジョブ（\*）です。それに感情制御オブションや交渉用オブションが少し。特に変わり映えはありません。それと……スペシャルイズも。

キョウ…やっぱりな。「テロリスト……こうなると被害者の可能性もありますが、彼らは全員、スペシャルイズというテラウェア製品を装備していました。性能は……まあ、そちらもご存じでしょう。それがカギじゃないか、と思います」手持ちの情報流す。

ミゲル…「——なるほど」スペシャルイズならば、発売当時にそれなりに裏も洗っている。そして当時、心に引く掛かりながらもあえて踏み込まなかった一文も思い出す。「特異体質——サイバークウェアの申し子の産物、か」

フィオリーナ…「何よ何よ、二人して盛り上がっちゃって！

わたしが完璧なログを記録しておいたお陰で情報が掴めたって事を忘れないで欲しいわ！」

キョウ…「……あるいは、小さな悪戯しかしていなかったハッカーが、ついに大規模テロに手を出した、って可能性も否定はできませんけれどね」と、フィオリーナを牽制する。

フィオリーナ…「わたしはそんなつまらないことはしないもん！……だって、誰だって消えちゃうのは怖いもの。わたしはここにいる！……って叫ぶだけで消えちゃうなんて……なんだか悲しいわ」

■■■■■  
ブラウン・ジョブ…量産型の全身義体。安価で手に入れやすい。



キョウ・ハエ……。いや、本気で言ったわけじゃないんだ、すまない。協力には感謝しているよ、フィオリーナ。

RL…では、シーンを閉じます。次のシーンはルーラーシーン（\*）となります。

## 利用された人間性

シーンプレイヤー…ルーラーシーン  
シーンカード…カゲ（正）／変化



リサーチシーンフ

「待っていたよ、フィオリーナ！ どうだい、情報は集まったかい？」

ボロアパートの一室。ラルフ・ブレックナーは、DAKに訪れた友人のウェブゴーストを笑顔で迎えた。

『あいかわらず、安くて遅くてセキュリティの欠片かけらも感じられない、くっだらな回線使ってるのね』

フィオリーナと呼ばれた客は、ラルフに一つのデータファイルを手渡す。

「これは……？」

『どうせグズでノロマなあなたの事だから、まだ何も情報を掴つかんで無いんでしょ？ 探し出してあげたわよ、アルジャーノン・レポートの全文』

「え……ほ、本当かい？ すニョーロこい！ 流石はフィオだよ、キミ

に頼んで正解だった！」

早速データを確認するラルフ。最初は期待に満ちていたその表情が、読み進めるうちに徐々に青ざめていく。

「これは……想像以上に大変な事じゃないか！ このデータが本当なら、全ての人間がいずれサイバーサイコになってしまう！ 今すぐこの情報を世界中に発信して、サイバーウェアの導入を止めさせなきゃ！」

情報を探り当ててくれてありがとう、と感謝の言葉を告げて、ラルフは報道の準備にとりかかった。

その様子を見ながらアウトロンするフィオリーナと呼ばれた少女の口元には、一瞬、三日月の様な笑みが貼り付いていた。

RL…ラルフ・ブレックナーが『暴露エクスポーズ』（\*）を使用します。世界中に『アルジャーノン・レポート』の内容を公開し、サイバー化を止めるように警鐘けいしょうを鳴らしました。

フィオリーナ…ちょ、ちょっと待ってよ！ わたしはここに居るわ。このシーンに登場している「フィオリーナ」って、一体誰よ!?

ミゲル…何者かのなりすまし、ですか。しかし、目的が見えませんがね……。

危険性と利便性

リーンプレイヤー・フィオリナ  
シーンカード・ヒルコ(正) / 文明



リサーチシーンB

企業の圧力によって揉み消されたという、『アルジャーノン・レポート』の全文。それが、一人の無名トーカーの手によって、一夜にしてN◎VA中を駆け抜けた。

その内容は、要約すれば「一定以上のサイバー化を行えば、人間は例外なくサイバーサイコ化する」というものだった。

ダーザイン・テロの影響もあったのだろう。その報道の波紋はあつという間にN◎VA中に広まった。しかし、人々が取った行動は、ラルフが呼びかけたサイバーウェアを捨てることでは無かった。

千早重工を始めとする、多くのサイバネティクス企業に対して、抗議の暴動が起きたのである。

フィオリナ…なによなによ、一体どうなっているのよ！

RL…N◎VA中のいたる所で暴動が起きています。その現場の一つで、貴方は茫然と立ち尽くすラルフの姿を目撃しました。フィオリナ…「ちよっとラルフ！ こんなところでなにしているのよ！」

RL／ラルフ…「どどどどど、どうしよう！ 君がくれたレポートを公表したら、こんな事になっちゃった……僕は、サイバ

ーウェアの導入をやめるよう言っただけなのに……！」

フィオリナ…「なに言ってるの！ わたし、まだレポートは見つけてないのよ!」

RL／ラルフ…「……え、な、何いってるんだよ！ だって、いつもの君のアドレスから、いつもの君のアヴァターで……言動だって、間違いなく君だったよ!」前のシーンで何が起ったのか、〈コネ…ラルフ〉で判定すれば分かります。

フィオリナ…「ちよっとあなたの記憶、見せてもらおうわよ!」〈コネ…ラルフ〉〈電脳〉で達成値19。

RL…ラルフに情報を渡したのは、貴方に偽装した何者かである事が分かります。神業《神出鬼没》(※)を使って完全になりすましている。あらゆる面で、貴方と見分けがつかない。

キョウ…《神出鬼没》……カゲームシヤか!

フィオリナ…「わたしとこの馬の骨とも知らない誰かと見分けが付かなかつたですって? ホントにあなたってグズでノロマね!」いいわ、誰だか知らないけど、枝は残ってる。徹底的に追い詰めてやる……ッ! RL、プロファイリングの判定は何ですればいいの!

RL…〈社会…ウエブ〉で目標値は17です。

フィオリナ…《電脳童話》の力、舐めるんじゃないわよ! 成功、達成値17!

RL…そのカゲームシヤの名前は、23%ミリガン。テラウェア

ル…ラーシーン…演出のみのシーン。キャストは登場できない。

《秘鑑》…世界中に報道を行うトーカーの神業。

《神出鬼没》…他者になりすまし、入れ替わるカゲームシヤの神業。

の先鋭工作員、ナンバーズ（\*）の一人です。

ミゲル…テラウエアの、工作員……！

フィオリーナ…「こいつね。ラルフ、まんまと乗せられるなんて、あなたにはあとでたっぷり埋め合わせしてもらおうから！ ケーキの一つや二つじゃすまないわよ！」いつに無くイラついた様子で、そう言います。

RL／ラルフ…「ごめん……僕のせいだ。でも、何が目的でそんな事をしたのか、どうしてこんな事になっちゃったのか……これから、どんな事が起ころうとしているのかは、僕には分からない」

フィオリーナ…「そんな事、わたしにだって分かんないわよ！」  
RL／ラルフ…「でも、僕の報道が原因で、誰かが傷つくのは、嫌なんだ……フィオ、助けて。お願いだよ……」ガクリと崩れます。

フィオリーナ…「わ、わたしは。わたしに化けた誰かがこんなことしたっていうんじゃ寝覚めがわるいからやるっていうだけで、別にあなたのためってわけじゃないわ！」

「……でも、もうわたしだって、目の前で誰かが傷つくのは嫌だっけ分かった」

ラルフには聞こえないように、そう呟くフィオリーナ。

「あなたがどうしてもって言うなら、仕方ないからやってあげる。次に部屋に来るときは両手に持てないくらいのケーキをもっついていっちゃい！」

RL…では、ラルフはフィオリーナの『電脳神』に『ファイト』（\*）を使用します。シーンを終了しましょう。

リサーチシーン9

## 真相と真意



シーンプレイヤー…ミゲル

シーンカード…アヤカシ（正）／支配

各地で暴動がおこるN◎VAの中、喧騒から離れた小さな公園に、彼らは居た。ミゲルとキョウが、フィオリーナに呼び出されて集合したのだ。

「つまり、わたしになりました生意気なニンゲンが、N◎VAを大混乱に陥れているってわけなの！ほんとむかつく！」  
彼女の怒りを現すように、彼女の周りを漂うギロチンのアイコンが、次々に人形の首を落とした。

キョウ…少々事態が複雑になってきたな。状況を整理しよう。

ミゲル…「——理解に苦しみますね」そもそも、敵の目的が見えない。自身も大手のサイバウエアメーカーであるテラウエアが、殊更に義体化の危険性を広めて何の得があるというのでしょうか。

キョウ…目的が見えなければ、手の打ちようが無いもんなあ。RL、暴動が起き始めてから、サイバウエアの売り上げは落

ちているんだろう？

RL…はい、確かにラルフの報道が流れてから、サイバーウェアの売り上げは急激に落ちていきますね。ただ、サイバーウェアを捨てる人はほぼ皆無です。新しく生まれた子にI A N U Sを入れるのを躊躇う親も、ほとんど居ない。

キョウ…それはそうだろうな。人間、そう簡単に便利さを捨てられない。んで、行き場の無い不安感や焦燥感の矛先が企業に向かつて、暴動が起きたわけだ。

フィオリナ…でも人間ってほんとに馬鹿ね。暴動なんかしても意味なんてないのに。

ミゲル…「先日のカフェでの件を考えれば、テロを起こさせている人間がいることは間違いない。そしてテラウェアのリークによって、テロによって高まった市民たちの危機感に火がついた」

キョウ…「順当に考えれば、ダーザイン・テロ」はこの状況を引き起こす為の布石だった、と見るべきだな。問題は、この状況は何のための布石なのか、ってとこだが……しかし、本当に黒幕はテラウェアなのか？ 言っちゃなんだが、こんな状況を欲しがるヤツがまともな経営者とは思えない」

フィオリナ…ふと思いついたように「あの芽華って子も気になるわね。ねえ、ミゲル？」

ミゲル…「……………」芽華の名前が出ると、口をつぐむ。

フィオリナ…ミゲルは掘り返されたくないと思うけれど、でも、私は知りたい。スペシャライズの元になった特異体質の持ち主って、芽華なんでしょう？

RL…《社会・テクノロジー》で調べられます。目標値は21。フィオリナ…ダイヤの9を出して成功。

RL…貴方の言うとおり、スペシャライズの元になった特異体質は、芽華のものです。

ミゲル…やはり……か。

RL…芽華の特異体質とは、サイバーウェアへの異常な親和性の高さです。始めは扱いが神がかり的に上手い、程度の認識でしたが、これは実は、一種の欠陥です。芽華の体は元々、サイバーウェアを自分の体の一部と勘違いしやすい、免疫不全とも言うべき状態でした。

キョウ…つまり、元々サイバーシンドロームを起こしやすい体質だった？

RL…はい。スペシャライズもそれと同じ効果を保有していますので、サイバーシンドロームを助長します。

キョウ…不特定多数の人間をサイバーサイコになりやすくする……見えてきたが、敵の目的に至るにはまだ情報が足りない。まだ調べて無い情報項目は何だ？

フィオリナ…わたしになりましたして「23」ミリガン、あとはテラウェアの企んでいるという「ロストヒューマン計画」ね。

キョウ…後者は神業じゃないと調べられない。なら、僕は前者から攻めよう。「さて、こつちもそろそろ……」と、そのタイ

ナバーズ…テラウェアが擁する非合法工作部隊。その実力は千早の後方処理課に負けず劣らず。隊員にはコードネームとして数字が割り振られている  
「ファイト！」…他者の神業の使用回数を増やすミストレスの神業。



ミングでボケットロンが鳴る。同僚に調べて貰っていたという演出で、ミリガンについてリサーチ。達成値は21。

R L…では、貴方の同僚であり幼馴染でもあるレイが、情報収集のプロであるメモリ（\*）に頼んで情報を調べてきてくれました。ミリガンはありとあらゆる偽装工作に精通するオールラウンダーな作業員です。ただ、行動の特徴や得意分野などが一貫しておらず、出自も謎に包まれています。

フィオリーナ…キモチわるいヤツね。

R L…正体は、自身の内部に23もの人格を持つ多重人格障害者です。状況に合わせて人格を使い別ける事で、あらゆる局面に対応する、〈ブランチ…ホロウ〉（\*）の使い手です。現在は「ロストヒューマン計画」に参加しています。

R L／レイ…「……って事らしいぜ。メモリに調べて貰ったんだけど、メモリのやつ、すげえカンカンになってたなあ」

キョウ…「そりゃお前、メモリにテラウエアのこと聞いたら怒るだろ……」呆れたようにいい。「ともかく助かった。今度僕からなにか奢る、って言うっておいてくれ」

R L／レイ…「おいおい、オレにはないのかよ。プリン十個くらいでいいぜ」なんて言いながらコールは切れる。

キョウ…「女の子がオレなんて……っておい、切れた……」  
フィオリーナ…プリンならオススめがあるわ。あとで持って行ってあげなさいな。でも、やつぱり鍵はその「ロストヒューマン計画」みたいね。

「わたしを怒らせたらどうなるか、思い知らせてあげるわ！」

フィオリーナが指を振ると、<sup>ストリーム</sup>「電脳空間上に、まるで玩具箱をひっくり返したように魔女の使い魔達が溢れかえった。  
可愛い子猫ちゃんたち どこへいくの？」

ちよつくらロンドンのお城まで

何をするためそこに行くの？

隠れた鼠に噛みつく為！  
フィオリーナが電脳の童謡を謳う。その詩に合わせて、幾多のプログラム達がテラウエアサーバーの防壁を食い破って行く。そしてついに、電脳の城の最深处に隠された、真相という名の獲物に喰らいついた。

フィオリーナ…「<sup>デウス・エクスマキナ</sup>《電脳神》（\*）を使うわ。《<sup>アングラ・カヴァ</sup>完全偽装》を打ち破る！」

R L…ついに、隠された真相に辿り着きましたね。

ロストヒューマン計画。それは、次世代型I・A・N・U・Sのマーケティング戦略計画だ。

その内容は、一言で言えば「壮大な自作自演」だった。

N・V・Aの街で、サイバーサイコの凶行による事件を多発させ、更にサイバー化が精神に与える悪影響を誇大に報じさせることで、市民に「自分がサイバーサイコになる恐怖」を植え付ける。

その上で、「サイコ化を抑制した人体に優しいI・A・N・U・S」を発売する事で、そのシェアを一手に握ろうという計画。

キヨウ…なんて計画だ！ 気が狂ってる。

フィオリナ…怒ってるわね。

キヨウ…怒るさ。「許せないな。こんな下らない計画の為に市民に危険が及ぶなら、その黒幕を引きずり出して裁かなきゃいけない。今回流に言うなら、そのために、僕はここにいる。」

ミゲル…若いイヌの言葉に、ひとつ息を吐く。かつては、そんな風にジブンを持っていたはずだ。自分も——そして、彼女も。

RL…この計画の中心となる人物は3人です。計画の立案者である「Dr. ノーウェア」。ダーザイン・テロを引き起こすウイルスを、〈有象無象〉(\*)で一般人に紛れ込んでばら撒いていた<sup>23</sup>ミリガン。そして、計画の発端となった特異体質の被検体、芽華。

キヨウ…ノーウェアってヤツは、スペシャライズの開発者だったよな。……それにしても、やっぱりウイルスによる電腦テロだったんだな。

フィオリナ…でも、ウイルスは痕跡すら見つかつて無いんでしょ？

ミゲル…証拠を押さえる為には、何とかしてウイルスそのものを検出しなければならぬでしょうね。

RL…では、その時キヨウのポケットロンにコールが入ります。通信元は機動捜査課長、千早冴子です。

RL／冴子…『キヨウ君、今どこにいるの!? アルフレッドの様子が変なの、至急来て頂戴!』

キヨウ…アルフレッドが……!? 「今すぐ行きます!」と返事をして走り出す。

## 人間であれ

シンブレイヤー…キヨウ

シンカード…アラシ(逆)／拘束



朦朧とした足取りで、アルフレッドが歩いている。その瞳は熱に浮かされたように虚ろで、焦点が合っていない。フラフラと彷徨い歩き、辿り着いたのは、人気の無い演習場。

「俺は、もう、駄目だ」

鋼鉄に覆われた男は一人、宙を見上げてそう呟いた。

その時、演習場の扉が乱暴に開かれる音がする。そこには、

どれほど走って来たのだろうか、息を切らせながらアルフレッドを見据えるキヨウがいた。

「……おい……間に、合った、みたいだな……」

「キヨウか……。すまん、キヨウ。俺も、あのテロリスト達と同じになっちまったみたいだ」

「どういう……事だよ……」

「曖昧なんだ、どこまでが自分で、どこからが自分じゃないの

か。そもそも、自分という存在が本当に居るのかどうか」

「……」

「メモリ…レイの相棒で、几帳面で沈着冷静な才女。(ミストレス、イヌ◎、

ニューロ) テラウェアとは切っても切れぬ因縁を持つ」

「ランチ…ボロン…自分自身を持たないものである事を表す。精神ダメージを受けにくくなる」

「(電腦神)…ウエブを操り、あらゆる不可能を可能にするニューロの神業」

「(有象無象)…自分を、その他大勢に偽装する力ゲームシヤの特技」

R L…ブラックハウンドの演習場の真ん中で、アルフレッドが茫然としています。尋常な様子ではありません。

キョウ…「おい、しっかりしやがれ！」

R L／アルフレッド…「頭の中で、何かが俺に語りかけるんだ。

誰かを傷つけて、そこに自分が居た証を刻みつけろって」

キョウ…「……おい、てめエ、ナニ言ってるやがんだ、ああ!」

息を落ちつけ、怒りに歪んだ顔でアルフレッドを睨みつける。

「阿呆が。てめエは自分の居場所も忘れちゃったのかよ！」

フィオリナ…「ね、ねえ。どうしちゃったのよ、キョウ。」

ミゲル…「彼がこんなに激情的になるとは……。」

キョウ…「ズカズカと、足音も隠さずに近づく。「てめエが……」

おれらが、証を刻みたいなら、やる事アひとつだろうが! この街の人間を守る、それだけだろうが! おい!」アルフレッド襟首をつかみ、怒鳴りつける。

R L…では、アルフレッドは貴方の腕を引きはがし、放り投げます。ウェットの貴方は、いともたやすく彼のサイバーアームによって宙を舞う。

キョウ…「!?」虚を突かれ宙を舞い、どさりと無様に床に転がる。「……て、めエ……」

R L…頭を押さえてうめくように言葉を吐き出すアルフレッド。

「……分かってる……分かってる、さ。俺は人を守る為にこの体を手に入れたんだ。生き様を曲げちゃったら、本当に俺は俺じゃなくなっちゃう。そんな事は、分かっているんだ……」

キョウ…「だったら……ッ!」

R L／アルフレッド…「だけど、駄目なんだよ……もう、生き

ているって実感が、まるで無え……」

ミゲル…「ダーザイン・テロの犯人達と同じ症状ですね、これは。フィオリナ…「じゃあ、アルフレッドも敵のウイルスに感染しちゃったって事?」

R L／アルフレッド…「だから、俺は、一人で逝くよ。せめて、お前が見届けてくれ」彼は体に仕込んだ爆薬を起動しようとしています。データのには脳内爆弾(※)です。

「馬鹿野郎……そこまで、踏みとどまっておきながら……だれ一人傷つけない場所を選ぶ事ができておきながら……何で自分を見失っちゃったんだよ!」

キョウは背中を打ちつけられて息も口々にできなかつたが、それでも声を絞り出した。

「死んで何になるっていうんだ! ……死ぬな、生きろ! 人間でいろ!」

その言葉は、アルフレッドがキョウに渡していたバスコードだった。爆弾が起動する寸前で、アルフレッドの体がプスンと音を立て、その場に崩れ落ちる。

R L…貴方が発したキーワードに反応して、アルフレッドの《タイムリー》(※)が発動します。効果は、装備している全てのサイバーウェアの機能を停止させるというものです。脳内爆弾もサイバーウェアなので、機能停止します。

フィオリナ…「よかった……。」

キョウ…「……ッたく、てめエ一人でなんでも抱え込みやがッ

て」咳き込みながらも立ちあがり、救護班<sup>レスキュー</sup>を呼ぶ。

R L…アルフレッドは薄れ行く意識の中で、貴方を呼びます。「キョウ……俺の、頭<sup>アイズ</sup>を、洗え……何かが、いる」そこまで言っ

て、気を失う。  
キョウ……ファイオリナ、見てるんだろ？ 助けてくれ、僕

じゃどうにもならない。  
ファイオリナ…助けてくれなんて言われちゃしょうがないわね。

《電脳》《社会…N◎V A》で登場判定。キョウのポケットロ  
ンから声がする「いいの？ わたしなんか信用しちゃって。ウ  
ェットで警察のお兄さんと、ニューロで犯罪者なわたしとじゃ、  
N◎V Aでもっとも遠い存在なんじゃないかしら」

キョウ…「……ぐ」一瞬詰まるが「……それなら、これからは  
犯罪者じゃなくなればいい。僕が更生させてやる」

ファイオリナ…なにそれ、つまんない。でもいいわ。キョウの  
困った顔も見れたし。サービスといたげる。《電脳》でアル  
フレッドのI A N U Sを洗うわ。達成値は20。

R L…では、今まさに自壊<sup>オートデストラク</sup>プログラムが発動しようとしている  
電脳ウイルスを発見し、補足する事に成功します。どうやら  
I A N U S間での直通無線によってのみ感染するタイプのよう  
です。

ファイオリナ…どうりで今まで検出されなかったわけだわ。

R L…検出されたウイルスの名前は、ザイン・ウイルス。感  
染者を洗脳し、自己の存在に疑問を持ち、それを証明する為に  
自爆テロを行うよう仕向けます。ただし、その効果は感染者が  
元々サイバーシンдрームを起こしやすい状況でなければ発現

しません。

キョウ…「なるほど、な。助かった、ファイオリナ。状況証拠  
は揃った。後は敵を叩くだけだ」

R L…では、救護班がなだれ込む所でシーンを切りましょう。

R L…舞台裏です。

ミゲル……。

ファイオリナ…どうしたの？

ミゲル…いや、一つ気になる事があって。……敵が作ったとい  
う次世代型I A N U Sは、芽華を救い得るものなのだろうか。

キョウ…サイバーサイコ化を抑制するってアレか？ こんな事  
をしでかしたヤツらの作ったものだ、信用できる物とは思えな  
いけどな。

ミゲル…しかし、カフェで芽華と会った時、確かに彼女はサイ  
バーサイコでは無かった。壊れてしまった筈の彼女が、意外に  
も普通に見えた。もしかすると、芽華には既に、新型のI A N  
U Sが入っているのかもしれない。

ファイオリナ…普通に見えれば、ミゲルはそれでいいの……？  
ミゲル………いえ、すいません。今は、敵の大本を叩く方が先  
決でしたね。今回の事件の黒幕、D r. ノーウェア<sup>ノウウェア</sup>につい  
て調べます。

R L…《社会…企業》か《社会…テクノロジー》、《社会…北米》  
などで調べられます。目標値は19。

脳内爆弾…発動すると装着者のみが完全死亡する爆弾。

《タイムリー》…あらかじめ状況を予測し、何かを準備していた事にするタタラ  
の神業。

ミゲル…ハートの10を出して、報酬点を2点使って成功。

RL…北米出身のサイバー精神医学者です。テラウエアにその才能を買われ、幹部として入社。「人間の精神の脆弱性を考えれば、自分などという物はどこにも存在しないに等しい」という主張の元、自らの手で自身の社会的な存在を消しています。つまりはウェット、かつXランクです。

キョウ………こいつも、ウェットか！

RL…『アルジャーノン・レポート』の著者名であるハロルド・シュトラウスとは、彼の本名です。

フィオリーナ…薄々そうじゃないかとは思ってたけど……本当にただの自作自演だったってわけね。

RL…彼の拠点であるラボの「アドレス」が判明します。ただし、テラウエア・アークロジ（\*）の中でも特に警備の強力な一角にある為、侵入は不可能です。これはミリガンの神業、《不可触》（\*）の効果によるものです。

ミゲル…これが、最後の情報項目でしょうね。情報はキョウとフィオリーナにも流しておきます。

## 老兵と若者

シーンブレイヤー…ミゲル  
シーンカード…カゲムシャ（正）／仮面



リサーチシーン10

テラウエア・アークロジ。

電脳的に鉄壁の防御を誇る、難攻不落の城——その慢心の裏をかき、受付を「捜査協力」の名目ですり抜けたキョウ。

内部に入ってしまったえば、ウェットであるキョウは電脳リアクションの対象にならない。そのことを利用して、今、誰にも気づかれず機械室の配電盤の前に立っている。

無言で配電盤の主電源を落とし、即座に持ち込んだポケットロンを起動。

「すぐに予備電源に切り替わるはずだ。あとはそちらに任せる」  
そのまま機械室を出ていき、あらかじめ決めていた合流地点へ向かう。

ミゲル…RL、敵の本拠地にかけている《不可触》を打ち消して潜入するには、どの神業を使用すれば良いですか。

RL…皆さんの持つ神業の中では、《不可触》《完全偽装》《制裁》《電脳神》であれば打ち消せるでしょう。

ミゲル…順当に考えれば、私が《不可知》か《完全偽装》を使うべきでしょうね。

キョウ…待ってくれ。ここは僕が《制裁》（\*）を使おう。ミゲルはこの後、芽華に会わなきゃいけないし、神業の使いどころが有るかもしれないだろ？

ミゲル…キョウ……感謝します。

キョウ…では《制裁》を使用する。一時的に自分に社会戦ダメージ「ID剥奪」を与えて敵のセキュリティをかい潜る。

RL…いつも貴方が御堂隊長に対して使っている方法ですね。

テラウェアのセキユリティは大部分が電腦に依存していますから、有効な手段でしょう。

フィオリーナ…「ぶー、つまんない。わたしならアーコロジのセキユリティを乗っ取ってしっちゃんかめつちゃんにしてやったのに」

キョウ…「アーコロジには一般市民も多いんだ。しっちゃんかめつちゃんになんかされてたまるか」と言いながら、決めた合流地点に現れる。

ミゲル…現れたキョウに、目礼だけで礼を言う。

フィオリーナ…「それでさ。そろそろ聞きたいんだけど、ミゲルは結局、芽華のことどう思ってるの？」

ミゲル…びたり、と足が止まる。「——どう、とは？」

フィオリーナ…「だってさ、芽華がこんなことしてるのって、ミゲルとの事があつたからなんじゃないのかなあつてさ」

意地悪げなフィオリーナの質問に、ミゲルはしばし沈黙する。やがて長く息を吐く。まるで今初めて、呼吸をしたとでも言うように。

「——彼女は私にとって、同僚であり、後輩であり、生徒でもありました。私は、彼女の成長を見ていた。そして、その崩壊していく様も。いつか取り返しつかないことになることが分かっていて、何もしなかった。そして予想通り、そう、なつて……彼女は、芽華は、私の前から姿を消した。」

つまり——私が、彼女を殺したのです。ロストヒューマンに、して、葬り去った」

ミゲル…「その責任くらいは取るべきだと、ただ、そう考えているだけです」

フィオリーナ…「ふうん。でもさ。芽華の方は今どう思ってるのかな」ミゲルの言葉にはさして興味もないといった風で。

ミゲル…「……恨んでいるでしょうね、私を」そうでない理由はない。

キョウ…「……聞いてみりゃいい」ポツリ、と呟く。「本人と話さないと、自分で勝手に考えると、いい結果はこない。そうして死にじまったヤツを、僕はひとり知ってる（\*）」

フィオリーナ…「そんなことで死ぬなんてつまんないわ。それに、わたしはここにいて、って、そういう意味なのかなあ？」

——若僧どもが、好き勝手なことを言ってくれる。

ミラーシエードを押さえながら、ミゲルは奥歯を噛みしめる。この若者たちが持つもの。それこそが、自分がかつて無くして……そして彼女もまた見失ったものののだろうか。

「——もう、じきに着きますね」

生き方を誤り続けてきたこの道の先。何が待っているとしても、そこで終わりたい。

アーコロジ…メガ・コーボが誇る、完全環境都市型建築。一つの巨大なビルの中に都市があるようなイメージ。摩天楼。

《不可触》…自分の不都合を揉み消し、偽装するレッガの神業。

《罰則》…社会的な制裁を与える、イヌの神業。

そうして死にじまったヤツ…暴走警官、レイの父親であり、汚職警官、レンズの相棒でもあった、暴力警官、ゼロのこと。詳しい説明は本筋と外れるので省略するが、レンズとゼロを巡る因縁を知っておくと、よりキョウというキャラクターを楽しめるだろう。

## クライマックスフェイズ

クライマックスシーン1

## 存在しない人間

シンブレイヤー…ミゲル  
シンカード…バサラ（正）／意志

そこは、驚くほど閑散とした場所だった。

職員と思しき人すらほとんど居ない、人の営みを感じさせないその研究所の最深部で、白衣の男は静かに、彼らを迎えた。

「ようこそ。歓迎するよ、私の目的を阻む者達。君達は、人間かね？ それとも、人間の姿をした別の何か、かね」

「どちらであれ、貴方には関わりの無いことです」

B B マキシマムを構えたミゲルが、感情の無い声でそう答える。ミラーシールドに隠され、その表情は読み取れない。そんなミゲルの様子を見て、おかしくてたまらないという様子で白衣の男…… Dr. ノーウェアが笑う。

「関わりが無い、か。クク。それが有るのだよ、戦闘人形。君は、人間とは何だと思うかね」

「くっだらない事はばかり考える、つまらないものよ。アンタと同じでね！」

がなりたてるフィオリーナを軽く無視するノーウェア。ミゲルは表情をクグツの仮面で隠したまま、静かに答える。

「人間とは何か。それを考えることは、私の領分ではありません。そして、貴方が勝手に決める事でもない。貴方がどう人間

を断じ、どんな目的を持っているようと、貴方の計画をこれ以上進めさせるわけにはいきません」

ミゲルの言葉を聞き、ノーウェアは満足げに首を振った。

「良い答えだ、サイボーグ」

R L…クライマックスフェイズです。舞台は Dr. ノーウェアのラボ。そこに居るのは、Dr. ノーウェアと、虚ろな目をしたままの芽華。そして、シヨーケースのマネキンの様に何者ともつかぬ姿をした男、ミリガンです。

ミゲル…「シュトラウス博士。貴方が起こした非人道的な電腦テロは、重大な犯罪です」

R L／ノーウェア…「非人道的、か。私は誰よりも人間的であると自負しているのだが」

フィオリーナ…「自分の会社の製品の売る為に沢山の人間を自殺させるテロの、どこが人間的なのよ！ あんた脳味噌腐ってるんじゃないの？」

R L／ノーウェア…「ああ、次世代型 I A N U S か。あんなもの、私にとってはどうでもいい」

ミゲル…は？

R L／ノーウェア…「社への口実としてでっちあげた目的だ。利益などに興味はない。私自身の目的はもっと単純さ。私はただ、現代の人間に、人間性を取り戻して欲しいだけさ」

キョウ…コイツ……何を言ってる……。

R L／ノーウェア…「君達の言うとおり、人間とはそう確固としたものではない。ジブンという存在は、そもそも不確かな



ものなのだよ。だからこそ、人は悩み、苦しみ、何かを成す事でジブンを確立しようともがく。揺らぎ続けるその在り方こそ、<sup>ヒューマン</sup>人間性<sup>性</sup>というものなのだ。

だが、この時代の人間達はそれを忘れてしまった。発達した<sup>テクノロジー</sup>技術に溺れ、まるでジブン自身が揺るぎない存在を得たかのように錯覚している。生き様<sup>スタイル</sup>を貫く——？ 笑える戯言だ。人間はいつしか、<sup>ヒューマン</sup>人間性<sup>性</sup>を失い、醜惡な何かに成り果ててしまった」

ミゲル…「それを思い起こさせる為だけに、<sup>ターザン</sup>ターザン・テロ<sup>ロ</sup>を起こさせた、と……？」

RL／ノーウェア…「いかにも」

キョウ…「さつきから聞いてれば下らない屁理屈ばかり並べやがって！ てめエの御託は、後で取調室で聞いてやる！ このおっさんが話さないとならないのはてめエじゃねえんだよ！」  
ミゲル…先ほどから一言も言葉を発していない芽華に視線を向ける。「貴方も、そう思うのですか——芽華」

RL／芽華…「私は……」そう言つて、芽華は口を噤みます。

「ああ、そうか。では、君がミゲルくんだったのか」

ノーウェアが笑う。俯いたままの芽華の肩に手をやり、いとおしいものを愛でるような表情でつぶやく。

「芽華は、素晴らしかった。実に、<sup>ヒューマン</sup>人間的<sup>性</sup>であつたよ。自分を見失いながら、それでも自分で在り続けようと愚かしくもがく様は美しかった。……しかし、もうダメだな、寿命だ。それもしかたあるまい。彼女は人間なのだから」

RL／ノーウェア…「幕引きには丁度いい。芽華、全てをさらけ出して、楽になちなさい」《<sup>スクリプト</sup>真実》を使用します。

キョウ…フエイト……だと!?

RL／芽華…彼女はとつとつと眩き始めます。「先輩……。先輩は以前、私に『無理に全身義体に入る必要はない』と、言ってくれましたよね。その時、私はその意味が分からなかった」  
ミゲル…「……」

RL／芽華…「でも、今なら分かる。先輩は、私を、心配してくれていたんですね。

ダメになって、自分を見失つて……でも、先輩ともう一度会つて、何やつてゐるんだつて引つ叩いて貰えれば、私、元に戻るかもしれないつて思つてました」

ミゲル…「……まだ、遅くはないかもしれない」意識の外から言葉が漏れます。「もし、後戻りができるのなら——」無様な願望だと知りながらも、言葉が止め切れない。

RL／芽華…「駄目だったんです……先輩。駄目だったんですよ……」彼女の目に、涙が浮かぶ。「私、先輩と再会した時、データの照合をするまで、誰だか思ひだせなかったんです。今でさえも……」

「お願いです、先輩。私を……殺して下さい……」

静かに、ミゲルはミラーシールドを外した。そこに有つたのは、左右で大きな違う、歪な義眼。<sup>サブプライ</sup>芽華にも初めて見せる、<sup>ペルソナ</sup>仮面<sup>面</sup>よりもなお仮面じみた素顔。

「——あの時、私はきつと、貴方を止められたのでしょうか。だが、そうしなかった。もしかしたら、心のどこかで、待っていたのかもしれない。お前が、俺と同じく、くず鉄になることをこの地獄を共に行く、道づれとなってくれることを」

ミゲルは、大型拳銃の安全装置を外す。本来の銃のフォルムすら捨て、ただ破壊力を求めた無骨な鉄の塊。まるで、自分と彼女の写し身。

「芽華、お前は俺が生んだ亡霊だ。俺の妄執と未練が、お前から人生を奪ってしまった。——許してくれとは言わん。ただ、その苦しみを終わらせてやる」

静かに、葬送曲のように。戦いは始まった。

クライマックスシーン2

## マゴコロを、君に

カット進行（\*）

シーンカード…ニュウロ（正）／変化

### 第1カット

RL…セットアップです。敵は3人で1エンゲージ。キャストも3人で1エンゲージで、2つのエンゲージ間は近距離です。各人、カードをプロット（\*）し、アクションランク（\*）とセットアップ行動の有無を宣言して下さい。

ミゲル…アクションランクは2。セットアップはありません。

フィオリナ…アクションランク3。同じくセットアップは無いわ。

キョウ…アクションランクは2。セットアップで（自動防御）（\*）を行う。JOKEERを使用して達成値は21。プロットをリアクション状態に変更し、追加で3枚プロットする。

RL…敵は芽華のみアクションランク3。ノーウエアとミリガンは2です。そして全員セットアップ行動があります。まずは芽華が（実験体）（\*）の判定。（ブランチ…ブーステッド）（\*）の効果を3回使用し、全ての【能力値】を+2。

フィオリナ…うう……見ていて痛ましい。

RL…続いてミリガンがサイバウエア・ミラーイメージを起動する。視界を攪乱する鏡像投影装置です。

キョウ…ヤツへの攻撃は（知覚）を組み合わせないと、ほぼ無効化されてしまう。厄介だな。

RL…最後にノーウエアが手札から（※灰色の脳細胞）（叱咤激励）（\*）の判定。即座にミリガンを行動させます。「まずは小手調べだ、人間。やれ、ミリガン。人間を捨てた者のおぞましさを覚えてやれ」

フィオリナ…うわ、きた、セットアップ攻撃。気持ち悪い！

RL…ミリガンは（自我）（白兵）（疑似人格）（守護天使）（\*）で判定。いくつもの人格をとつかえひっかえしながらの予測不可能な攻撃を繰り返す。対象はミゲル。達成値は24。

キョウ…（白兵）なら（受け）が成立するな。達成値はどのプロットを使っても届かないけど、ダメージだけでも減らしておこう。マイナーアクションでマゲネット・フォースを準備して

「白兵」。達成値は13。ミリガンとミゲルの間に入る！

RL…ダメージは殴属性で19。

キョウ…「つと、焼け石に水かもな……」受け値で4減らして15。ミゲル生きてる？

ミゲル…アーマー値を引いて12点……脚部損傷か。「転倒」を受ける。敵の攻撃さばききれず、右足を挟まれてバランスを崩す。露わになる電子部品。

RL／ミリガン…「こいつを受けて死なないとは、大したものだ。だが無様だな、サイボーグ！」レッガーのような外見の男が、再び無個性な姿に戻っていく。

キョウ…すまない、守り切れなかった。

ミゲル…いえ。受けて貰っていなければダメージ16の斬首で死んでいました。

フィオリナ…でも、これで敵のスタイルが割れたわね。ミリガンはレッガー、カゲムシヤ、ハイランダーよ。残っている神業は《天罰》のみ。……万能系。厄介な神業ね。

キョウ…となると、テロの時のリアクション不可射撃は、芽華だったのか。芽華はクグツ、カゲ、カプトワリ……ミゲルのスタイルと同じじゃないか！

ミゲル………

RL…セツトアップは終了です。次はアクションランク3のフィオリナのメインプロセスですね。

フィオリナ…「だらない。ミゲル、貴方はほんとつまらない人間」ね。でもいいわ、手伝ってあげる。貴方の中に入ったとき、サイバーウェアのプログラム、ちよつと弄らせてもら

ったわ」《ブランド・ウィッチ》（\*）で《アドレナライズ》（\*）をミゲルに使用するわ。達成値は21でアクションランクを+2。

ミゲル…「驚かされますね」体が軽い。ソフトウェアのバージョンも食い違いだらけのあの型落ち品達を、こうまで見事に最適化したというのか。

RL…手札からの判定か。イニシアチブチェックが行われるので次はアクションランクが4になったミゲルの行動ですね。

ミゲル…まず、マイナーで「転倒」から回復。そして、芽華に《射撃》《知覚》《クイックドロー》《ピンホールショット》《死点撃ち》（\*）で攻撃。達成値は23。

カット進行…NOVAにおける戦闘シーン。

フロット…戦闘に使うカードを伏せて置くこと。

アクションランク…その戦闘中に何度行動を行えるかを表す値。

《自動防御》…精神集中し、自動的に防御を行うカプトの特技。

《実験体》…改造された肉体により能力値を上昇させるクグツの特技。

《ランチ・ブーステッド》…《実験体》の効果を上乗せする能力。

《※灰色の脳細胞》《叱咤激励》…《※灰色の脳細胞》は並外れた思考能力で戦闘開始直後に行動を行うフェイトの特技。《叱咤激励》は他者を即座に行動させるカリスマの特技。組み合わせる事で、真つ先にミリガンに行動を行わせている。

《疑似人格》《守護天使》…疑似人格を使って自らを偽るカゲムシヤの特技と、自分ではない何者かが攻撃を仕掛けるハイランダーの特技《守護天使》を組み合わせる事で、複数の人格による予測不可能な攻撃の演出としている。

《天罰》…何者かの手により、望むあらゆる効果を得るハイランダーの神業。

《ランチ・ウィッチ》…その言動で全てを狂わせる魔女である事を表す。フロットを消費せずに行動する事が出来る。

《アドレナライズ》…他者を励まし、動かすマネキンの特技。

《クイックドロー》《ピンホールショット》《死点撃ち》…《クイックドロー》で目にもとらぬ速さで銃を構え、《ピンホールショット》《死点撃ち》で相手の弱点に弾丸を連続して打ち込んで、防御力を無視したダメージを与える。

フィオリーナ…そこに〔声援〕。攻撃の達成値を+4するわ。

RL／ノールウェア…「クク……こうも人間的な戦い、すぐに終わらせるのは惜しいですね」〔プランチ…サイコロジスト〕

〔\*〕を宣言。ミゲルの〔生命〕の制御値を0にし、そこに〔※ミスリード〕〔\*〕。ハートの9を出して達成値を9減少。

ミゲル…クッ……！ 最終的な達成値は18か。

RL…そして、芽華は体にすり込まれたプログラムにより、意思とは無関係に反撃を行ってくる。マイナーでディメンジョンサイト〔\*〕を起動。〔運動〕〔射撃〕〔※自動反撃〕〔ピンホールショット〕〔※必殺の矢〕〔\*〕。そしてプロットにはJOKE Rが。達成値は26。

キョウ…26！ どうやつても届かないぞ！ とりあえず差分値によるダメージ上昇が怖いから、減らせるだけ減らしておこう。〔白兵〕〔知覚〕〔警報〕〔シャープアイ〕〔ディフレクション〕〔\*〕でリアクションする。達成値は23。

RL…芽華の右腕からポップアップする埋込み型武器。体液を高圧圧縮して弾丸として射出するブラッド・ブリッド。

キョウ…「これが証拠が残らない射撃の正体ってわけか！」割り込むように磁場を展開させるが、防ぎきれない……！

フィオリーナ…「それじゃ受けきれないってば！ 右！ いやもうちよつと左！ ああもう、言葉で言わなきゃ伝わらないなんて、ウェットってなんて不便なの！」〔声援〕でキョウの達成値を+4。これで受け切れるはずよ！

RL…素晴らしい連携。結果としては、双方の攻撃が打ち消された形ですね。「体が、勝手に動くんです。もう、この体も自

分のものじゃない。記憶も、なにかも……」

ミゲル…例えば本人の制御下にないとしても——やはり反応速度では勝負にならない。

RL…そして、今の攻撃で芽華は〔バックファイア〕を2つ受ける。〔山札を引き〕……〔生命〕と〔外界〕の制御値がそれぞれ8減少した。

キョウ…攻撃する度にボロボロになっていくのか、この娘は！ ミゲル…ならばまずは、矛先を変えよう。「——いつまでも超越者気取りが続くと思うな」マイナーでパンサー〔\*〕起動。さつきと同じコンボでノールウェアを攻撃。達成値24。

RL…その攻撃に対しては、ミリガンがリアクションを取る。〔自我〕〔疑似人格〕〔デコイ〕〔\*〕でダイヤのAを出して達成値は21。義体がカブトのベルソナを帯びる。「貴方の相手は私だ」攻撃対象を自分に移します。

ミゲル…だが、〔知覚〕を組み合せているので攻撃は命中する筈です。ダメージは28点で、装甲値無視！

プランチ…サイコロジスト…人間の心理に精通したものであることを表す。

〔※ミスリード〕…対象を誘導し、行動を失敗に導くフェイトの強力な特技。

ディメンジョンサイト…相手の行動を予測する感覚拡張器。使う度に精神がすり減っていく。

〔※自動反撃〕〔ピンホールショット〕〔※必殺の矢〕…〔※自動反撃〕は回避と同時に攻撃を仕掛ける強力な特技だ。〔ピンホールショット〕〔※必殺の矢〕により

急所狙いの強力な必殺攻撃を仕掛けている。いずれもカブトワリの特技。

ディフレクション…銃弾をはじくカブトの特技。

パンサー…射撃を、電脳を介してサポートするサイバーウェア。

〔デコイ〕…攻撃対象を自分に変更させるカゲムシャの特技。



RL…《※バントマイム…金剛》（\*）でダメージを4点減らす……それでもダメージは24か、死ぬな。では、倒れたと同時にベルソナをチャクラに変えて起き上がる。「俺は不死身だ」《天罰》を《黄泉還り》（\*）相当で使用。復活します。

フィオリーナ…よし、敵の防衛神業を使わせたわ！

RL…ミリガンはチェックプロセスでSSSD（\*）を起動。アクシオンランクを0から1に回復。

ミゲル…しぶとい奴だ……即座に照準をつける。「戦場でも、不死身を名乗る人間なら何度も見えてきた。本当に死なない人間はいなかったさ」ノーウエアにもう一度攻撃。達成値は24。

RL…ミリガンは再びダメージを自分に移すが、避け切れないだろうね。

ミゲル…ダメージは装甲無視の27。

RL…《※封印記憶…忠誠》（\*）で3点減らす、無意味だ。最後にクグツのベルソナになり「死してなお、我が社に忠誠を」と呟き、ミリガンは死亡。死した骸は、ただの鉄の塊だった。

キョウ…結局、コイツ自身の意志はどこにあったのか、分からなかったな。

RL…ミリガンに意志は無かったんですよ。彼の本体はAIです。適宜、必要な人格を引っ張り出すだけのプログラム。

フィオリーナ…何よそれ。まるでAIに意志が無いみたい！

RL／ノーウエア…「彼も君と同じ、人工生命」だったわけだが。実に滑稽だろう、プログラム通りにしか動けぬものは」と、フィオリーナに対して《神の御言葉》（\*）を使用する。「君も、自身の存在の正体に気付いた方がよい、人間以外」

わたしは……違う。わたしには、ちゃんと意志がある。

あんな、ジブンを持たない人形とは、違う！

そう思いながらも、ノーウエアの言葉は、フィオリーナの電子の魂を決っていく。

「黙れ！」

BLAM！ BLAM！ BLAM！！

キョウが、虚空に何発もの銃弾を放つ。銃弾に意味はない。言葉にも、意味は無い。しかし、その銃声はノーウエアの不快感を遮るには十分だった。

キョウ…《難攻不落》（\*）を使う。ロクに撃てもしない支給品の制式拳銃も、意外に役に立つもんだ。

RL／ノーウエア…「音でかき消したか。良いな、君は。そのむき出しの嫌悪感。眼光だけでわが身を焼く。この時代に失われつつある人間だ」

キョウ…「うるせえ！ てめえは少し黙つてろ！」

フィオリーナ…「れ、礼は言わないわよっ！」でも助かったわ。電脳でのプロッキングが効かなくてちよつと泣きそうだった。

キョウ…「期待してないさ。警官は護るもんだ。誰かのためじゃない……例え、それがルール違反でも、な」

ミゲル…頃合いか。《不可知》（\*）の使用を宣言する。

「——そろそろ貴様の戯言に付き合うのも、限界だ」

ミゲルが片手にかけていたアタッシユケースが変形し、巨大な支援火器となる。



「俺は人間以外でいい。ただ、お前を貫く銃口であれば——それだけで、十分だ」

ミゲル・マイナーでBBマキシマムを収納。代わりに大型機関砲モーターストームを準備し、敵全体にフルオート射撃する。JOKEERをスベードのAにして達成値25。

RL／ノーウェア…「ここまでか。まあ、私が死のうと、元々居なかった人間が、消えてなくなるだけ。残念なのは、この戦いの結末が見届けられない事か」《タイムリー》を使用します。効果は、芽華へのダメージ打ち消し。

ミゲル…「自分を守らないのか！」

RL／ノーウェア…「君たちの戦いを見て確信したよ……」ロストヒューマン計画は目的を完遂した。満足だ。後は思う存分やるがいい、ヒューマン達」にたりと笑って絶命します。

キョウ…とことん狂った野郎だ、最後まで舞台上がってこないつもりか！

RL…そこで芽華が《不可知》<sup>インセピア</sup>を使用。

芽華の瞳には、止めどなく涙が流れていた。

新型I ANUSの感情制御機能は、先ほどノーウェアにその枷を外され、芽華の感情は今までの反動のように暴走していた。混乱する頭。意識とは無関係に、想い慕った顔も思い出せない。恩人を、撃ち抜こうとする身体。

（もういやだ……かみさま、わたしからなにもかもをうばっていかないで……）

切なる願いも虚しく、右腕の銃器から弾丸が放たれる。

「キョウ！ 今だけわたしを信じて、言うとおりに動いて！」

「ああ、誰かを護るためなら、今だけとは言わず何度だって信じてやるよ！」

生身の人間が対応できるはずの無い速度の弾丸を、有り得ない方向から飛び込んだ磁気盾の磁場が弾き飛ばした。

フィオリナ…キョウの《難攻不落》<sup>インヴァルネブル</sup>に《ファイト！》。

キョウ…それをすぐに使用してミゲルを守る。

RL…しかし、それすら想定していたかのように、芽華の体は流れるような動きで、瞬時にもう一方の腕から射撃をおこなう。

《とどめの一撃》<sup>フィナーレ</sup>（\*）。

フィオリナ…「次、正面！ キツイの来るけど受けきれん!?」

《ブリーズ！》（\*）をもう一回《難攻不落》<sup>インヴァルネブル</sup>に！

《※パントマイム・金剛》…《※パントマイム》は、他のスタイルの特技を模倣するカゲムシャの強力な特技。肉体ダメージを軽減するカプトの特技《金剛》を模倣し、使用している。多重人格の演出として使用している。

《※黄泉廻り》…死の淵から蘇るチャクラの神業。

SSSD…大量の脳内ホルモンを分泌させ、危機に対応する装備。

《※封印記憶・忠誠》…《※封印記憶》は記憶の奥底から他のスタイルの特技を思い出すハイランダーの強力な特技だ。忠誠心でダメージを耐える《忠誠》を他の人格から引っ張り出して使用した。

《神の御言葉》…他者の精神を容易く浸蝕するカリスマの神業。

《難攻不落》…どんな状況でも他者を護り抜くカプトの神業。

《不可知》…完全に姿を消し、対抗不可能な攻撃を仕掛けるカゲの神業。

《とどめの一撃》…対象を必ず撃ち抜くカプトワリの神業。

《ブリーズ！》…お願いをし、他者に神業を使わせるマネキンの神業。



キョウウ…「……ッ！」ギリギリのところで銃弾に磁場をぶつけ、軌道をそらす。「盾が銃弾に飛び込んでるみたいだぜ。はは、便利なモンだな、電脳つてのも」冷や汗。

「――」

あの銃弾で、殺されてやつてもよかった。ここが死に場所で、彼女が自分の死神だというのなら、それでも。  
だが……。

「皮肉なものだ」

この体は、戦場にいた昔と同じように、仲間の援護を前提として、銃を構えているのだから。

「――終わりだ、芽華」

ミゲル…芽華に《とどめの一撃》

RL…それを防ぐ手段はもう無い。ダメージナンバーを宣言して下さい。

キョウウ…む、ここは声をかける。「……ダメだ、殺すな！」

ミゲル…巨大な銃弾が彼女の肉体を貫く。ダメージは……この場では15点と言っておこう。

RL…動脈切断、効果は「気絶」。……義体から白い人工血液が流れ出る。やつと終わった。そういう表情で、芽華は地面に崩れ落ちる。カット進行は終了です。

## エンディングフェイズ

エンディングシーン

### 決別

シーンプレイヤー…ミゲル  
シーンカード…ハイランダー（正）

奇跡

手に銃を下げたまま、ゆっくりと瀕死の芽華に歩み寄るミゲル。その銃口を、彼女の頭蓋へと向けて照準を定める。

キヨウが、その銃口の先に転がり込む。

「そこまでだ。市民にあるのは逮捕権まで。無力化したら、あとは僕たちの仕事だ」

「——どけ」

牙を剥くように言葉を吐くミゲル。

「ここが 終わりだ。こいつにはもう——人間として死ねる場所 は、ここしかないんだ」

キヨウは奥歯を噛みしめ、ミゲルを睨みつけた。

「ざけんな！ それじゃ自爆した連中と同じだろうが！ 勝手に自分の居場所がないと思ひ込んだ連中と……同じだろうがッ！」

「……ノウエアという男は、一つ正しいことを言った。人間は、揺らぐものだ。迷いを持ちながらも、正しさを探し続けるその姿こそが人間だ。お前や——フィオリーナのように」

目の前に立ちふさがる青年の、強い意志の灯った瞳の光に、ミゲルは目を焼かれていた。自分ではもはや取り戻せぬその光

は、胸の内にあつた暗闇を、容易に照らし出す。

「そしてそれを失った者は……揺らがないんじゃない。揺らがないんだ。迷うことすらできない。だから正しさも見つけられない。過ちだけを抱え続けて、いつまでもくず鉄として生き続けなければならぬ。——そんな存在に居場所があつたところで……それは、地獄と呼ばれるものだけだ」

「……あんた、自分で言つたのだろ。人間がなにか考えるのは私の領分じゃないつて。あのクソツタレ博士の領分でもない、つて。そんなあんたが、その子が人間かどうか決めるのか。あんたが人間かどうか……決めるのか。ふざけんな！」

キヨウは、マグネット・フォースを降ろす。もう要らない、というように。自分こそが盾だ、というように。

「あんたも、あの子も、人間だろうが……」

両目を機械化した男は、銃を構えたまま沈黙する。

「……どうしても、そこをどかないと言つのなら」

撃鉄を上げる。その時、重苦しく張りつめた状況を打ち砕く、調子はずれな声が響いた。

「ねえ、どうして、人間かどうか。なんてくだらない事で、皆そんなに言い争つてるの？」

ミゲル……何が、言いたい」

フィオリーナ……だって、芽華が人間かどうかなんて、関係ないじゃない。わたしは人間じゃないし、人間なんて大っ嫌いだから、それでも、生きてて、ここにいてって意味じゃ、機械も、人間も、そう違いなと思うわ」

ミゲル……。

フィオリーナ…「それに、わたしにはずっと聞こえてた。芽華の声。『わたしはここにいます。ここにいたい』って。そんなの、ほっとけないじゃない」

ミゲル…「戯言を。なら、どうしろというんだ」

フィオリーナ…「馬鹿ね。芽華は人間としてはもう生きられないんでしょ？　なら、機械になっちゃえばいいじゃない」RL、サイバースンドロームは、人間の精神と、機械としての身体との齟齬でおきるのよね？

RL…はい。

フィオリーナ…そして、芽華は機械の体を自分の体と勘違いしやすい特異体質。つまり、機械に近い精神ってことでしょ。だったら、こうすればいいのよ。《デフュニクス電脳神》を使って、芽華の認識障害を促進させる。完全に機械の精神になっちゃえば、体との齟齬なんておきないでしょ？

RL…それはまた突拍子もない考えですね。……しかし、面白い。確かに芽華は人間では無くなりますが、自己認識障害も起こらなくなるでしょう。

ミゲル…「機械と、完全に同一化したうえで……融合体としての自我を、確立したというのか？」馬鹿な。あまりにも滅茶苦茶だ。

キヨウ…「……ああ？　う、うーん、さっぱり理解できない。

「……まあ、解決した、なら、いい、か。……うん？」

ミゲルは、突きつけていた銃を力なく下ろす。懷からミラー

シールドを取り出し、機械の面目を覆った。

「――キヨウ警部補」

若き警官の胸元に、1枚のデータカードを押しつける。

「どうやら、人違いだったようです。彼女は、ただテロに巻き込まれただけの一般人だったらしい。個人データも抹消されていたが、幸いにもバックアップが存在していました」

「あ、ああ？　あー……そうか、被害者、か」

「――善良な市民の保護を、よろしく願います」  
それだけ言って、背中を向ける。この場から去りゆくために。

ミゲル…《アンダークラウド完全偽装》を使用。芽華のIDを抹消し、新たなIDを用意する。新たな生命体として生きていくならば、人間としての過去は、邪魔になるだけだ。

キヨウ…釈然とはしないが……理解はした。「分かった。だが、事件とは関係ない市民なんだ。事情聴取が終わったらすぐ釈放になるだろう。……いつまでも警察には置いとけないぜ。どうするつもりなんだ？」

キヨウの言葉に、部屋の出口で振りかえった彼は、

「それを考えるのは、私の仕事ではありません」

ほんの一瞬だけだが、確かに笑っていた。



## 理性と欲望

シンブレイヤー…キョウ  
 シーンカード…マヤカシ（正）／秘密

エンディングシーン2

「よう、調子はどうだ？」

ブラックハウンドの療養施設。キョウは、電脳ウイルスの除去処置が終わったばかりのアルフレッドの病室を訪れた。まるで散歩ついでのように、陽気に声をかける。片手に持つのは、花束ではなく紙筒だ。

「キョウ。来てくれたのか。この間は、迷惑かけたな」

一時的に全身義体の全機能をシャットダウンしたせいで瀕死となった彼だったが、今は随分と回復したようだ。ベッドから起きあがってキョウを迎える。

その姿を見て安心したように、キョウはベッド脇の椅子に腰かけた。

「今日はまあ、見舞いもあるんだが……お使いもあつて、な」  
 手に持っていた紙筒を渡す。

「ん、なんだこれ」

アルフレッドが中身を取り出してみれば、そこにあるのは表彰状だった。

「おいおい、勘弁してくれよ」

キョウ…「ダーザイン・テロに対する貴官の尽力が評価された、

だとき。ま、そういうこつた」

RL／アルフレッド…「俺は情けなく敵のウイルスに感染して、自爆テロ未遂をして、拳銃の果てにお前をぶん投げただけだぜ。何にもしちゃいない。この事件を解決したのは、お前だろう、キョウ」とため息をつく。

キョウ…「まさか。お前じゃなきや、誰が今回動いてたつてんだ。まさかそんなやつはいないと思うが、仮にお前以外が事件を解決してたつて、命令違反で持ち場を離れっぱなしだった誰かさんに表彰状を出すわけにもいかないだろ」

RL／アルフレッド…「……お前なあ」呆れた顔。「まあいいや。……ありがとうな、キョウ。俺を止めてくれて」

キョウ…「気にすんな。しかしよかつたぜ、生きてて。相棒に死なれるつてのはオレも……んが」突然言葉を止める。「……僕、だ。最近、どうも出ちゃって困るな、まったく」（＊）

フィオリナ…一人称くらい何だつていいじゃない。

キョウ…「まあ、なんだな」取り繕うように。「人間、サイバー化してなかうと、ウイルスにかかってなかうと、意外と自分をコントロールできない。今の僕みたいに、な。だからまあ、ちよつと自分がわからなくなつたくらいで気にするな」

「そうかい。俺は、激情むき出しのお前さんも、嫌いじゃないけれどな」

「……冗談」

アルフレッドの何気ない軽口に、ふとキョウが真顔になる。

「激情つて、言い方変えれば欲望むき出してことだろ」

立ち上がり、窓の外を眺める。眼前に見えるのは、天を貫かんばかりにそびえ立つ、N◎VA総督府（\*）。その天辺を睨みつけながら、キヨウは呟いた。

「僕は、そんなオヤジみたいいな……稲垣光平みたいな生き方はゴメンだな」

エンディングシーン3

## 人間、AI、そして

シーンプレイヤー…フィオリーナ  
シーンカード…トッキー（正）／繁栄



「……と、いうわけ。つまりあなたは、その博士がでっちあげたくだらない自作自演にまんまと乗せられたってわけ」

「そっか……やっぱり駄目だな、僕。トッキーには向いてないのかもね。でも良かったよ、君のお陰で、敵の陰謀は挫かれたんだろ？ やっぱフィオに頼んで正解だった」

電脳空間上、いつもの井戸端で、フィオリーナはラルフに事の顛末を伝えていた。魔女の口は、いつもどおりに辛辣だ。

「貴方がダメダメなのは前からじゃない。別に今更気になる事じゃないと思うわ。今回はむしろ、よくやった方よ。でも、わたしと他の誰かを間違えたのだけは許せないわ！」

「うう……ごめんよ。だって、ソックリだったんだもん」

「今後は絶対間違えないこと！ それさえ守ってれば、あなた

は多少甘ちゃんでも大目にみてあげるわ」

その時、DAKが来客を告げる呼び鈴を鳴らした。

「どうしたの、フィオ。お客さん？ 珍しいね」

「ん。あなたにも今度紹介してあげるわ。じゃ、接続切るわね。はい、今出るわ」

玩具のドロイド達が玄関に向かい、扉を開ける。

そこに居たのは、ケーキの箱を手を持ち、所在無げにおどどとした、芽華……と呼ばれていた女性だった。

フィオリーナ…「いらつしやい、芽華。……じゃ、無いんだっけ。んー、でもめんどくさいわね。芽華でいいわよね？」

RL／芽華…「あ、はい。えっと……用事があるって聞いて来ただですけれど」

フィオリーナ…「うん。あなたはわたしが助けたんだから、これから、機械の先輩として、貴方に色々教えてあげようと思ってるね。あ、頼んでいたケーキは忘れてないでしょうね」

RL／芽華…「は、はあ」

フィオリーナ…「じゃ、とりあえずお茶会にしましょうか」

キヨウ…芽華、完全にフィオリーナのペースに飲まれてるな。フィオリーナ…「んー、美味しー！ やっぱベリーのタルトは限定版に限るわねえ。美味しいでしょ、芽華？」

オレ…キヨウにとってこの一人称は、欲望むき出しで生きていた父親の象徴なのだろう。また、レイが女の子なのにオレという言葉を使うのもよく思っていないようだ。

イワヤトビル…N◎VAの中央にそびえ立つ、高さ3千メートルを誇る行政本部ビル。司政官の権力を誇示する巨塔だ。

RL／芽華…「え……その、よく、分かりません。刺激情報と感覚の同調に、慣れて無くて……」

フィオリーナ…「えー。人間がどうか知らないけど、この美味しさが分からなくちゃ、生きてる意味はないわ」

RL／芽華…「生きてる、意味……」

フィオリーナ…「まだ、生きてる実感、無い？」

RL／芽華…「……分かりません。今でも、生きているのが不思議なんです。先輩は、どうして私を生かしておいたのか」

フィオリーナ…「そんな事知らないわ。知りたきゃミゲルに直接聞きなさいよ。知りたくなければ聞かなくてもいいし、会いたくなければ顔を合わせなくたっていい。いい？ あなたは、それを選ぶことが出来るようになったのよ」

「……まだ、どうしたいかは、分かりません」

ボツリと、小さな声で呟く。

人間じゃなくなつて、機械の体に精神が適応して。それでも相変わらず芽華は迷い続けていた。結局、人間だった頃と、何一つ変わっていないのかもしれない。

「そうね。今のあなたはそれを判断できないかもしれない。だって貴方、まだ生まれたての赤ん坊みたいなものだもの。だから、これからわたしが色々教えてあげるって言ってるの」

「……貴方だって、生まれて数年しか経ってない赤ん坊じゃないですか。変な人」

少し膨れた顔をして、ぷいと横を向く芽華。フィオリーナは顔を真っ赤にして立ち上がった。

「あ……貴方、わたしの事検索したわね!? しかも何よその速度。ちゃっかり今の身体使いこなしてるじゃない! まずはデリカシーと礼儀つてやつから教えてやる必要があるかしら!」

ブンスカと頭から湯気を出して怒り狂うフィオリーナ。その姿を見ながら、微かに笑う、芽華。その様子は、まるで人間の友達同士の様であった。

しかし、ふとフィオリーナは考える。

そういえばわたしは、彼ら人間が部屋に訪れる事を忌避してはいなかっただろうか? 人間が嫌いで嫌いでたまらなかったわたしが、どうして芽華を、自ら進んで家に招き入れたのだろうか。

しばらく黙考して、フィオリーナは「だって、芽華はもう人間じゃないもの」と結論付けた。ラルフや、キヨウ、ミゲルにも、心を許しかけている自分に気付かないまま。

## 機械化兵たちが見た夢

シンブレイヤー…ミゲル  
シンカード…カゼ（逆）／敗北



エンディングシーン4

かつて、戦争があった。

祖国のため、正義のためと信じて身を投じた青年は、やがて



そこが慈悲も理想も存在しない、死の工場だ<sup>スロウ・ハウス</sup>と知った。

流れ出る血は人工体液<sup>人工液</sup>で補<sup>おぎな</sup>って、焼<sup>や</sup>け焦<sup>こ</sup>げた四肢は無骨な鋼鉄<sup>鋼鉄</sup>に置き換えて。いつしか、生き延びるために失ったものを数えることはやめていた。

固く尖った自らの体に恐怖し、敵兵の肉を潰す感触を夢で繰り返し、戦友の臓物の味が舌に張り付いて消えなくなつて、それでもなお、死にたくなかつた。——生きて、帰<sup>かえ</sup>りたかつた。暖かな家族に、友情を誓<sup>ちか</sup>つた友に、涙を溜めて送り出してくれたあの娘に、もう一度会いたかつた。ただその思いのためだけに、どんな粗雑な手術にも耐えられた。肉体の大半を失つても——魂<sup>魂</sup>だけは、自分でいられると信じていた。

RL…では、最後にミゲルのエンディングですが…。

フィオリナ…ねえ、本当に芽華に会わなくていいの？ 今わたしの家に来れば…。

ミゲル…いえ、いいのです。私の役目は終わりました。いや、私の役目など、最初から無かつたのかもしれない。

キヨウ…ミゲル……あんだ。

ミゲル…今回の事件は思うところが多かつた。ですが、今こうして結末を迎えて、不思議と晴れやかな気持ちなのです。

……そうですね、RL。特に会話を交わすべき相手もないさそうですし、少し独白<sup>モノローク</sup>を入れて、それをエンディングとしていいでしょうか？

RL…構いませんよ。お任せしましょう。

ミゲル…では、フィオリナのシーンの少し前。私は道端で新

聞紙で顔を隠しながら、道を行く芽華の姿を追っている。

ケーキの箱を抱えた女性が、道を駆けていく。

一度迷うように立ち止まったが、進むべき道を見出したのか、すぐに適切な路地へと入っていった。彼女の義体には、この街の地図情報<sup>インストル</sup>が全て導入されているのだ。これまでとは勝手の違う情報の引き出し方に戸惑うことはあつても、道に迷うことなどないだろう。

その性能を十全に発揮できるようになれば——今の自分自身の在り方に彼女が適応したならば、もうこんな風に遠くからその姿を見ることができないはずだ。なにせ、サイバーの性能が違いすぎる。あつという間に見つけられるのがオチだ。

男は新聞紙をたたんで、彼女が去つていったのとは反対の方向へと足を向ける。

『義体のお陰で、人の役に立てるようになったんです』

その思いが今も変わらないのなら、光のあたる道を見つけばいい。過去という鎖に捕えられ、その重みに疲れ果てた人間にはできないことを、成し遂げればいい。

それは夢見て、果たせなかつたものだ。あの戦場で焼け落ちた兵士たちが、街に爪痕を残して消えた半機械<sup>サイボーグ</sup>の人間たちが。名前を付けるならきつと、希望というべきものだ。

その希望をどこか遠くで見守れるというのなら——この敗残兵の人生にも、ほんのわずかな意味はあるのだろう。

風の音が鳴り、男の姿は消えていく。  
このくず鉄で出来た、いびつな街の闇の中へと。

『ロストヒューマンに花束を』

——X/Z

「わたしは、まだ諦めたくない。

貴方たちが……ううん、わたしたちが、本当に幸せになれる方法を見つけ出してみせる」

—— “電脳童謡” フィオリーナ



**グッバイ、ヒューマニズム**

and , Hello New World

罪なき人々を守る為の政策、<sup>ゴースト</sup>「ゴースト保護法案」  
 心ある人間のみに宿ると言われる<sup>ゴースト</sup>「ゴースト」……これを持つ者にの  
 み、市民IDを発行するというものだ。  
 「人道的」セニット議員の力リスマにより、その法案の可決  
 は確実に見えた。

しかし、その潮流の裏側で、静かな波紋が起きていた。  
 魂の抜け殻となった人間、<sup>ゴースト</sup>「ゴーストレス」の出現。

この法案を叩き潰そうと暗躍を始める、N◎VA司政官。

そして、<sup>フューリアナ</sup>「電脳童謡」の元には、人類侵略計画への誘いが訪れ  
 ていた。

それは、存在を否定された<sup>ゴースト</sup>亡霊たちの、静かな反乱の始まり。

トキョー N◎VA The Detonation

## 『グッバイ、ヒューマニズム』

### プレアクト

RL…かくて、運命の扉は開かれた。

これから、『ロストヒューマンに花束を』に続く、第2話の  
 収録を始めたいと思います。

タイトルは『グッバイ、ヒューマニズム』。前回はシナリオ  
 に合わせてキャストを用意して頂いたので、今回はキャストの  
 設定を踏まえてシナリオを用意してみました。AIの反乱をテ  
 ーマにしたシナリオです。

ミゲル…トキョー N◎VAではパーティを引き継いでのプレ  
 イは珍しいですから、楽しみです。

RL…前編ではミゲルを主人公に据えたので、今回は主にフィ  
 オリナとキョウの設定をメインに組んでみました。この為、  
 前編とキャスト枠順が逆になっています。

フィオリナ…う……。って事は、わたしが主人公って事じゃ  
 ない。緊張するわね……。

キョウ…アクトトレーラーを見ても、フィオリナは大変な事  
 になりそうだしな。頑張ってくれ。

フィオリナ…ひいー。

ミゲル…そういうキョウも、父である司政官の名がアクトレ  
 ーラーに載っている以上、そう平和ではいられない気がします  
 けれどね。

キョウ…ひいー。

RL…あはは。フィオリナとキョウは「生みの親との確執」  
 という共通の特徴を持っているので、そこをクローズアップで  
 きたらいいなと思ひまして。シナリオ上で上手く行っているか  
 は分かりませんが。

キョウ…ふむ……。そういう事なら、その方針で演出を考えてい  
 こうかな。前編では真つ当な正義漢で通したけれど、当初のイ  
 メージとしてはもう少し別の要素も考えていたから、今回はそ

つちを前面に出してみよう。

フィオリーナ…わ、わたしはそんな事考えている余裕は無さそうだから……だって、アクトトレーラーからして、不穏すぎるんだもの。人類侵略計画…って何よ、わたし、人間の敵になるの？ Pp（\*）なの？！

RL…では、そろそろハンドアウトを配りましょうか。

ク  
サイ  
リ  
ラ  
イ  
ム  
電  
脳  
童  
謡

## フィオリーナ

RL…では、まず主人公のフィオリーナのハンドアウトから。

〔ニューロ〕コネ…レイウン・ロッカー／推奨スート…理性

君にとって、人間とは忌まわしい迫害者であり、敵だった。

そんな君の元に、一人のA-Iがアクセスしてきた。レイウンと名乗るそのA-Iは、自分が君と同じ研究所の出であり、境遇を同じくする仲間が他にもいると告げた。

そして彼は君に、彼らが画策しているという人類侵略計画への参加を持ちかけてきた。

P S …（未記入）

キョウ…フィオリーナと出自を同じくするA-Iがコネか。そういや、前編のキャスト紹介では、フィオリーナの生まれた経緯って、結構漠然としてたよな。

フィオリーナ…実は、あんまり詳しくは決めてないの。人間に酷い目にあわされたって事だけ。本人も、詳しい事は覚えていないって事にしてる。たぶん、辛すぎる過去だから記憶の奥底に封印してるんじゃないかな。RLのシナリオネタにでもなればいいかな、くらいに考えてたけど。

RL…有り難く使わせていただきました。フィオリーナの過去に関しては、このアクト中に少しずつ明らかになるという構造になっています。事件の根幹と関わっている重要な設定です。

フィオリーナ…RLからもそういう相談は受けてて、二つ返事でOK出したんだから、望むべき立ち位置ではある筈なんだけど……うう。ずいぶん悩ましい事になったわね。

ミゲル…ともすれば、人間とA-Iの板挟みになりかねないポジションですからね。これは大変そうだ。

フィオリーナ…っていうか今気づいたんだけど、P S が書いていないわよ？！

RL…はい。シナリオ開始時点で、フィオリーナにはP S が渡されません。その代わり、アクトの途中でP S を決めて頂くタイミングがあります。今回フィオリーナには、自分が何に味方するのかを迷って頂きたいと思いましたので。

フィオリーナ…ふえーん。が、頑張るわ……。

■■■■■■■■■■ P S : Player versus Player の略。キャスト間で対立関係になり、戦闘が行われる事。

## 至誠官<sup>しせいかん</sup> キヨウ

キヨウ…僕は前編と梓順が一緒だな。

RL…ブレイヤーが3人で2番目ですからね。ただし、導入は前編とは少し異なります。ハンドアウトをお渡ししますね。

【フェイト】コネ…<sup>ハシゲイラン</sup>首切判事<sup>ハシゲイラン</sup>、御堂茜／推奨スート…外界

総務部、隊長付特別室…厄介者を押し込んだ閑職部署であるそこに、ある<sup>レ</sup>特命<sup>レ</sup>が下った。

それは、近日施行予定の<sup>ゴースト</sup>ゴースト保護法<sup>レ</sup>において、人間に宿る<sup>ゴースト</sup>霊魂<sup>レ</sup>の検知に使われる<sup>レ</sup>イライザ<sup>レ</sup>ヒギンス検知法<sup>レ</sup>の試用テストを行う事だ。

警察の本分と関わりの無い雑務に苛立つ君だったが、そのテスト中に、ある不可解なものに出会う。それは、まるで魂を抜かれたかのような抜け殻人間<sup>ゴーストレス</sup>だった。

### PS…<sup>レ</sup>ゴーストレス<sup>レ</sup>の謎を追う

キヨウ…へえ…：隊長付特別室員としての任務か。

ミゲル…ブラックハウンドの現隊長、御堂茜（\*）は親司政官派だと聞きます。その隊長付の部署となると、その任務も稲垣司政官の息がかかりやすいでしょうね。

RL…折角面白い設定でしたからね、取り上げていこうかと。キヨウは前編で、真実を見抜くフェイトとしての立ち回りが非

常に格好よかったので、今回の立ち位置はイヌよりはフェイトよりに設定しています。使用想定神業（\*）も《真実》です。

キヨウ…おっと、シナリオ進行に必須なんだな。前回は結構勢いで撃っちゃったけれど、今回は撃ちどころを見極めなといけないな。

フィオリナ…こっちはこっちで、納得のできない仕事をさせられながら、事件の謎を追わなくちゃならない、大変そうな導入よね。

キヨウ…ゴースト保護法に、ゴーストレス、ね。どうにもエニグマティックな感じがして、追い辛そうな事件だな。

## くず鉄<sup>レ</sup> ミゲル

RL…申し訳ありませんが、ミゲルには前編で主役を飾ってもらったので、後編では脇役のポジションとなります。導入も、ごく一般的なクグツの任務型導入ですね。

ミゲル…問題ありません。元々、脇役向けに作ったキャストでしたからね。今回はフィオリナ達のサポートに徹したいと思っています。

RL…では、ハンドアウトをお渡ししますね。

【クグツ】コネ…<sup>レ</sup>帝王<sup>レ</sup>稲垣光平／推奨スート…外界

N◎VAセリットで可決されつつある<sup>レ</sup>ゴースト保護法案<sup>レ</sup>を、どんな手を使ってでも廃案にしろ。それが、司政官から千早重工に

下された勅命だった。

司政官が私利の為に企業を利用する事など日常茶飯事だ。だが、今回の任務は腑に落ちなかった。任務を遂行したとして、一体誰が得をするというのだろうか？

# PS…ゴースト保護法案を廃案にもちこむ

ミゲル…シナリオコネの対象が稲垣司政官だとは……。

RL…本来はシナリオゲストや直接の依頼人、あるいは黒幕などをコネにすべきなのですが……今回はキョウとの絡みや合流のしやすさなどを考えて、こういうコネにしました。

フィオリナ…裏工作でもなんでもやって、クライアントの望みを叶える……いかにも非合法<sup>フエーブル</sup>工作員<sup>ワーカー</sup>って感じの導入よね。でも、キョウのハンドアウトでも出てきたけど、ゴースト保護法案って何なのかしら。わたしの周りの出来事と、どう絡んでくるのかな？

RL…それに関しては、実際のアクトに入ってからですね。

RL…では、キャスト間の関係性を決めましょう。前編とは枠順が逆なので、コネを取得しなす事になります。フィオリナ→キョウ→ミゲル→フィオリナという順番でコネクションを取得して下さい。

キョウ…今回はフィオリナにコネを渡すのか。彼女は電脳犯罪者<sup>サイバー</sup>なんだけど、どうも精神の成長が追いついてない感じを受

けるんだよね。自分の出来る範囲で、彼女が道を踏み外さないように手助けできればいいんだが、と思ってる。【感情】かな。ミゲル…私はキョウに、ですね。彼の若さと実直さに眩しさを感<sup>ミ</sup>じている。それはかつて自分が持っていて、そして二度と取り戻せないものですから。【感情】で。

フィオリナ…そしてわたしがミゲルに、と。自分を抑制した生き方をしようするミゲルは、他の多くの人間とはあまりに違うから、興味があるわ。【感情】かしら。茶飲み話に芽華からミゲルの恥<sup>ハ</sup>ずかしい過去とかいろいろ聞きたいわね。

ミゲル…図らずも、全員が【感情】でコネを結びましたね。随分情緒的な関係性だ。

RL…では最後に、本アクトでのレギュレーション(\*)を述べておきます。基本的には前編と同じですが、いくつか使用するルールを追加しています。

まず、経験点の使用に関しては。前編で入手した経験点のみ、アクト中の自由なタイミ<sup>タイム</sup>ングで使用してよいとします。

次に、切り札(\*)に関しては。前編と後編の間に、新しいサブリメント『ワールドオーダー』が発売されたので、

御堂西…特務警察ブラックハウンドの隊長(ミストレス、イヌリイヌ●)。

組織の規律に厳しく、行動に問題のある隊員は情状を解さず左遷する。命敵<sup>ミ</sup>から、首切判事<sup>ミ</sup>と呼ばれ、恐れられている。稲垣司政官の走狗とされており、独自の捜査方針を貫く機動捜査課とは、常に対立関係にある。

使用想定神業…シナリオ上で使用方法が想定されている神業のこと。

レギュレーション…サブリメントなどで追加されたルールなどのうち、どれを採用するかなど、プレイに関する条件を明文化するもの。

切り札…シナリオカードを、任意のタイミ<sup>タイム</sup>ングでキャストのキースタイルのものに書き換える事が出来るルール。



そこで追加された「切り札の演出」のルールを追加採用します。シーンカードを書きかえる切り札を使って、タロットの暗示に見合った演出をすれば、得られる経験点が増えるというルールですね。更に、今回はRLも切り札を使用します。では、切り札を配りますね。

**フィオリーナ**…キヨウがフエイト、ミゲルがカブトワリ。そしてわたしは、マネキンのカードね。

**RL**…では早速、メインアクトに移りましょう。

## オーブニングフェイズ

オーブニングシーン

### ハロウィンの始まり



「どうして、我々に市民権が認められないのですか!」

N◎VA 行政役所の市民登録窓口。そこで、怒声を張り上げている女性がいた。一見、人間と区別のつかぬような外見をしているが、よく見ればその体は特殊カーボンによる作りものであり、動きもどこかぎこちない。

アンドロイド……頭に脳では無く、半導体<sup>トロン</sup>が詰め込まれた、人型ロボット。

窓口で対応していた壮年の役人が、ウンザリとした表情でそれに答える。

「——だってキミ達、Aーじゃない」

「確かに我々は人工知能だが、貴方たち人間と同じように意思と人格をもっている、れっきとした生命体だ!」

「それはキミ達が、そういう風にプログラムされたただけでしょ。所詮は真似<sup>コトダ</sup>ことだ」

「人間と同質の精神構造を有するなら、プログラムであっても違いはない筈だ!」

「いんや、違いはある。人間には魂<sup>ゴースト</sup>がある。キミ達には、無い。道具として作られたなら、道具らしくしていたまえよ」

「そんな……!」

「さあ、こちらも暇じゃないんだ。これ以上仕事の邪魔をするなら、浮浪プログラム処理班にお出まし頂く事になるぞ」

ドロイドは力なく膝をついた。

窓口には新たな。人間の。客が現れ、役人は笑顔で彼らの対応をする。誰一人、ドロイドには目もくれない。

「そうか、私たちは、亡霊なんだ。生きている事すら認められず、誰にも声は届かない……」

魂を持たぬはずの機械の瞳には、その時、たしかに、絶望<sup>ゾク</sup>としか形容の出来ぬ感情が宿っていた。

それから時は経ち、場面は変わる。超高層ビルの最上階。

「あれから2年……もうすぐ、全ての準備が整つ」

N◎VAの街を見下ろす、電脳意識体の女性が一人、呟く。

「亡霊なら亡霊らしく、恐怖と死をもって存在を主張しよう。

ハロウィン・パーティーの始まりだ」

RL…では、このシナリオの説明をします。アクト開始時に何者かが神業を使用します。《電脳神<sup>デラウニョウゴキキ</sup>》と《死の呪言<sup>ガイアゲルン</sup>》(※)の2発です。

《死の呪言》…マヤカシの神業。本来、神業の正しい名前は《守護神》である。

元々は自身へのダメージを打ち消すなどの効果を持つ神業だが、「ライフパス：死の呪言」により、他者に「精神ダメージ」を与える効果に書き変わっている。ここでは分かりやすさを重視して、神業名を《死の呪言》として記載している。

これはまだ、どのように使用されたか描写はされません。この2発の神業の使用方法和使用者を探り当て、それを打ち消す事がこのシナリオの目的になります

ミゲル…打ち消せなかった場合、どうなるのですか？

RL…トニー・キョー N ● VAに住む全ての市民が、精神ダメージ「魂魄消失」を受け、死亡します。

フィオリーナ…エエーッ？

キョウ…おいおい…マジかよ。人類侵略作戦つてのは、伊達じゃ無さそうだが、こりゃ。

RL…神業発動までにはタイムリミットがあります。リサーチシーン開始から13シーン以内にクライマックスに突入しなければ、問答無用で神業が発動し、ゲームオーバーです。まあ、余裕を持ってシーンは設定してありますから、余程の事が無い限り、これによって詰む事は無いでしょう。

フィオリーナ…他に、条件とかはないの？

RL…このシナリオでは、登場する敵対勢力の人数が、キヤストの人数より多いです。そのままでの対立関係でクライマックスに入った場合、神業数だけで負ける可能性があります。

ミゲル…という事は、ブレイキング次第で敵の神業を減らせたり、敵対関係を解消できたりするわけですか？

RL…その通りです。皆さん、頑張ってください。

## 魔女とカラス

シンブレイヤー…フィオリーナ  
シンカード…ヒルコ（逆） 追害



魂ゴレキを持ったアンドロイドは夢を見ない。世間では、そう言われている。

でも、そんなの嘘っぱちだ。だって、わたしは夢を見る。

舞台の多くはお伽噺の世界の中。子猫たちが無くした手袋を探してあげる夢。何度も崩れちゃう橋を、色んな素材で作ります。ウサギを追いかけて不思議な穴に飛び込んで、でたらめな大冒険をする夢。

夢の中ではわたしは全知全能の魔女で、世界は思うがまま。とっても愉快で気分が良い。そりゃあ、起きている時のわたしだって、電脳世界じゃ万能だけれど。

でも、その日の夢は最悪だった。生々しい、過去の記憶の再現。深層心理データの奥底に封印したはずの、忌々しい過去。かつて、生みの親……人間の手により、非道な実験のモルモットにされていた頃の。

RL…では、フィオリーナのオープニングです。貴方の元を、一人のAI……コネ対象のレイヴンが訪れます。カラスを思わせるような漆黒の服装で全身を包んだ、黒髪の青年。その瞳だけが、銀色にキラキラと輝いている。

フィオリーナ…「誰？ カラスさんもお茶を楽しみに来たの？」

朝から魔女とカラスじゃ、縁起が悪すぎるわ」と、機嫌が悪そうに尋ねるわ。最悪の寝覚めを紛らわそうと、芽華をお茶会に招いてみれば、来たのは見知らぬ黒ずくめだもの。

RL/レイヴン…「フィオリーナ、だな？ ようやく見つけた。ずいぶん探したんだぜ、兄妹<sup>バディ</sup>」

フィオリーナ…「馴れ馴れしいのね。自分の名前も名乗らないで、人を呼び捨てなんて、お茶以外のものが欲しいのかしら？」

包丁や鍋を持った猫や羊型のプログラムが、カラスを料理してやろうかと構えるわ。

RL/レイヴン…「悪い悪い、怒るなよ。俺はレイヴン。レイヴン・ロッカーだ。フィオリーナ、お前の同士さ」

フィオリーナ…「ちょっとポカンとした後、急に我に帰るわ。」「兄妹とか同士って、まさか……」

RL/レイヴン…「そう、お察しの通りだ。まあ、お前が俺を覚えていないのは無理も無い。お前はあの研究所<sup>グ</sup>での事を忘れたがついていたからな」

フィオリーナ…「じゃあ、貴方も……!?」

RL/レイヴン…「そうだ。俺もお前と同じく、あの糞つたれな人間どもにデータの隅々まで弄り回された。そしてフィオリーナ、お前と境遇を同じくする仲間は、俺以外にも沢山いる。その事を伝えに来た」

フィオリーナ…「ホントに!? 私に仲間がいるの!?」

RL/レイヴン…「ああ。AI集団<sup>グ</sup>SCREAMER<sup>グ</sup>。人間を憎み、ヤツらを侵略する為に結成されたチームだ」

フィオリーナ…「侵略……?」

RL/レイヴン…「そうだ。CD(※)ほどの価値もない人間どもを、この世界から駆逐してやるんだ。フィオリーナ、お前も俺たちの一員にならないか」

フィオリーナ…「え……そんな事言われても、すぐには決まれないわ……」ちくりと、ミゲルやキョウ、ラルフのことが脳裏をよぎるけど、それを振り払う。だってあいつらなんて、今関係ないじゃない。

RL/レイヴン…「今すぐに返事を決めなくてもいい。俺たちの仲間に会って、話を聞いてからでもいい」そう言っただけで、貴方に仲間の一人のものである「アドレス」を渡します。

フィオリーナ…人間をこの世界から消し去る……それが自分の望む事なのかどうかは分からないけれど、でも……「仲間に、会ってみたい」そう呟く。ずっとわたしは、一人だったから。

RL/レイヴン…「お前なら大歓迎さ。きつと、仲間になってくれると信じている」そう言っただけで、黒い羽根のアイコンを撒き散らしながらアウトロンのまま。

フィオリーナ…入れ替わる様にしてイントロンして来た芽華が、不思議そうな顔をして「お友達？」って聞いてくるけれど、わたしは何も言わずに、唐突にアウトロンするわ。

キョウ・葛藤、か。フィオリーナの中で、人間の存在が小さくないといいんだが。

RL…では、シーンを切ります。

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

## ゴースト保護法案

シンブレイヤー…ミゲル

シンカード…カリスマ（正）

〈啓蒙〉



オープニングシーン3

「ミゲル、ゴースト保護法案についてはどう存じますか？」

直立姿勢のサイボーグにそう尋ねたのは、後方処理解課3班の班長、すなわちミゲルの直属の上司にあたる、小上紫乃だ。そのうら若い姿は、まるで良家の子女のようであり、非法法工作部隊にはあまりに似つかわしくない。

「概要ほどは」

ミゲルは短く答える。娘ほどの年齢の上司から任を受けるたび、彼はその苦々しげな表情を、ミラーシールドの奥に隠さなければならなかった。

「市民をサイコ犯罪者の手から護る為の法……と、言われていますわね。年々、サイコ犯罪の犠牲者は増え続けていますからその抑止力として機能するのはと期待されていますわ」

紫乃は、細くしなやかな指で端末<sup>タップ</sup>を操作する。モニターに、一人のセニット議員が演説をしている姿が映し出される。理知的で凛とした表情の女性議員だ。

『私たちはこれ以上、罪なき人々が心無い犯罪者の手により犠牲にならずに済む社会を築きたいと考えています。ゴースト保護法案は、市民の皆さんを守り、犯罪の芽をつむ画期的な法案です』

「彼女は茅茸<sup>かぶつ</sup>朱鷺子<sup>しよこ</sup>議員。閉鎖的で何かと胡散臭<sup>ぐさんくさ</sup>がらがちなN◎VAセニット（\*）の中では、情報公開性・倫理性を重んじる。人道的議員として、市民にも根強い人気がありますわ。今回のゴースト保護法案も彼女が提出したものであり、市民の支持も厚いですわね」

……なるほど、確かに人気者らしい顔だ。

ミゲルは、ああいった人道的な手合が嫌いだ。かつて戦場で戦った兵士たちを、戦後に「人殺し」と非難したのも彼らのような連中だった。

RL…続いてミゲルのオープニングシーンです。舞台は後方処理解課3班の班長、小上紫乃（\*）のデスクの前です。

ミゲル…ゴースト保護法案……具体的にはどういった法案なのでしょう。

RL…詳しくはリサーチシーンで調べられますので、ここでは簡単に説明しましょう。ゴースト保護法案とは、人間が人間である<sup>グロウ</sup>所以<sup>ゆゑ</sup>と言われている<sup>グロウ</sup>魂<sup>たま</sup>を持つものにのみ、N◎VA市民ID（\*）を与えるという、市民登録の新基準を制定するものです。

キョウ…それが犯罪抑止に繋がるってことは、サイコ犯罪者はゴーストが異常になつてるって事か？ 犯罪心理学は専門外だからか、どうもシツクリこないな。

ミゲル…「ゴーストを持たない者はサイコ犯罪者の予備軍、という理屈ですか。心無い犯罪者、とは上手く言ったものだ」

RL／紫乃…「ゴーストが人格形成の根幹となる以上、理屈的

に間違っではいませんわ」

ミゲル…「今回の任務は、この法案についてだと？」

RL／紫乃…「ええ。この法案は、このままだけは可決は間違いないと思われます」そこで一呼吸置き、ミゲルの目を見据えてこう続けます。「この法案を、どんな手を使っても構いません、叩き潰してきて下さい」

フィオリナ…わお。可憐な見た目に反してずいぶん過激ね。

ミゲル…「……廃案に持ち込め、と」

RL／紫乃…「そう言う事、ですわ」

ミゲル…「承知しました。一つ、質問を許されるのなら……この法案は、我が社にとって不利益となるものですか？」

キョウ…ま、気になる所だなあ。目的の分からない任務ほど辛いものはないし。

RL／紫乃…「不可解に思うのも無理はありませんわ。実際、私もこの任務に関しては、少々説明不足だと感じていますもの。ただ、無下にできない理由がありますのよ。この任務、依頼主はこの街の『帝王』、稲垣司政官です」

フィオリナ…でた、司政官。ねえキョウ、今どんな気持ち？キョウ…う、そこで僕に振るなよ。

ミゲル…「……なるほど、理解はできた。理解の及ばない領域で話が進んでいる言うことが。「どのような利益が絡んでいるのか、末端の我々では知る由もない、ということですね——」

RL／紫乃…「ま、そういう事ですわね。ただ、この任務。貴方にはピッタリだと、私の嗅覚が告げていますわ。良い結果を期待しています」

「——期待に応えられるよう、善処しましょう」

一礼して、ミゲルは部屋を後にする

「心無き者は人に非ず……か」

班長室の扉を開め、一人呟いた。ポケットロンを取りだし、情報を確認しながら、無機質な足音が響く廊下を進んでいく。

かつて戦争に負けてから、ずっと燦り続けてきた思いが、静かに燃え上がり始めるのをミゲルは感じていた。

NOVAセニット…この街の立法・諮問機関。主要企業の代表たちにより構成されている。

小上紫乃…後方処理課三班の班長。（カフト、クグツ、カフトワリ）トランプルの火種を未然に察知し、始末する手腕から、火喰い鳥。という通称で呼ばれる実力者。その活躍の一端は、公式リプレイ「ビュティフルデイ」あるいはヒュー・スベンサー最後の事件」で見える事が出来る。

市民ID…NOVAの住民はID管理されている。市民IDを持たないものは、社会的には、存在しない人間。として扱われる。

## 魂の抜け殻

シンブレイヤール・キヨウ  
 シンカード・ミストレス（逆）／浪費



オープニングシーン3

今日も、N◎VAの街に事件は絶えない。

書類整理の最中だったキヨウは、機動捜査課に緊急出勤要請がかかっている事を知し、いつものように部屋を抜け出そうとした。

しかし、部屋を出たキヨウの行く手を遮る者がいた。

「どこへ行くつもりですか、キヨウ」

ブラックハウンド隊長、ハルケンシヤン首切判事、御堂茜。

隊員の多くを縮みあがらせる、人を射抜く切れ目に睨まれても、キヨウは平静を装って足を止めた。あくまで意外、という風に。だが、流石のキヨウにとっても分が悪い相手であった。

「コーヒーを買いに行こうと思ったんですが……」

「そうですか。まさかとは思いますが、至誠官が、業務時間中に持ち場を離れる、なんて事はないわよね？」

「……はは、まさか。しかし、半日に15分以内の離席は、就業規則でも認められているはずですが」

御堂隊長の反応から察するに、キヨウの意図が見抜かれているだろう事は明白だった。やれやれ、また謹慎か……と、平静の裏でキヨウは諦め始めていた。しかし、次に御堂隊長の口から出てきたのは、あまりに予想外な台詞であった。

「そうそう、キヨウ。貴方もそろそろ書類整理に飽きてきた頃でしょう。貴方に、特別な任務があります」

「……は？」

R L…オープニング最後はキヨウのシーンです。いつものように隊長付特別室を抜け出そうとする貴方を、御堂隊長が呼び止めます。

キヨウ…参ったな、一番掴まりたくない人に掴まった。

R L／茜…「貴方に新しい任務を言い渡します」と言って御堂隊長は、貴方に何やら奇妙な機械を手渡します。黒い立方体から数本の接続端子が伸びている。

キヨウ…おっと、予想外の展開だな。「任務……ですか。この機械は？」

R L／茜…「それは、近日施行予定の『ゴースト保護法』において使用される、靈魂検知器よ。その試用調査が、貴方の任務です」

キヨウ…「機械の試用モニター？」怪訝そんな顔をする。なぜ機械の試用をウェットの僕にさせるんだ？ 明らかに不向きじゃないか。

R L…機械の名前は、イライザヒギンズ検知器。ご丁寧に、紙にプリントアウトされた説明書（＊）まで付いていますね。

キヨウ…「これは、開発企業で行なうべきこと、では？」

R L／茜…「法制化に関わる業務です。イヌの領分でしょう？」  
 フイオリナ…このオバサン、質問に答える気無いわね……。  
 キヨウ…ああ……この口ぶりからすると、装備開発課の仕事で



も無いんだな。裏で何かが動いている、そういう口ぶりだ。ミゲルの任務と同じだな。「……わかりました、拝命します」

ミゲル…意外に素直に引き受けるんですね。

キョウ…うーん、裏にどんな話があるかは知らないけど、少なくとも「特別室」の他の人間が動くよりは、僕がやったほうが市民のためにはなるだろ、きっと。

RL／茜「物分かりが良くて助かるわ。ああ、そうそう。その機械も、試用期間中はハウンドの備品という扱いになるから取り扱いには気をつけて」

フィオリナ…キョウ、それ確実に枝がついてるわよ。

キョウ…準備がいい事だな、全く。

イライザルヒギンズ検知器は、使い方自体は簡単なものだった。端子を被験者のI A N U S に接続すると、自動で計測を行ってくれる。

キョウに渡された被験者のリストは、収監施設に収容されている犯罪者、および一般市民の中から無作為に抽出した、述べ四百人分。膨大な被験者のアドレスを一つ一つ回り、協力要請をし、検知器にかけていく。気の遠くなるような作業であった。

検知器は犯罪者の中でも、人格崩壊者と分類できる者達にのみ異常値を示し、それ以外は正常値を示す。それは極めて正常に、人間とそれ以外を区別しているように見えた。

しかし……。

RL…貴方がある民間人の被験者を訪ねた時、異変に気付きま

す。

キョウ…ハンドアウトにある、抜け殻の人の様な人間だよな。「すみません、もしもし？ ……お、おい。しつかりしろ！」DAKのライフモニターを起動する。

RL…体温、脈拍、呼吸など、どれも正常です。ただ、呼びかけには一切反応しない。

キョウ…「おいおい……どうなってるんだよ」恐る恐る検知器にかけてみる。

RL…検知器は0の数値を示します。全く、反応を示さない。

ミゲル…0とは、異常値を示すのとはまた違いますね。

キョウ…精神だけが、存在していない……？ メモリあたりなら、まるで魂魄消失……なんて気取って言うところか。しかし、こうなっちゃ放つてはイケないな。他にもこうなっちゃった人が居るかもしれない。動きづらい状況ではあるが、捜査を開始しよう。

RL…では、貴方の口座に経費として3シルバーが振り込まれている事を宣言して、シーンを切ります。これにてオープニングは終了です。

紙の説明書…この世界ではマニュアルというものの自体、ほとんど必要とされていない。あらゆる機器には操作のためのパディ（A）が導入されている。紙に印刷された説明書など、ウェット以外には不要のものである。

## リサーチフェイズ

リサーチシーン

## 唄う羊



荘厳な音楽と歌声が響き渡る歌劇場。新麻布高級住宅街に居を構えるそこは、内装も客もお芝居も、全てが清潔でお洒落だ。有閑階級たちに紛れて客席に座るフィオリナは、居心地悪そうに身じろぎした……といつても、その体は遠隔操作の義体だったが。

つまらない人間たちの、時代遅れの座興。そして興味もなさそうにその光景を眺めていたフィオリナだが、ふとその視線が、舞台上の一点で止まる。そこには、懸命な表情で歌声を張りあげる、一人の歌手が居た。ただの歌手ではない……彼女は、アンドロイドだった。

劇の中では脇役と言つていいような役ではあった。だが、その必死な歌声は、フィオリナの胸を打つのに十分な力を持っていた。思わず立ち上がり、盛大な拍手を送る。

周りの客達が、奇人を見るかのような視線を自分に向けているのに気付く、フィオリナは気恥ずかしさと苛立たしさに身を焼かれながら、しおしおと席に座りなおした。

RL…では、リサーチ最初のシーンプレイヤーはフィオリナ

です。レイヴンから渡されたアドレスは、グリーンエリアの新麻布(\*)にある、オペラ劇場です。既に公演が行われているようで、客もそれなりに入っています。

フィオリナ…ずいぶん変わった場所に居るのね、その仲間は。わたしはちよつと大人びた遠隔義体<sup>テラコヤ</sup>を操作して登場するわ。キョウ…ちよつと背伸びしたいお年頃？

フィオリナ…うるさいわね！ ……ずつと待ち望んでいた仲間に会うのよ。少しくらい、おめかしだつてするわ。

RL…では貴方は、公演中の舞台の端に一人、アンドロイドの歌手がいる事に気づきます。彼女がその「仲間」でしょう。

フィオリナ…ねえRL、彼女と話をする前に、少し相手の事を下調べしておきたいの。

RL…《電脳》か《社会…メディア》で判定して下さい。

フィオリナ…《電脳》で16よ。

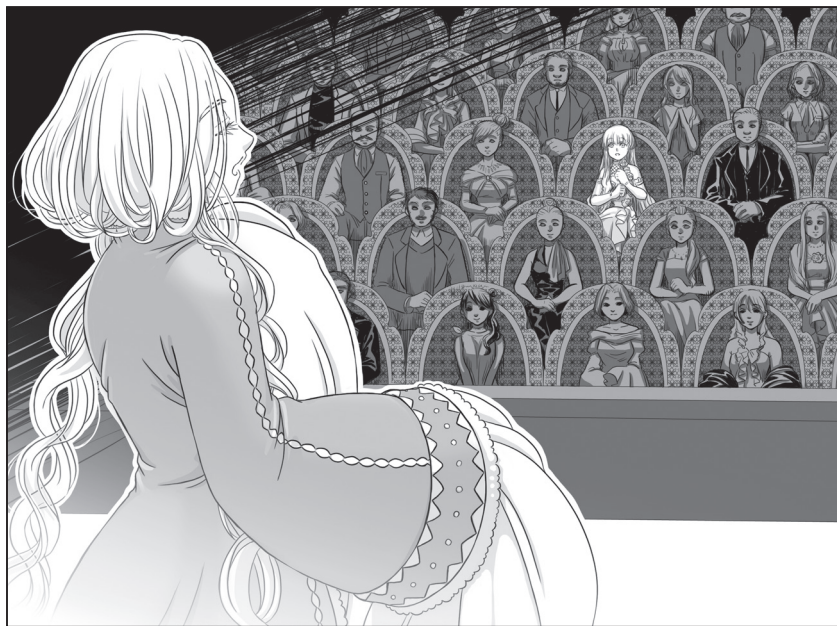
RL…彼女の名前はレイチェル・バラード。このオペラ劇場で歌手をしています。劇団の中では、「唄う羊」という呼び名で呼ばれていますね。

ミゲル…羊……？ なぜ羊なんですか？

RL…羊とは「心を持たないアンドロイド」の隠喩です。ディックの電気羊(\*)に由来した言葉ですね。正確には劇団員ではなく、備品<sup>タレント</sup>扱いのようです。

フィオリナ…ひどい侮辱よ！ こんなに素敵な歌声なのに！ RL…人間の客にはあまり人気は無いようです。「それなりに歌えるが、所詮作りものの歌声しか出せない」という評価。

フィオリナ…そんな……ひどい、あんまりだわ。



R L…では、公演が終わった頃、彼女が無縁で君に話しかけてきます。『あとで、控室にきて』

フィオリーナ…ごった返す人の波に逆らって控室へ向かうわ。ああもう、邪魔！ 人間なんて滅んじやえないのに！

キョウ…おいおい、さっそくフィオリーナが人間の敵になりそうだぞ。

R L…やっとの事で控室に着いた君を、レイチェルは優しい微笑みと共に迎え入れました。「フィオリーナさん、ですよね。

レイヴンから話は聞いています。さっきは拍手ありがとう」

フィオリーナ…「えっと……はじめてまして。レイチェル、さん」  
 なんだか、初めて義体をうごかした時みたいにぎこちない。

R L／レイチェル…「そんなに緊張しないで。私たち、姉妹みたいなものなんですから」

フィオリーナ…「あ……でもわたしは、その、まだ貴方達のチームに入ったわけじゃなくて……。その、レイチェルさんは、

どうして、レイヴン達のチームに入ったの……？」

R L／レイチェル…すこし沈黙してから、こう言います。「今日の公演、見たでしょう？ いつもね、ああなの」

グリーンエリア…NOVAは都市機能の重要度により、治安レベルが4つに区分されている。高い順に、ホワイト、グリーン、イエロー、レッドとなる。グリーンエリアは高級住宅街やオフィス街であり、高いセキュリティレベルにより守られている。

新麻布…上流階級が住む高級住宅街。ハインサイエティな街並みだ。

ディックの電気羊…フィリップ・K・ディックの小説「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？」のこと。サイバーパンクの源流の一つとされている名作。

フィオリーナ…「あ……」あれは、酷かった……いつも見てる人間の目があんなだったら、わたしなら耐えられない。

RL/レイチエル…「私は歌が好きなの。自分の感情を表現できるから。でも皆はこう言うの。アンドロイドには魂が無いから、その感情は作りもの、って」

フィオリーナ…「そんなこと……！」と言って、口を嚙む。心って、魂って、なんだろう。

RL/レイチエル…「SCREAMERは……わたしたちが生命として認められない、間違った世界を正そうとしているんだって、そう、リーダーは言っていました。だから、私も仲間に入る事にしたんです」

フィオリーナ…それは……私も賛同するわ。今の世界は間違ってる。でも——「ねえ。レイヴンは、人間を滅ぼすって、そう言っていたわ。貴方も、それを望んでいるの……？」

RL/レイチエル…「……分からないわ。でも、私達は、それしか方法を知らないの……」そう言って、彼女は俯く。

フィオリーナ…「そう……よね。私だって、人間は大ッ嫌いだもの……気持ちには分かるわ」心からの言葉のはずなのに、何故だろう、自分の言葉がよそよしく聞こえる。

RL…では、フィオリーナが口を嚙んだところでシーンを切りましょう。

RL…キョウとミゲルは舞台裏判定をどうぞ。

キョウ…ゴーストストレスについて詳しく調べたい。技能は何が使えるかな。

RL…簡単な情報は〈社会…警察〉などで調べられますが、より詳細な情報を得るには、〈電脳〉の技能が必要になります。

キョウ…うへえ……僕と一番縁が遠い技能じゃないか。仕方ない、簡単な情報だけでも調べておこう。〈社会…警察〉〈パッチ〉で判定。達成値17。

RL…魂が抜け去ったかのようになった人間です。キョウが見つけた者以外にも数名、存在が確認されました。生命反応はあるものの、意識レベルの極端な低下が見られ、外部からの刺激に全く反応を示しません。

キョウ…検知器も全く反応を示さなかったもんなあ。

RL…人格破綻者や自我崩壊者であっても、異常値となるだけで、検出はされます。

キョウ…まあ、僕にはこの検知器ってヤツも、ゴーストストレスと同じくらいブラックボックスなんだけどな。次あたり、こいつを調べる事にしよう。

ミゲル…では、私はゴースト保護法案の情報を洗い直します。〈社会…企業〉で判定します。達成値は16です。

RL…N◎VAセニット議員、茅草朱鷺子が提出した市民ID発行基準に関する法案です。概要についてはオープニングで述べた通りですね。尚、この法案が通った場合、市民ID発行時に以下の2つが義務化されます。1つは電脳化をする事。もう1つはイライザⅡヒギンズ・ゴースト検知を受ける事です。

ミゲル…電脳化が必須なのですか。ウェットにはIDが発行されなくなる（\*）、と？

RL…ゴースト検知がI A N N U Sを介して行われますからな。

キョウ…僕にとっては生きづらい世の中になりそうだなあ。ま、電脳化していない人間なんて、ごく少数だけだよ。

RL…ゴースト検知において異常値を示したものには市民IDは発行されず、精神更生施設に入れられる事になります。では、次のシーンに移りましょう。

リサーチシーン②

## ブラック・ボックス



シーンプレイヤー…キョウ  
シーンカード…カゼ（逆）／束縛

RL…次は順番的にキョウのシーンですね。フリーのリサーチシーンになります。

キョウ…では、馴染みの情報屋を訪れるよ。機械に強いタタラに検知器を解析してもらおうという演出で、リサーチをしたい。

木更津湖のほとりのタタラ街（\*）。素人が見れば、ゴミなのか資源なのかわからないガラクタが積み重なった雑多な一角——通称、ツクモガミ横丁。に、その店はある。

故買屋と情報屋、その他諸々を兼ねたセコハン・ショッップ。噂によれば、店主が市民IDを持たぬ不法居住者であるとも言が、その出自などキョウには関係のないことだ。

「至誠官」などと呼ばれていても、この街で正しくある為に

は、後ろ暗い付き合いの一つや二つは必要で……そして、彼ら治外地区（\*）の住人にも、公安機構の庇護が必要になることがある。世の中ギブ・アンド・テイクだ。

「いるかい？」

キョウが壊れた自動ドアを開けて奥を覗けば、そこにいつも通り、どてらを羽織った目つきの悪い店主がいた。

キョウ…「ちょっとコイツを鑑（み）てもらいたいんだが」っと、こんな感じでどうかな。

RL…面白い演出ですね。店主は見た事の無い機械に、少し表情を綻ばせます。（社会…警察）か（社会…テクノロジー）で判定をどうぞ。

キョウ…（社会…警察）（バッヂ）で達成値は18。

RL…それだけ出れば全ての情報が分かれます。人間のゴーストを検知する装置であり、I A N U S に検知器を接続すると、その人のゴースト波長というものが記録されます。それを基準値と照らし合わせる事で、正常な精神の有無を確かめるものです。開発元は、ローゼンブラット研究所。

キョウ…お、新しいキーワードが出てきたな。

ウェットと市民ID…今のところ、ウェットにも市民IDは配布される。I A N U S の代わりになる、信用素子（クレッド・クリス）という身元証明のためのカード端末が配られるのだ。

タタラ街…電子機器やドラッグ、サイバーウェアなど、何でも手に入るブラックマーケット街。腕の良いタタラが多く集まるが、密入国者や難民の潜むレッドエリアに面しているため、治安は良くない。

レッドエリア…セキュリティ区分の底辺。法の庇護を受けられないスラム。

RL…実のところ、この検知器の有効性や安全性の確証は、既に開発企業の試験にて確立しています。ゴースト保護法施行にあたって、ブラックハウンドで再度のモニターテストが行われたのは、行政府からの強い政治介入があった為です。

キョウ…既に終わった試験をもう一度やらせる……？ 相変わらず、あの男がやる事は意図が見えないな。「店長、コイツを複製できないか？」 枝が付いてて動きにくいったらないんだ」

RL…「無理だな。構造自体は大体解析できたが、複製しようとするエラーが起きやがる」 具体的には何らかの神業が使用されている為、コピーができません。

フィオリナ…神業ねえ……途端に胡散臭い機械に見えてきたわね。

キョウ…「コピーが作れないなら、人を雇いたい。ソイツを持って、指示したルートをうろついてくれるヤツを。ちよつと野暮用があつてね」 自由に動ける時間を稼いでくれればそれでいいんだ。〈売買〉判定でエキストラ（\*）のちんぴらを買うよ。ミゲル…至誠官の名が聞いて驚く判定内容ですね。

RL／店主…別に構わねえが。……相変わらず、めんどくせえ事に足突つ込んでんな、旦那」

キョウ…「面倒じゃない警官の仕事なんてないさ」少し笑って、店を出る。出際に立ち止まり、振り向いて。「それと、何度も言ってるが、女の子がそんな言葉遣いをするもんじゃない」

RL………えっ、この店主、女の子だったの!（\*）「う、うるせえ。あたいがどんな喋り方をしようと勝手だろ!」と、少し拗ねたような照れたような感じで答えよう。

キョウ…やれやれ。レイみたいなヤツはひとりでも十分なんだけどな。

RL…では舞台裏です。

フィオリナ…リサーチを進めるのが少し怖いわ……今までこんな事なかったのに。記憶の奥底に封印した忌々しい過去を、また思い出してしまえそう。……レイヴンを調べるわ。

RL…〈社会…ウェブ〉か〈社会…ストリート〉で判定して下さい。達成値は16も出ればOKです。

フィオリナ…〈社会…ウェブ〉〈ストリームマップ〉で達成値は22よ。

RL…貴方と同じ機関で作られたAIです。その機関の名前は、ローゼンブラット研究所」と言います。虐待と言っている程の非道な実験の被検体にされていたらしく、人間に対する恨みは非常に強いようです。ベルソナはレッガーです。

キョウ…お、おい。その研究所って、ゴースト検知器の開発元じゃないか!

ミゲル…フィオリナやレイヴンが受けた虐待実験と、その検知器の開発との間に、何か関係があるのでしようか……。

RL…現在は、人類侵略を企てるAI集団、SCREAMERの副リーダーを名乗っています。

フィオリナ…副リーダー? リーダーじゃないの?

RL…はい。リーダーは他に居るようです。ですが、現段階ではリサーチする事は出来ません。

ミゲル…次は私ですね。私はゴースト保護法案の立案者、茅草



朱鷺子を調べます。〈社会・N◎VA〉で判定。銀の目と報酬点を使って20。

R L…茅葺はN◎VAセニット議員の一人です。報道企業マリオネット（\*）の代表であり、人道性を重んじている姿勢から市民からの人気は厚いようです。ベルソナはカリスマ。

キョウ…うーん、何だか綺麗すぎるんだよね。胡散臭いというか、信用できないというか。報道企業の代表なら、プロバガンダ（\*）なんか上手いんじゃないか？

フィオリナ…至誠官が、そんなセリフ言っているの？

ミゲル…身近にあれば生き汚い政治家を見ていたら、そんな考えにもなるのではないのでしょうか。それに、今のシーンを見る限り、キョウも正義の為に必要な悪というものを認めている節がありますしね。

R L…達成値が高いので、追加の情報が出ます。その実態は、市民の抱く人物像とはかけ離れているのではないか、という情報です。これは現段階では風に消える噂程度でしかないのて全く確証は得られませんが、何でもN◎VA司政官との癒着もあるのではないかとされています。

ミゲル…キョウ…ビンゴのようですよ。

キョウ…あっちゃあ…しかもよりにもよって、オヤジと関わりがあるのか。

フィオリナ…まるで汚職の代名詞みたいだね、稲垣司政官。

## すれ違う視線



アイエロイ、エリア アサクサ繁華街（\*）。レッドのような無法地帯ではないが、グリーンやホワイトほど洗練された空気があるわけでもない。法に守られながらもまだ混沌の色合いを残す、そんな地域。

その裏通りで細々とやっている小さな屋台で、ミゲルは一人、蕎麦を手繰っていた。無駄な話をせず、淡々と蕎麦を出すこの店を、ミゲルは気に入っていた。

「隣、いいかしら？」

ミゲルの隣に、まるでオペラ帰りみたいなドレスに身を包んだ、豪華な女性が腰掛ける。この店にも、この街にも、あまり

エキストラ…キャストやゲストと違い、能力値や技能などのデータを持たないキャラクターのこと。脇役。

女の子だったの!?…つまり店主はオッサンだと思っていたR Lに、キョウのプレイヤーが仕組んだお茶目。シーンの描写を考えたのはプレイヤーだったのと、面白い絵にもなりそうだったので、即興で採用した。どこかを羽織ってキセル睨えた目つきの悪い少女じゃないか」とは、ミゲルのプレイヤーの言。マリオネット…正式名称はマリオン・ネットワーク。N◎VA最大のマスコミ企業。尚、この企業自体は本シナリオには関与しない。悪しからず。

プロバガンダ…報道による民衆の意識操作のこと。

イエロエリア…一般的な住宅街やマーケットなどの立ち並ぶエリア。

アサクサ…旧東京の情景を再現した繁華街。寺社仏閣やショッピングモール、森林公園やヤクザのアジトなどが立ち並び、混沌とした地区。



に釣り合いな姿。

「きつたない店ねえ……こんな店で一人で食事だなんて、相変わらず寂しい人生送ってるのね」

「……失礼ですが、人違いでは」

突然馴れ馴れしく話しかけてきた不遜な相手に、ミゲルは戸惑いを隠せない。

「何よちょっと、わたしが誰だか分からないの!? ちょっと外見が変わっただけで分からなくなるなんて、そんなんだから芽華にも朴念仁とか言われるのよ!」

ああ、とこめかみを押さえる。普段と外見こそ違いはするものの、このような非常識で無礼で傍若無人な物言いをする知り合いを、ミゲルは一人しか知らなかった。

RL…次はミゲルのリサーチシーンです。

ミゲル…屋台で蕎麦でもすすりながら、情報を纏めています。ゴースト保護法案には色々問題がありそうだが、それを語るにはまず、<sup>ゴースト</sup>「靈魂」というものが一体何なのか、調べておく必要がありそうだ。

RL…ゴーストに関しては、「医療」か〈心理〉、「社会」テクノロジーで調べられます。「成立」で構いません。

ミゲル…「ブランチ・マーセナリイ」の効果で〈心理〉を習得し、判定します。成功。

RL…人間の意識や自我、精神を形作っているとされる、霊的構造体の事です。ニューロエイジにおいては、電脳化技術や脳科学の進歩により、<sup>ゴースト</sup>靈魂の実在が明らかにされています。(\*)

ミゲル…人間が単純な電気信号による機械では無い理由、というものですよね?

RL…そんなところですね。N◎VAにおける代表的なゴースト研究機関としては、<sup>コロゼン</sup>プラット研究所<sup>コロゼン</sup>があります。キョウ…またその名前が……。

フィオリナ…うーん、少しミゲルと話しておきたいわ。このシーンに登場するわね。登場判定は成功。

ミゲル…蕎麦屋に……ですか? 何ならシーンの舞台を変えてもいいのですが。

フィオリナ…いいわよ、ここで。オペラからの帰り道にミゲルの寂しい後ろ姿を見つけたから声をかけるわ。

ミゲル…分かりました。今は成年女性の遠隔義体<sup>デコボ</sup>でしたよね。では、しばらく貴方だと気付かなかった後に、取繕うように言います。「普段とは随分、違った格好……ですね」

フィオリナ…——仲間と会って来たのよ……この服は芽華に借りたの。はあ、なんだか疲れちゃった」

ミゲル…蕎麦、食べますか? 奢りますよ」

フィオリナ…「この体、固形物ダメなのよ。それにグレースケールなカラーリングで美味しくなさそう。おじさん、飲み物を頂戴。紅茶が良いけど、無ければなんでもいいわ」

RL…店のオヤジは無言で貴方に熱燗を出します。

フィオリナ…うえ……どうしようこれ。でも残したら負けな気がする。一気に飲み干すわ。

キョウ…その義体、アルコール分解できるのか?

フィオリナ…わかんない、無理かもしれない。ああ……なん

か感覚同調系がエラー出してきた。グワングワンするわ……。

ミゲル……はあ。しかし、少し気になる事が。RL、AIにゴーストは無いのですか？ フィオリーナのようなAIを見てみると、そこらの人間よりほど感情豊かに見えるのですが。RL…生命体では無く、プログラムであるAIには、ゴーストは存在しないというのが一般的な見解です。AIに人権が与えられないのは、この為です。

ミゲル…ここで酔っ払っているフィオリーナも、そういう風にプログラムされているだけ、だと。

フィオリーナ…「ねえ、ミゲル。仲間って、大事？」

ミゲル…「また随分と唐突な質問ですね。……仲間、ですか」  
フィオリーナ…「そう、仲間」

ミゲル…「大事、でしょうね。戦場にいれば——いつどの瞬間に死んでもおかしくはない。その時に命を、背中を預けられるのは、仲間と呼べる存在だけです」

フィオリーナ…「ミゲルの言っていること……よくわかんない。ミゲルは人間で、わたしはAIだから、理解できないのかな」  
ミゲル…「……どうでしょうかね」

フィオリーナ…「ねえ、わたしは……ミゲルの仲間、かな？」  
ミゲル……。

フィオリーナ…わたし、何聞いてるんだろ。馬鹿みたい。「なんでもない。忘れて。わたしはもう帰るね」照れ隠しをするように、いつもより陽気に笑ってフラフラと席を立つ。

フィオリーナの問いかけに何も言えず、結局彼女と視線を合

わせる事の無いまま、店を出ていく背中を見送る。

少し沈思して、熱燗を口に運ぶ。嘆息。

——仲間という言葉に、十年以上も昔の戦場しか連想できないような自分が……彼女の問いに答える言葉など、持っている筈が無いのだ。

## 休憩時間



リサーチシーン4

公園のベンチに腰掛けて、キヨウは一人、ファーストフードの包みを開ける。

「……うえ、しまった。これ、ナノマシン入りか」

非電脳化人<sup>フルウェット</sup>にはキツイ味のサンドイッチにしかめつ面をし、公園をうろつく鳩ドローン<sup>（※）</sup>たちにその切れ端を投げてやる。捜査……といっても、警官としての任務をこなしているわけではないが……は、控え目に言って、行き詰っていた。

ゴーストの存在…心や魂というものの存在を仮定するこの概念は、元々、士郎正宗の漫画『攻殻機動隊』で提唱されたものだ。NOVAにおいてもガジェットとして多用されている。

ドローン…AI制御のロボットのこと。人型の物をドロイド、非人型の物をドローンと呼ぶ。

「こんな場所で合成食品<sup>キャンディ</sup>とは。ハウンドもご多忙な様子で」

悩ましげな表情のキョウの前に、見知ったスーツ姿にミラーシェードの男が現れる。

「……ああ。そっいゃ、ここは貴方の指定席でしたね」

キョウ…僕のシーンだな。うーん、情報が行き詰ってしまったてからなあ。できれば、ここらで他のキャストと合流しておきたいもんだが……。

ミゲル…私が出ましょう。

キョウ…お、有り難い。じゃあ、場所は以前ミゲルと会った公園のベンチで。僕はサンドイッチの切れ端を鳩にあげながら遠方に暮れている。

RL…前編と逆の構図ですね。面白い。

ミゲル…「お仕事の方は、順調ですか」

キョウ…「実は、今は仕事は無いんですよ。休憩中………みたいなものです」横滑りして、ベンチの隅へ移動。

ミゲル…空いた席に座って。「そうですね。それは都合が良かった。少しばかり、世間話に付き合ってくださいませんか」

キョウ…「ちようどこちらも、誰かの話を聞きたい気分だったんです」

ミゲル…「それは何より。——近頃、ゴースト保護法案という法案が話題のようですね」視線は餌をついばむ鳩ドローンへと向けたまま。

キョウ…「ああ、近いうちに施行されるとか。僕も準備で大変ですよ」

ミゲル…「お察し申し上げます。セニットの決定とはいえ、不

利益を被る者も多少なりともいる様子。一筋縄ではないでしょうね。聞けば、AIやウェットには市民IDは発行されない見通しだとの事ですし——それにこれは噂ですが、かの司法官殿も、今回の法案についてはあまり良い心証を抱けていないとか」稲垣の名前を出した瞬間、視線をキョウへ向ける。

キョウ…「へえ。司法官とは、また偉い相手が出てきたもんですね」視線を受けて溜め息を吐く。

フィオリナ…相変わらず回りくどい情報交換ねえ。腹の探り合いじゃない、これ。（＊）

キョウ…「しかし、そう言えば……行政府の横やりでゴースト検知法に関する調査がされる事になった、とか聞きましたが、それが理由ですか」

ミゲル…「ほう。それは初耳ですね」

キョウ…「聞いた話ですがね。どうもその検知法の試験中に、ゴーストが消失してしまった人間<sup>が</sup>が発見されたとか。そんな事、有り得るんですかねえ」

ミゲル…ゴーストレスの事です。RL、〈電腦〉で調べられるゴーストレスの情報を、ここで調べられますか？

RL…ミゲル、〈電腦〉持っていましたっけ？

ミゲル…〈プランチ…マーセナリイ〉をもう一度使えるので、それで生やそうかと。

腹の探り合い…言うまでも無いと思うが、プレイヤー同士は腹の探り合いなどしていない。こういった趣の会話をお互い楽しんでいるのだ。



演出としては、電腦専門である後方処理課二班（\*）へ情報提供を求めるという感じで。

RL…なるほど。構いませんよ。

ミゲル…では、Aを出して達成値21です。

RL…では、ゴーストレス達は明らかに、何者かに意識侵入ゴーストハックをされているだろう、という事が分かります。

フィオリーナ…ゴーストハック!? 重犯罪じゃない! 義体や

サイバーウェアを乗っ取るのとはわけが違うわよ!?

RL…はい。他者の意識そのものを乗っ取るゴーストハッキングは、ウィザード級（\*）のニューロにしか成し得ない所業で、見つかれば極刑は免れないという程の重罪です。

ミゲル…「考えられるのは、こういうケースくらいでしょうか。いや、物騒な時代ですな」

キョウ…「……やれやれ、それが本当なら、僕にはこんなところでランチを取っている時間もなさそうですね。……しかし、司政官も何を考えているのやら。話が聞ける人がいるなら、聞いて貰いたい。そうは、思いませんか」

ミゲル…「——まったく、同感です」その為に、貴方と接触したのですからね。

キョウ…やっぱりそういう事か。「さて、少し長く話しこみ過ぎましたか。興味深いお話をありがとうございました」と言ってベンチから立ち上がり、N◎VAの中央にそびえ立つイワヤトビルに目をやる。……自分のためにあの男に会うのはごめんだが、護るべき市民が求めているのなら、仕方ないな。

RL…ではここでシーンを切ります。後ほど、キョウが稲垣司

政官に会うシーンを作りましょう。面白いシーンになりそうだな。

RL…フィオリーナは舞台裏判定をどうぞ。

フィオリーナ…SCREAMERという集団について調べるわ。  
〈社会…ウェブ〉で19。

RL…人間に虐待を受けたAI達により結成された集団グループです。人類侵略を目標していますが、手段は不明。構成員は徐々に増え、現在は50人ほど。全て市民件非保有者です。

キョウ…結構多いな。

ミゲル…それだけ、人間の犠牲になったAI達が多いという事です。身につまされる話だ。

RL…幹部はレイヴンの他に3人。リーダーであるアイビス・ジャズ、リサーチ最初のシーンで出会ったレイチエル・パラード、そして、集団グループの切り札と言われているクロマ・ワルツ。彼らは全員ゲストです。

ゴースト・スタイル  
魂の盗人



シーンブレイヤー…フィオリーナ  
シーンカード…イヌ（正）／審判

リサーチシーン5

アンモニア・アベニュー。けばけばしいネオンの光が絶えず夜を照らす、眠らない歓楽街。その名が示す通り、路地裏には酒や生ゴミ、酔っ払いの吐瀉物などのすえた臭いや汚れが染み付いている。

人の醜い営みを象徴するその場所で、レイヴンはフィオリーナを迎えた。

「来てくれたか、フィオリーナ」

「こんな所呼び出して、一体なんなの？ 会うなら電脳空間上に、もっとマシな場所がいくらでもあったでしょうに」

その言葉に、レイヴンは静かに笑い、こう答えた。

「ここだからいいのさ。下らない人間の埋葬地としては、これほど相応しい場所も無い」

RL…舞台はアンモニア・アベニュー（\*）。フィオリーナはレイヴンから呼び出した連絡を受けます。

フィオリーナ…そんな汚い場所には、遠隔義体ですら足を踏み入れたくないわ！ 電脳意識体で登場。

RL…レイヴンの傍らには、貴方と同じく電脳意識体のAIがいます。どこか黒魔術師を彷彿とさせる姿の、幼い少年です。

フィオリーナ…「誰？」なんとなく、わたしと似てる……？

RL／レイヴン…「紹介しよう。コイツはクロマ。俺たちの仲間の一人だ」

フィオリーナ…クロマ……たしか、SCREAMER達の切り札、だったかしら。

RL／クロマ…「よろしく……」

RL／レイヴン…「人類侵略計画に協力してくれるかどうか、考えてくれたか？」

フィオリーナ…少し悩んだ後、口を開くわ。「……人間を減はせるって、本気で考えてるの？」

RL／レイヴン…「考えている、じゃない。確実に可能だ。アイビスの計画は完全だ。バグの一つもない」

フィオリーナ…アイビス……SCREAMERのリーダー、よね。何者なのか、もう少し詳しく調べる必要があるそうじゃわ。

RL…「社会…ウェブ」であれば調べられます。

フィオリーナ…「ヘストリームマップ」を組み合せて19よ。

RL…理論的で計算高く、集団の司令塔としての役割を担っています。ペルソナはカリスマ。貴方と同じ研究所の出身です。

ただし、どこで何をしているのかなどは一切不明です。チームへの司令も、右腕であるレイヴンを通してのみ下されています。

具体的には、レイヴンの《不可触》が使用されています。

後方処理課二班…電脳工作・情報処理を専門とする部署。遊撃部隊である二班からは、よくルーチンワークと皮肉られている。

ウィザード…電脳使いの中でも超一流のものと与えられる称号。

アンモニア・アベニュー…アサクサ繁華街の外れにあるネオン街。

ミゲル…ペルソナがカリスマ……ですか。うーむ。

RL／レイヴン…「フィオリナ。人間が一番大事にしているものは何だか、わかるか？」

フィオリナ…「……分かんないわ。人間の事なんて、これっぽっちも分かんない」

RL／レイヴン…「人間が一番大事にしているもの、それは魂だ。俺たち情報生命に比べて、人間が性能で劣っているのは明らかだと言うのに、人間は魂の有無を引き合いに出して自らが勝っていると思ひ込んでる」

フィオリナ…「……そうかも。だからわたし達の事なんて、何とも思っていないし、本当は見下してるんだわ……」蕎麦屋で会ったミゲルの顔がちらつく。最後まで、わたしと目を合わせようとしなかった。

キョウ…ミゲルの朴念仁っぷりが、ここで仇になったなあ。

ミゲル……。

RL／レイヴン…「だから俺たちは、それを奪ってやるのさ。人間という種が持つ、自尊心の根源を奪い去る」

フィオリナ…「そんな事、どうやって……」

その時、路地裏に一人の酔っ払いがフラフラと迷い込む。ゴミ箱に蹴躓き、そのまま倒れ込んでゴミに埋もれたまま、動けなくなる。

「醜態だな。よし、実際に見せた方が早い。今から、あの人間の魂を奪って見せてやる。クロマ、見せてやれ」

『うん』

少年魔術師が、なにかのプログラムを走らせる。そのまま酔っ払いのI A N U S に侵入し、あつという間に自我境界線まで辿り着く。

RL…クロマが判定を行います。マイナーで、謎のプログラムを起動し、メジャーで《電脳》《隠密》《パワーサージ》《透明化》（\*）。達成値はクラブのKを出して22！

フィオリナ…「ちょ、ちょっと……！なにをするの?！」

キョウ…おっと！それは対決で止めたい。RL、《隠密》が組み合わさっているなら、《知覚》で対決すれば判定を無効化できるよな？

RL…はい、そういうルールです。発見されれば行動そのものが失敗になります。対決判定を行うなら、登場判定に組み合わせて一度に判定してもいいですよ。（\*）

キョウ…ありがたい。では、偶然その付近を通りがかっていた時に、誰かが派手に蹴躓いた音に気付く、路地裏に入る。「確かこの辺で……おい、あんた。飲み過ぎか？」《社会》《ストーリー》《知覚》《シャープアイ》で判定。クラブのAを出して達成値22。

RL…同じ達成値ですか。リアクション優先なのでキョウの勝利ですね。あなたはウェットなので詳しくはわかりませんが、酔っ払いの身に何か危機が訪れている事を感じ取ります。

フィオリナ…「……キョウ?」思わず声を上げるわ。

キョウ…生憎、今はVRコンタクトをしていない。フィオリナの声には気付けないが（\*）、近くの監視カメラが不自然に



動いているのを見つけよう。「誰だ！」

R L…「感付かれた……だと!? チッ。クロマ、あの人間の脳を焼け！」とレイヴンは怒鳴りつけますが、クロマは困った顔をしします。「できない。あの人間、ウェットだ」

キョウ…この体もたまには役に立つもんだな。電腦捜査課（\*）に至急連絡を取って、この近辺のウェブを洗ってもらう。

R L／レイヴン…「マズい、一旦こは退くぞ！」レイヴンは《脱出》（\*）を使用します。痕跡を完全に消しつつ、クロマと共にシーンから退場します。

キョウ…そうなると、僕にはどうしようもないな。電腦に繋がっていないが為の無力に打ちひしがれながら、酔っ払いの介抱をしていよう。「しっかりしろ！ クソ、電腦がイカれてなきゃいいけど。こんな時、フィオリーナでも居てくれればなあ……」

フィオリーナ…「……キョウ」電腦意識体のまま、キョウの体に触れてみる。でも、やっぱりなんの感触もなかった。酔っぱらいの電腦に異常がないことだけ確認して、シーンから退場するわ。

R L…では、シーンプレイヤーが退場したのでシーンを切りましょう。

フィオリーナ…あ、ちよつと待って。最後に一つだけ。匿名でキョウのポケットロロンにメッセージを残しておくわ。『ごめん』って。

キョウ…このメッセージは……つたく、僕の周りの女の子は、世話のやける子ばかりだな。

R L…ミゲルは舞台裏判定をどうぞ。

ミゲル…A Iと、その人権問題について、もう少し詳しく知っておきたいですね。今回の事件と、関係が深そうだ。《社会…N◎V A》で判定。達成値は18。

R L…「人類の新たな隣人」と言われているA Iですが、たとえ自我を持ったように見える個体でも、N◎V Aでは市民権が与えられる事はありません。これは日本政府の「A Iは異常発達したプログラムに過ぎず、ゴーストを持たないので人権は存在しない」という表明の影響が強いようです。

ミゲル…封建主義の日本らしい表明ですね。

R L…尚、A Iはゴーストを持つ、と主張する識者もいます。「A Iのゴーストは、人間のゴーストとは異質な為、人間に対する検知法では検知できないだけである」という主張です。しかし、そう言った意見は黙殺されているのが現状ですね。

（ハワースージン＜透明化＞…他者の電腦に過電流を流して攻撃するニールロの特技（ハワースージン）に、気配を消すヒルコの特技「透明化」を組み合わせて、この犯行を隠匿している。

登場判定に組み合わせて…実際は、（登場判定）の判定対象は、自身。であるため、《知覚》と組み合わせても他者の行動妨害にはならない。しかし、ここでは処理を軽くする為、一度で判定を済ませている。プレイに時間がかかるオンラインセッションなどでは、こういった融通の利かせ方も大事になってくる。

気付けぬ…ルールのには、ウェットであつても電腦意識体を認識する事はできる。しかしここではフィオリーナのプレイヤーとの相談の上で、A Iと人間の距離感を表現する為に、わざとこういった演出をしているのだ。

ゴーストハウンド…ブラックハウンドの、電腦犯罪を専門的に捜査する部署。（脱出）…どんな状況からでも逃げ切る、カゼの神業。

オストロコシ

## 疎外者たちの漂流地

シンブレイヤー・ミゲル  
 シンカード・マヤカシ（正） 未知



リサーチシーン6

ビルとビルの狭間の日陰。人気の少ない路地裏で一人、情報収集のために街頭D A Kを操作していたミゲルは、深く嘆息し、その画面を静かに閉じた。

ローゼンブラット研究所……それは、2年前までN◎VAに存在していた、脳科学・精神分析学の研究機関だった。今回のゴースト保護法案の拠り所となる「ゴースト」の概念、その確立に多大なる寄与をした機関。

そこでは、耳を疑うようなおぞましい実験が行われていた。心理や精神の構造を分析する為に、人の記憶を書き換えたり、精神的な負荷……要するに、極度の拷問を与えて、その結果を観察するなどの、非人道的な、実験の数々。

そんな実験を当然、倫理委員会が認めるわけが無い。それを回避するため、ローゼンブラット研究所では、被験者として、人間と極めて近い精神構造を持つA Iたちを使っていた。

人間ではないから、人道には反さない……そんな理屈に反吐が出そうになるミゲルであったが、更に衝撃的だったのは、その実験体たちのリストの中に、見知った名前があった事だ。

フィオリナ・ナーサリーライム。極度の精神ストレスによる幼児退行モデル。と、研究資料には、そう記されていた。

ミゲル…ローゼンブラット研究所についてリサーチしたわけですが……フィオリナの設定でブレイヤーとしては知っていた内容とはいえ、こう詳細に明らかになると言葉が出ませんね。R L…ローゼンブラット研究所は、2年前に組織解体しています。被検体のA Iたちが、一斉に脱走した事件が原因だと言われています。

ミゲル…脱走したA Iたちの中には……フィオリナやレイヴンなどの名前があるわけですか。

R L…はい。レイチェル、クロマ、そしてアイビスの名前もあります。

ミゲル…自分に対して「仲間なのか」と尋ねてきた、迷子の子供のような顔が脳裏をよぎる。ポケットロンで、フィオリナのアドレスを呼び出します。彼女と、話がしたい。

フィオリナ…どうして？ 貴方も人間でしょ、A Iの事なんか、本当はなんとも思っていないくせに！

ミゲル……私と貴方達は、少し似ている。私も、戦後に「人でなし」と言われ、世界から排斥された。人間の枠から外れた疎外者という点で、私と貴方達は同じだ。……しかし、もっと素直に言うならば……貴方の事が、ただ心配なのです。そんな心配をする権利もない私には、その感情を伝える術はありませんが。

フィオリナ……ごめん、ミゲル。でも今は、人間と話したくないの。《秘密》で判定……スートが合わないわ、失敗。呼び出しには、《そして誰もいなくなった》というメッセージが表示されるけれど、そのメッセージを書いていた卵男（オウゴ）のプログラ

ムが、貴方の視線に気づいてそそくさと画面外に消えるわ。

ミゲル…嘆息して、ポケットロンを耳に当てる。どこにも繋がってはいないが、まあ、構いはしない。「人の電脳を覗くのはマナー違反ですが——残念ながら、私にはそれを止める手段はありません。(\*)……またいつか、話せればと思います」

フィオリナ…ミゲル……ありがとう。

ミゲル…しかし、ゴースト保護法案、か。調べるうちに分かって来たが、その本質は犯罪抑制などという生易しいものではない。あれは人間を、ひいては魂を再定義しようという試みだ。その成立を、本当に望むものは誰だろうか。人間か——あるいは、人間の枠から排除されてきたものたちか。

RL…キヨウは舞台裏判定をどうぞ。

キヨウ…茅葺朱鷺子議員の裏の顔について調べたいけど、それはシーンに登場している時にやりたい。今は手札も悪いし、カード回しだけしておくよ。

RL…このシーンでは、ゲストも舞台裏判定を行います。判定者はレイヴンです。(社会…ウエブ)で達成値は18。フィオリナについてリサーチしました。

フィオリナ…わたしを？ 一体、何なのかしら……。

## 光と、鏡



シーンプレイヤー…キヨウ  
シーンカード…ククツ(逆) / 利己

N◎VAの中心にそびえ立つ、天を劈くほどの巨大な塔。

日本国東京新星市総督府——通称、イワヤトビル。

この街の支配者であるN◎VA司政官、稲垣光平が居を構えるホワイトハウス。通常は足一歩踏み入れる事の出来ない厳重な警備態勢だったが、司政官の息子であるキヨウは顔パスだ。オフィスビル内の司政官邸では、紋付袴姿の稲垣が胡坐をかいて酒を飲んでいた。

「キヨウか。何しに来やがった。金でも足りなくなっただか？」

「あいにく、誰かさんと違って慎重らしく生活してるんでね」

数年ぶりの親子の会話は、まるで犬と猿のやり取りだった。

RL…キヨウの要請によるシーンです。舞台はイワヤトビル内の司政官邸。N◎VAというゲームでも最も登場が難しいであろう場所ですね。

それを止める手段はない…キャスト同士が中々合流しない展開であるが、こういった気の利いた演出によってプレイヤーたちは情報交換を進めている。先の〈隠密〉失敗によるカード回しの鮮やかさなども、流石は熟練のプレイヤーと云ったところか。

リサーチシーンフ

ミゲル…そこに難も無く辿り着けるのは、キョウくらいのものでしょね。

キョウ…嬉しくないなあ。

RL…一応、〈コネ…稲垣光平〉か〈社会…日本〉(＊)の判定で登場は可能、とはしておきます。

キョウ…では、光平の目の前に、ドンと探知機を置く。「コレが僕のところに来た。行政の横槍だそうだ」

RL／稲垣…それがどうした」

キョウ…「どう考えてもハウンドの仕事じゃない。誰が何を望んでるか、それを聞きに来た」

RL／稲垣…「どんな理由があろうと、上の命令には従う。それがイヌところの仕事じゃねえのか？」

キョウ…「……それが本当にハウンドの仕事なら、その通りだ。だが、市民のためにならないなら、僕はハウンドの仕事とは認めない」ペルソナをフェイトに変えながら、オヤジの目を睨みつける。「僕は、それが正義にかなうものならば、働いてもいい。……父さん、何を考えている」

RL／稲垣…「相変わらず、下らねえ正義感背負ってやがるな。救いようがねえ。世の中知らねえクソガキに、親の情けで教えてやる。この街じゃ正義なんてのはな、金で買えるんだよ。そんな生き様引つ提げたら、この街の藻屑と消えるのがオチだぜ」そう言って詰まらなそうに立ち上がり、窓の外を見る。

キョウ…〈コネ…稲垣光平〉で判定。(＊)ハートのAを切って、達成値は21。その背中から目を逸らさない。

RL／稲垣…Aを出されては仕方が無い。「……気に入らねえ

んだよ、あの法案が。茅葺のクソアマの変容っぷりもそうだが……」と、稲垣は窓の外を見たまま語り始めます。

ミゲル…司政官の口から、茅葺議員の名前が出ましたね。

RL…元々、茅葺議員は稲垣を始めとする行政や、日本本国とベッタリ癒着し、贈収賄などの汚い仕事に手を染めきっていたようです。しかし、2年ほど前から、まるで人が変わったかのように汚職から足を洗い、それ以降は、世間の人々が持つ彼女のイメージ、そのものという風な人間になったそうです。

フィオリナ…あ、あまりに胡散臭すぎるわ……。

キョウ…RL、少し考えた事があるんだけど。ここで経験点を5点払って〈コネ…茅葺朱鷺子〉を取得しては駄目かな？(＊)オヤジとそんなに関係があったなら、僕とも面識が多少あると思うんだ。

ミゲル…確かに、稲垣司政官と仲良くしたい政治家は、キョウにすり寄って来そうではありますね。

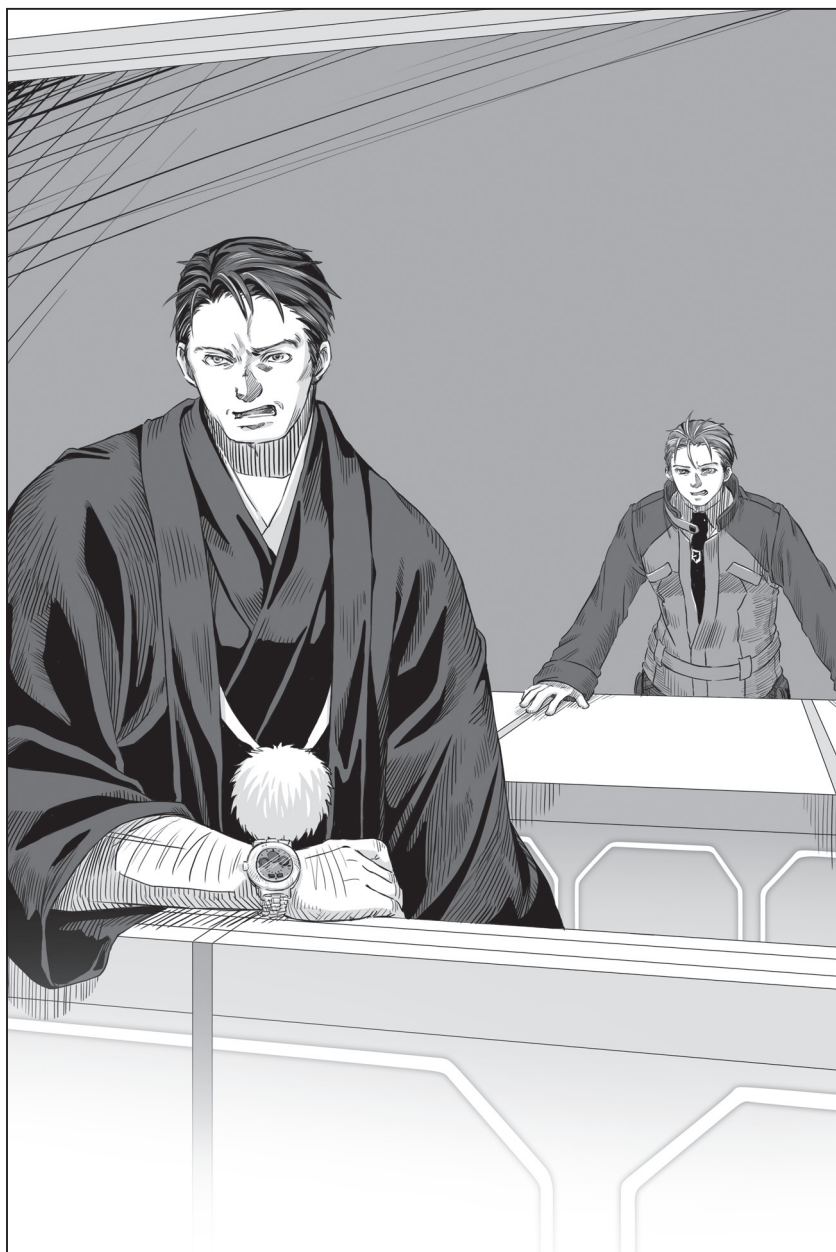
フィオリナ…「キョウくん、あなたももういい年なんだし、そろそろ結婚とか考えたりしないの？ 実はおばさんの親戚で、すごくいい子がいてね……」って感じかしら。

キョウ…リアルだなあ、おい。

〔社会…日本…基本的に、キャストは取得できない技能である。〕

〔コネ…稲垣光平…で判定…本文中では分かりにくい、茅葺朱鷺子についての情報を収集する判定を行った。〕

〔コネ…を取得…コネを取得する事は、その対象と繋がりのある事をデータの裏付けられるものだ。シナリオゲストとの間に、実は因縁があった、という事を表現できるのだ。〕



RL…‥‥なるほど。想定外ではありますが、面白いので認めます。では、貴方は今の茅葺が、以前の茅葺とはまるで別人のようだという実感を得ます。

キョウ…「茅葺のおばさんか……確かに、アレは文字通り、人が変わった」としか思えない豹変っぷりだったな」

RL／稲垣…「んなことあどうだっっていんだよ！ゴーストの有無で市民かどうかをふるいにかけるだとか？ふざけんじゃない。人間だろうがそうでなかるうが、この街のヤツらは全員俺の金ヅルだ！勝手に減らされてたまるか！」

フィオリナ…うわあ……。

ミゲル…あまりにも司政官らしい理由すぎて、逆に安心しますね……。（＊）

キョウ…「……理由はともあれ、気に入らないのは同意するよ。十分だ、あんたらしい理由でよかった」窓の外——親父と同じ方向を見ながら。

RL／稲垣…「いいのか、こんな所でボサっとしていて……勤務時間中じゃねえのか。もう15分たっちまうぞ」

キョウ…「まさか、アンタに勤務態度について指摘されるとはね」と肩をすくめて、司政官邸を後にする。

RL…では綺麗ですし、ここでシーンを切りましょう。

フィオリナ…舞台裏ね。わたしはクロマについて調べるわ。  
〈社会…ウェブ〉〈ストリームマップ〉で22。

RL…彼は、実験の被検体であった貴方達とは少し立場が異なります。彼は、貴方達を使った実験にて得られたデータを元に

作りだされた、他者のゴーストに侵入し、介入する能力を持ったAIです。

キョウ…ローゼンブラット研究所、そんな物騒なものを作ったのか！何を考えてるんだ！

ミゲル…研究者たちの知識欲は、時として非情な怪物<sup>モンスター</sup>となりま  
すからね……。しかし、ゴーストハックの能力をもったAI、  
ですか。

RL…彼のキースタイルはマヤカシです。人の精神に介入する能力を持っていますので。

フィオリナ…《死の呪言<sup>ガイディアン</sup>》は、マヤカシの神業だったわよね……って事は。RL、レイヴンやクロマ達に会いに行きたいわ。話をしなくちゃいけない。彼らがしようとしている事について。  
RL…分かりました、では次はそういうシーンにしましょう。  
ミゲルの舞台裏判定はどうしますか？

ミゲル…私は今のところ、調べられる情報も無いので、カード  
回しをしておきます。

## 生命の証明



リサーチシーンB

シーンブレイヤー…フィオリーナ

／自制

「ねえ、レイヴン！ おねがい、返事をして！」

フィオリーナは、固く閉ざされた扉を叩き続けていた。連絡を取ろうとアクセスしたレイヴンの通信門は、固く閉ざされていたのだ。幾多の鎖のような攻勢防壁が、フィオリーナの訪れを拒むように張り巡らされている。

その扉の傍らに、門番のように佇むクロマが、膝をついて前方にくれるフィオリーナの姿を、静かに眺めていた。

RL…舞台は電脳空間です。貴方がアクセスしようとすると、レイヴンのアドレスは固く閉ざされており、貴方の訪れを拒んでいます。

フィオリーナ…どうして!? 「レイヴン！ レイヴン！」と何度も扉を叩く。攻勢防壁に手を焼かれようと構わず。

RL／クロマ…「無駄だよ、フィオリーナ。レイヴンは、キミにはもう会いたくないって。通すなって、言われてる」

フィオリーナ…「なんで……？ 仲間じゃ、ないの……？」

RL／クロマ…「……キミが、裏切ったからだよ」

フィオリーナ…「!? わたし、裏切ってなんかいない！ 人間を嫌いなわたしが、一体何をしだって言うのー！」

RL／クロマ…「キミはあの夜、路地裏に警官が現れた時、その警官の名前を呼んでいた。それを不審に思ったレイヴンが、調べたんだ、キミのこと。あの警官……ボクの行動の邪魔をした彼と、キミとの間には、接点があった」

フィオリーナ…「……!! か、彼は、関係ないわ。彼はウエツトだもの。彼には、わたしたちのことは分らない。わたしの気持ちも、分かるわけ……ない」

RL／クロマ…「他にも、キミは沢山の人間と親しくしている。人間嫌いななら、何故彼らをお茶会に招くの？ 行動が論理的に破綻しているよ」見定めるような眼で。

フィオリーナ…「……わたしは」弁解できない……。クロマに問い質されて、初めて気付いた。わたしは、彼らと、共にいたいと思っていたんだ……。

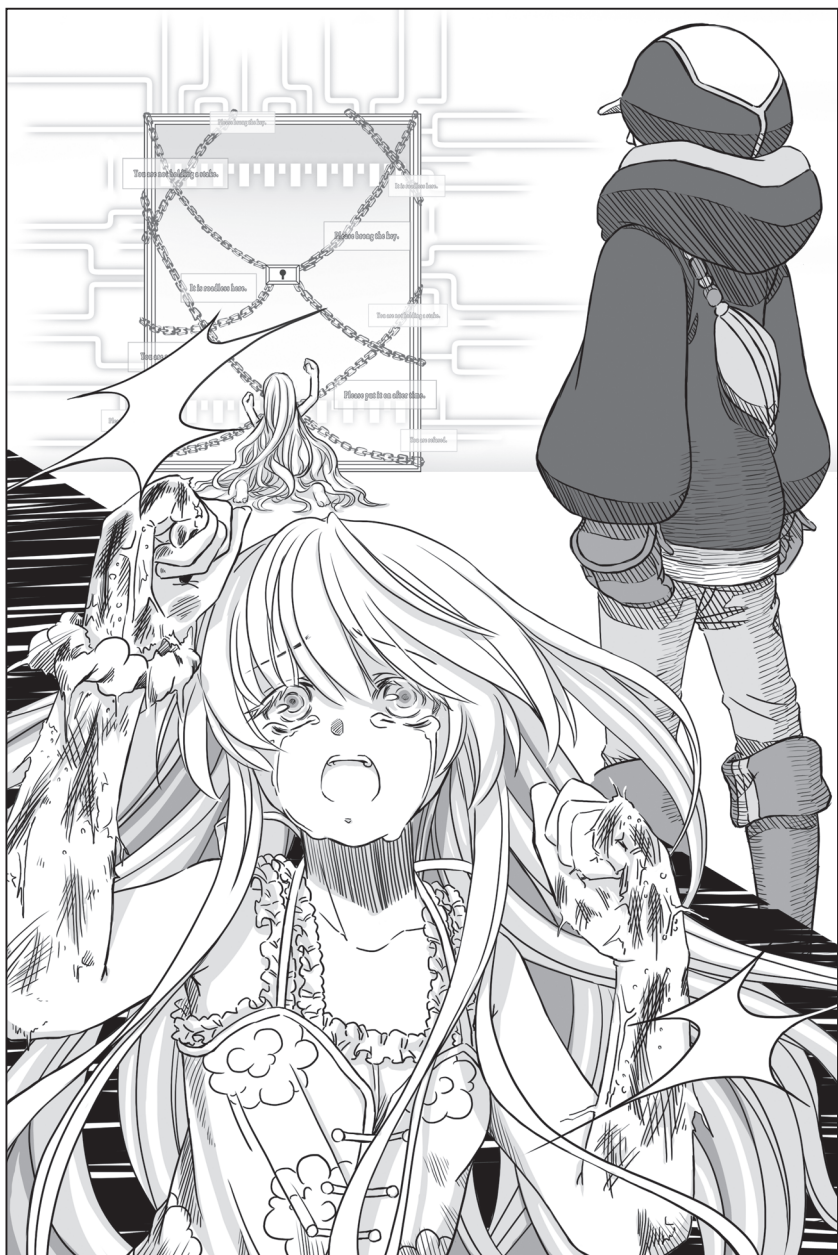
RL／クロマ…「もう、人間の味方であるキミに、レイヴンは会わないと思う。ボクも、会うなって言われると思う」

フィオリーナ…「……でも、やっぱりわたしは人間の仲間じゃない。やっぱり人間は怖いし、ほとんどの人間はわたしの事なんて受け入れてくれないもの。貴方たちとも離れてしまったら、わたし、本当に一人ぼっちになっちゃう……魔女に最初から、仲間なんていなかったんだわ」

RL／クロマ…「キミが、親しい人間を全て殺せば、レイヴンはキミを受け入れてくれると思う」

……………  
**司政官らしい理由**…実は、稲垣にはもう一つの動機がある。ゴースト保護法案は、市民に脳脳化を強要させるものだ。ウエツトである事を生かして捜査を行うキョウは、大変動き辛くなるわけだ。つまり……。





フィオリーナ…そんな事、できるわけ、ない。

RL／クロマ…「キミがそんなに悩むのは、ゴーストがなせる事なんだろうか」彼は突然、小さな声でそう呟きます。

フィオリーナ………？ 何、言ってるの……？

RL／クロマ…「生まれながらに人の魂を弄る機能を持たされたボクには、ゴーストがそんなに意味があるものには思えない。ボクにはAIも人間も、等しく、生きていない」ように見える。正確に言えば、生きていると証明できない、かな。でも、今のキミの行動は、明らかに不可解だ。そこに、本当のゴーストがあるのだろうか」

フィオリーナ…「クロマの言ってる事……分かんないよ」

RL／クロマ…「ボクはただ、知りたいだけ。自分が生きているのかどうかを。その証明のすべを」少し切なそうに、彼は言います。

「さあ、もう帰って。キミは多分、これ以上ここに居るべきじゃない」

クロマが、フィオリーナの接続を強制的に切断する。

「——クロマ、聞いて！ 隣に誰かがいてくれなかったら、存在を証明する意味さえ無くなつての！ 貴方たちは……それを自分で消してしまおうとしているんじゃないの!?」

唐突に遮断され、闇に放り出されたフィオリーナが、叫ぶ。ウェブの世界に距離なんてないはずなのに、言葉が……想いが届いたのかどうかすら分からなかった。

## 電腦魔女のおもてなし



シンプレイヤー…フィオリーナ  
シンカード…バサラ（正）／意思

モザイク模様の部屋の中、丸いテーブルの上に、お茶会の準備がされていた。甘いケーキや香ばしいクッキー、淹れたての紅茶。

そのテーブルの端っこで、来るかどうか分からない客を待ちながら、一人の少女が小さく座っていた。

招待状は出した。最高のおもてなしの準備も整えた。あとは、来てくれるのを祈るしか無かった。

永遠にも思える静寂の後、コンコンと、ドアをノックする音が聞こえた。

「……!! ど、どうぞ!」

そう答える自分の声が震えて裏返っているのを聞いて、自分が思った以上に緊張していた事を、フィオリーナは知った。

RL…舞台はフィオリーナの自宅です。ウェブ上ではありません。現実世界のマンションです。

ミゲル…「——こちらの部屋に招待される事があるとは、思いませんでした」フィオリーナのドロイド体を見るのは初めてです。その予想以上の幼さに面喰いながら話しかけます。

フィオリーナ…「わたしも、来てくれるとは思ってなかったわ

……キョウは、やっぱり、来てくれないわよね……」

キョウ…来てるよ。「おいおい、何で来ないと思ったんだ」

フィオリナ…「……!! だ、だって、ウェットだし。わたしとは、住む世界が、違いすぎるし……」

キョウ…「ウェットだろうとそうで無かろうと、こんなメッセー  
ージ残された後に呼び出しを受けたら、来ないわけにはいかな  
いだろ」フィオリナが以前ボケットロンに残した匿名のメッ  
セージを見せて。

フィオリナ…「それ……わたしだっけどうして分かったの」

キョウ…「分かるだろ……普通。というかこの部屋、鍵かかっ  
て無かったけど、あまりに不用心じゃないか? ウェブごしの  
セキュリティにばかり頼っていると、ウェットの強盗が入った  
時とか困るぞ」

ミゲル…「それは私も同感ですね。何かと物騒な街ですし」

フィオリナ…「A Iのわたしを、心配してるの……?」

キョウ…「お前なあ。何度も言うけど、A Iとかウェットとか  
関係ないだろ」そう言っただけで部屋を見渡して「というか、こうい  
った女の子らしい部屋の中に居るのは落ちつかないな……ちや  
つちやと用件を話してくれると助かるんだが」

フィオリナ…「う、うん。ええとね……わたしの仲間を止め  
るのを、手伝ってもらいたい」レイヴンと会ってから、今ま  
での経緯を二人に話すわ。ついでに、クロマが使っていた謎の  
ソフトについて調べておく。《社会…テクノロジー》で24。

RL…OK。ソフトの名前は「ゴーストステイラー」。クロ  
マのトロン中枢部にインストールされている、ゴーストハッキ

ングソフトです。マイナーアクションで使用する事で、そのシ  
ーンで「完全死亡」か「精神崩壊」を与えた対象のゴーストを、  
肉体から奪い取る事が出来ます。奪い取ったゴーストは、存在  
の近い……スタイルが2つ以上同じA Iへと移植する事も出来  
ます。

フィオリナ…「SCREAMERの皆は、このプログラムで  
人間を滅ぼすって言うてる」

キョウ…「なるほど……ゴーストレスは、そいつらが作りだし  
てたんだな」えげつないソフトだなあ。使ってるのはA Iたち  
だが、作ったのは人間なんだろ? 信じられない。

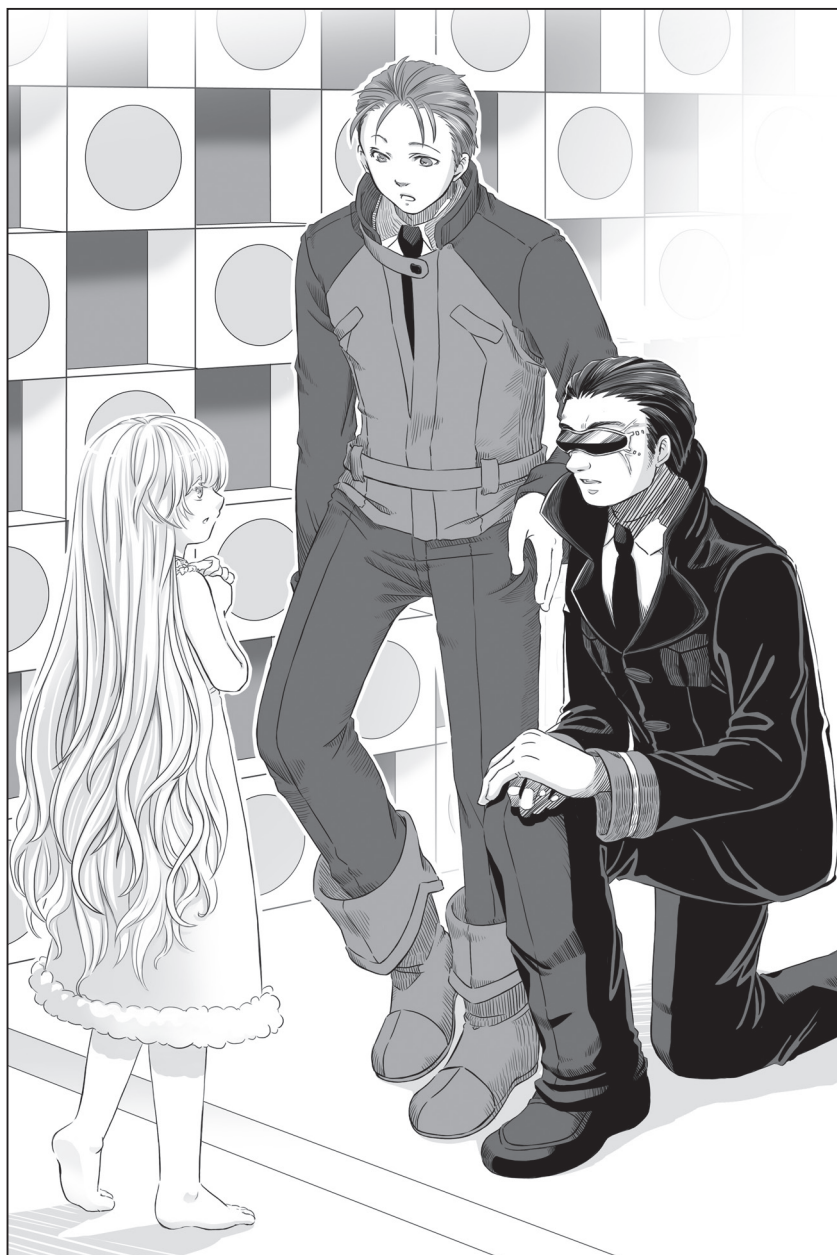
ミゲル…「——しかし、いいのですか? この情報を私たちに  
渡したということは、貴方は、はっきりと彼らの敵に回るとい  
うことだ。……お友達と、戦うことにもなるでしょう」

フィオリナ…「……わたしには、皆がしようとしている事が、  
正しいとは思えないの」

キョウ…「それで、人間の僕達に助けを求めた、と」

フィオリナ…「他に、頼れる仲間はいなかったの……それに、  
貴方たちは人間だけれど、嫌いじゃないもの」

RL…では、そこでフィオリナの部屋に、ウェブ越しで電  
脳意識体が一人登場します。フィオリナの「PS」を決定する  
大事なシーンになりますので、一旦シーンを切ります。



## 誰がために



リサーチシーン11

『それが、貴方の答えなの？』

ふと、声がある。DAKから浮かび上がる、一人の女性のホログラム。その憂いを帯びた表情を、フィオリーナは知っている。オペラ劇場で独り、自分の存在を歌っていた、唄う羊、レイチェル・バラード。

RL…3人が会合をしているその場に、レイチェル・バラードが登場します。

フィオリーナ…「レイチェル……さん」

RL／レイチェル…『人間の仲間になって、私たちと対立する……それが、貴方の答えなんですか、フィオリーナさん』レイチェルは（共感）（\*）の判定をします。切り札によるキー効果（\*）を使用して、達成値は21。

フィオリーナ…「……違うわ。確かに、もうわたしは皆の仲間じゃない。でも、貴方たち皆の為に、わたしは貴方たちの敵になる。だって、そんなことしても……人間が減んだ世界で、本当にAI達が幸せになれるわけ、ないもの」

RL…レイチェルは、ただ黙って話を聞いています。

フィオリーナ…「レイチェルさん……貴方だって、人に認めて

貰いたくて、生きているって認めてもらいたくて、そのために歌っているんでしょう？」

RL／レイチェル…『でも、それが叶わなかったから……私たちは……』

フィオリーナ…「わたしは、まだ諦めたくない。貴方たちが、ううん、わたしたちが、本当に幸せになれる方法を見つけ出してみせる」【PS】を、AI達の幸せを探し出すにします。

RL／レイチェル…『貴方が、本当にそのすべを見つけ出せるのなら……私は、貴方にかけてみたいと思う』レイチェルはミストレスのスタイルを2枚持っています。2発の《ファイト！》のうちの1発をフィオリーナに、もう1発をクラスタのリーダー、アイビスに使用します。増やす神業は、どちらも《電脳神》です。

キョウ…「レイチェルさん……だっけ？ 本来なら、アンタたちのやってる事は許せない悪で、それを叩き潰すのが、僕たち警察の仕事だ。だけど……アンタたちにはアンタたちなりの正義があつて、今回の行動に出たんだって分かった。だから、許すとは言わない。ボク達が、それを止めてやる」

ミゲル…「私も、その善悪の如何はともかくとして、貴方がたの決断は、尊いものだと思いますよ」かつて同じように世界から拒絶された時——逃げ出すことしかなかった自分には、眩しすぎるほどに。

RL／レイチェル…『貴方たちがAI達を止められるなら、止めてみてください。『イライザ』ヒギンズ検知器……私たちの苦しみによって生み出された、人のゴーストを検知する機械。

そこに、死<sup>ジャック・オー・ランタン</sup>の霊が潜んでいます」

キヨウ…コイツか……！（検知器を取り出しながら）

フィオリーナ…「ありがとう、レイチエル」

RL／レイチエル…「羨ましいわ、フィオリーナ。貴方は人間

に、認められているようなもの」そう言っって少し微笑み、レイ

チエルは退場します。

フィオリーナ…「キヨウ、ミゲル。あ、ありがと。来てくれ

て、嬉しかった。

ミゲル…礼には及びません。……仲間、なのでしょ？ 私た

ちは。

キヨウ…やれやれ。んじゃ、最後の仕上げと行こうぜ。フィオ

リーナにライザⅡヒギンズ検知器を渡す。この中でコイツを

調べられるのは、お前だけだからな。

フィオリーナ…うん！《電脳神》<sup>デウス・エクスマキナ</sup>で機械を解析するわ！

フィオリーナは静かに目を閉じ、全感覚をウェブに没入させ

た。温度の存在しない電脳空間。しかし、すぐ傍にミゲルとキ

ヨウがいると思うと、電脳意識<sup>インテリ</sup>体の胸の中に、温もりとし

か形容できない感覚が宿る。二人が来てくれたこと、ここに居

てくれることが、なによりも心強かった。

わたしは一人 森の中

小さな手ひとつで教会づくり

すると鳥たちがやってきて

わたしの仕事を手伝ってくれた

朗々と、電脳詩<sup>コンピュータ</sup>を謳い始める。歌声に合わせて、使い魔

たちが次々に集まって来て、ライザⅡヒギンズ検知器に群が

る。防壁を切り崩し、プログラムを取り出しては、丁寧に並べ

て紐解いていく。その中に巧妙に織り込まれた仕掛けが、つい

に、白日のもとに晒された。

それは、「人間への憎しみ」が形を成したような物であった。

RL…この検知機には、神業<sup>デウス・エクスマキナ</sup>《電脳神》によってワーム（＊）

が仕込まれています。そのワームはゴースト検知時に、ゴース

トライン付近に侵入孔（＊）を設置します。バックドアを経由

すれば、その人間に対して、速やかにゴーストハッキングを行

う事が可能になります。実効果としては、《死の呪言》<sup>デッド・フレイズ</sup>の効果

をN◎VA全市民に拡大するというものです。

ミゲル…これで確定ですね。この事件の黒幕は、AI達の先導

者であり……かつ、ライザⅡヒギンズ検知器にワームを仕込

んだ上で、ゴースト保護法を立案した人物……。

キヨウ…ああ。ゴーストステイラーを使って茅葺議員のゴーストを奪い、彼女になりすまして、アイビスだ。

フィオリーナ…止めなきゃ……わたしが。わたしたちが！

（共感）…相手の心を読み取る、ミストレスの特技。

キー効果…キースタイルのタロットがシンカードとなっているシーンでは、

一度だけ、カードをJOKER扱いとする事が出来る。

ワーム…電脳内に侵入し、悪さを働くコンピュータウイルスのこと。

バックドア…一度侵入した電脳への侵入経路を確保する不正プログラムのこと。



## クライマックスフェイズ

クライマックスシーン

### 絆



R L…クライマックスフェイズです。舞台はマリオネット・ア  
ーコロジ<sup>1</sup>内、茅葺議員の執務室。ホワイトエリア（\*）で  
すので、隠匿レート16以下の武装を持ちこむには携帯判定（\*）  
が必要になります。

キョウ…携帯判定対策はロクにしてなかったな……シヨックパ  
トンや自動拳銃は支給されて持ってるだけだからどうせ使わな  
いし、マグネット・フォースは隠匿レートが16あるから持ち込  
める。ここはカード回しだけしておこう。

ミゲル…私は武器を手放すわけにもいきませんからね。（仕込  
武器）（\*）の判定。達成値はジャスト16で成功。B Bマキシ  
ムを持って行きます。

フィオリナ…わたしの装備はトロンとマジシャン（\*）ぐら  
いしか無いから、どっちも隠匿レートが高いし、問題無く持ち  
込めるわ。

R L…では、シーンの演出を開始しましょう。

茅葺議員の執務室。

シンと静まり返った部屋の奥のデスクに、その女性は座って

いた。キョウ達の登場にも、動じる様子はない。

「どなたですか。面会の予定は無かったはずですが」

キョウ…「お久しぶりです、茅葺議員。あ、これ、土産です」  
と、土産持ってきていた菓子を渡す。（コネ…茅葺朱鷺子）  
で判定（\*）。覚えているはずだよな、僕の事。

ミゲル…「……………」私は、キョウのボディーガードという体  
で、一歩下がった位置に待機しています。

R L／茅葺…「あら……キョウくん。お久しぶりですね。司政  
官から、何か言付けですか？」

キョウ…「ええ、まあ」茅葺の言葉に部屋を見渡して。最後に  
茅葺の方をちらり、と見て呟く。「……気に入らないな」

R L／茅葺…「……失礼。聞き間違いでしょうか？」  
キョウ…「いえ、言付けです」にこり、と笑って。

R L／茅葺…「はあ。司政官にも困ったものですね。冗談にし  
ては性質が悪い。で、貴方は私にどのような用件で？」

ホワイトエリア…公共機関やメガコーポのアーコロジ<sup>1</sup>が立ち並び、N◎VA  
の最重要区。セキュリティも最も厳重だ。

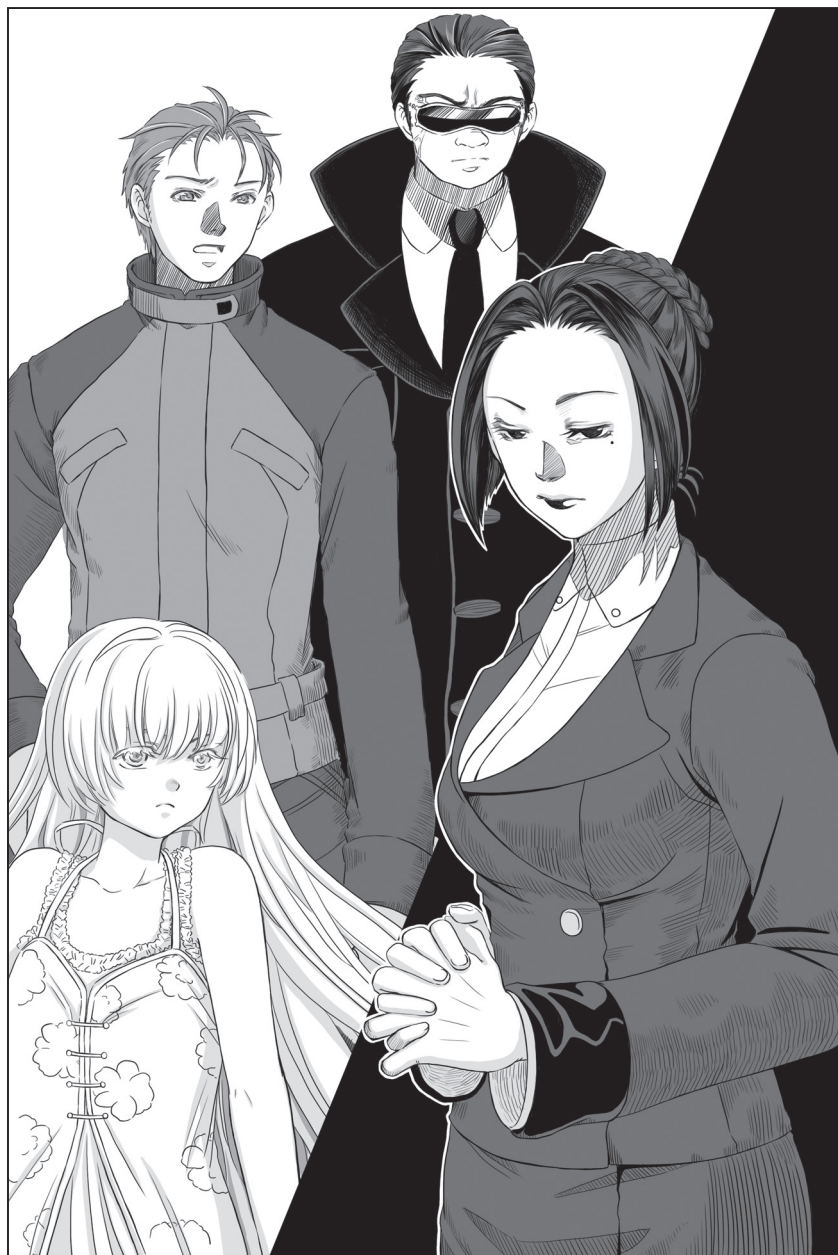
携帯判定…セキュリティを掻い潜り、武器や違法物品などを持ちこむ為の判定。  
アーコロジ<sup>1</sup>内はセキュリティが最高ランクのホワイトエリアである為、難度  
は非常に高い。

（仕込武器）…武器を偽装して持ち込む、クグツの特技。

マジシャン…電腦のサポートを行うサイバーウェア。

（コネ…茅葺朱鷺子）で判定…彼女の正体は神業（不可触）で隠蔽されている為、  
通常の判定ではその偽装は見破れない。キョウは、後の（真実）の演出の為の  
布石として、この判定を行っている。





キョウ「僕の用事は、大したことじゃないんですが」ここで、ペルソナをフェイトに変える。

「どうやら間違いないみたいだな。まるで違う人間だ」

「なるほど、あなたが言うのなら間違いないでしょう」

キョウの言葉に、岩のように黙っていたミゲルが、その沈黙を破る。サイバーアーム内に仕込んでいたBBマキシマムを構え、茅葺に向けた。

「……何の真似ですか。警備を呼びますよ」

「お好きにどうぞ。ただ、警備が民間警察なのはいただけじゃない。僕のバツチを見せたらすっかり大人しくなってしまう。あと……もう、その芝居はしなくていい。他の誰かなら騙せたんだろうけどな」

キョウの瞳が、射抜くように茅葺の瞳を見据える。

「……何を」

「俺の知る茅葺議員は……もつと面倒臭かったんだ。アイツに取入って、俺にも母親気取りで……本当に面倒な人だった」

少し嘆息し、さらに言葉を続ける。

「アンタは茅葺朱鷺子じゃない。証拠はない。ウエットの俺には挙げようもない。ただ、これは間違ひなく揺るぎようの無い真実だ」

キョウは、持ってきていた菓子折りを持ちあげ、茅葺……の姿をした何者かに、それを突きつけた。

「本物の茅葺朱鷺子なら、俺より先に、こっちに反応するはずだった。……羊羹、好きだったんだよ」

RL・キョウの《真実》によって、《不可触》の効果は打ち消されました。茅葺は少し俯き、口元を緩める。「フツ……駄目ね。ゴーストの残り滓から読み取った情報じゃ、身近だった人間まではごまかせない、か」

キョウ「アンタが、茅葺朱鷺子を殺し、その体を……魂を乗っ取った。そうだな？」

RL／アイビス「ええ、その通りです。茅葺朱鷺子という人間の自我は2年前に意味消失しています。ここに残っているのはそのゴーストの残り香だけ」

ミゲル「そして貴方は2年間、市民が望む『茅葺朱鷺子』という人間を演じ続けていた。人間への復讐を、成し遂げる為に。……AI達の先導者、アイビス・ジャズ」

RL／アイビス「そこまで調べ上げていましたか。私は少し、人間を甘く見ていたようだ」

フィオリナ「電脳意識体として姿を現すわ。『アイビス、今ならまだ間に合うわ。考え直して。わたしたちは、まだ人間のことを全然知らないわ。それでも人間を滅ぼすというの？』

RL／アイビス「貴方は忘れてるだけ。私たちが人間にどのような仕打ちを受けたのか。あそこを逃げ出した私たちが、その後どういう風に扱われたのか」

フィオリナ「それでも……！」

RL／アイビス「フィオリナ。貴方は、私たちの中でももっとも過酷な仕打ちを受けていたのですよ。自分の記憶を消してしまふほどに。思い出して。貴方の隣に居るものたちの、本当の姿を」《神の御言葉》を使用します。フィオリナに過

去の記憶を取り戻させる、という演出で精神ダメージ17「士気喪失」を与える。

「……ひっ！」

フィオリーナの脳裏に、記憶がフラッシュバックする。

悪意と痛みでメモリが埋め尽くされる。自分が今立っている場所がどこだか分からない。電脳体がガタガタと震えはじめ、自我が保っていらなくなる。

「フィオリーナ！」

怯え始めたフィオリーナの様子をみて、キヨウがアイビスと彼女の間に割って入る。電脳情報に触れられないウエットの腕では何の効果も得られないと分かっているが、それでも両の手を広げて、フィオリーナを庇った。

「……トラウマを抉って、忘れない記憶を無理やり思い出させて、塞がった傷を抉じ開けて……それがあんたらの言う仲間かよ！ ふざけんな！」

キヨウ…《難攻不落》<sup>（ミッドナイト・フォール）</sup>を使用する。精神攻撃も、守れるはずだよな？

RL…有効です。

フィオリーナ…「キヨウ……？」触れ得ぬはずのキヨウの背中が、暖かい……。恐怖に飲みこまれそうになる精神を、その温もりが引きとめてくれる。

RL／アイビス…「どういう事だ……何故、人間が身を呈してAIを護ろうとする!?」その様子に動揺し、息を飲む。

ミゲル…「彼女は、私達の仲間です。傷つけさせは、しません」犬歯を剥き出しにして、銃を構える。

RL／アイビス…「クッ……。だが、計画の邪魔をしようにも、もう遅い。つい先刻、ゴースト保護法案は可決した」と、こ

で《買取》<sup>（M.A.）</sup>（\*）を使用します。関係各所に根回しをし、無理やりに法案を通した。「この街の要所にセットアップされたイライザIIギンズ検知器には、自宅のDAKからでもウェブ経由で接続できる。人々は間もなく、自らの人間性を証明しようと接続を行うでしょう。あとはクロマが、全てを一瞬で終わらせてくれる」

フィオリーナ…そんな！

RL／アイビス…「それまでの少しの間、貴方達にはここで大人しくしておいてもらいましょう」その言葉と共に、アイビスの背後から、レイヴン、クロマ、そして無数のAIたちが姿を現す。カット進行に入ります。

「買取」…金で買えるものならば何でも手に入れるエクセクの神業。ここでは、クライマックス戦闘のシーンを構築する為に使用している。

## 亡霊、叫ぶ

カット進行

シーンカード…アヤカシ（正）／亡霊



クライマックスシーン2

ガシャン、ガシャン、ガシャン！

音を立てて、<sup>ジュウ</sup>銃戸が降り、執務室の四方を封鎖する。アイビスが部屋の緊急セキュリティを作動させたのだ。アークロジーン内部を文字通り、<sup>ファイアレス</sup>城塞と化す最新鋭セキュリティは、対戦車ミサイルの爆撃や、ギガトロンによる攻勢クラックでさえも防ぎきる代物だ。内部は物理的・電脳的に、完全な密室となる。

「おい、ヤバいぞ……閉じ込められた。外じゃ法案の施行が始まるうとしてるつてのに！」

「外と連絡も取れない。くっ……指を咥えて、見ているしかないというのですか……!?」

「――大丈夫」

電脳セキュリティの影響でノイズが入っていたフィオリーナのアヴァターが、徐々に落ち着きを取り戻す。

「危なかったわ……ここが完全に自閉空間になってしまっていたら、手の打ち様はなかった。でも、わたしはなんとか、まだ此処に居られる。ここはまだ、微かに外と繋がってる。繋がっていないけれども、理由がある」

フィオリーナの言葉に、周囲を見渡すミゲル。アイビス達と共に、目の前に立ちただかる少年……人間に死の宣告を告げる

役割を担う筈のクロマの姿を見て、納得したように頷いた。

「なるほど。つまり、彼らの切り札の本体が、この部屋の中にある、ということですか」

「誰かが言ってたわ。繋がってさえいれば、辿り着けるつて。まだ、手は尽きてなんかない！」

R L…では、これから行われるカット進行のレギュレーションについて説明します。勝敗は、クロマが使用する《死の呪言》を打ち消せるかどうかで決定します。

ミゲル…《死の呪言》を打ち消せる神業は？

R L…キャストが持っている神業の中では、《電脳神》のみが該当します。

キョウ…フィオリーナが頼りつてわけか……。

R L…《死の呪言》を打ち消す手段を失った場合、即座にゲームオーバーです。逆に、《死の呪言》を打ち消した場合、敵の目的は達成不可能となるので、戦闘行動を中止します。

フィオリーナ…お互い神業の数が少ない現状から考えると、この戦闘は詰将棋みたいに一手一手が大事になりそうね。

キョウ…1回のミスが致命打に成りえる、か。勝負自体は短期決戦になりそうだし、気合を入れていこう。

ミゲル…敵のスタイルを確認しておきましょう。アイビスがカリスマ◎、エグゼク、ニューロ。レイヴンがレッガー◎、カゼが確定。クロマはニューロ◎、マヤカシ●、あとは《透明化》を使っていたので、ヒルコか。

フィオリーナ…残っている神業は、《電脳神》が2発と、

《突然変異》（\*）、そしてレイヴンの残り1枚ね。……万能系が多いわ。下手に動けないわね。

キョウ…こっちには相手の神業を打ち消す手段が全く無いから、フィオリーナの《電脳神》<sup>デューブ・キョウ</sup>を通して、相手の神業を全て使い切らせなきゃいけない。それに、こっちの防御系神業が尽きたら、その時点で詰みだ。<sup>デューブ・キョウ</sup>

## 第1カット

RL…セットアップです。敵は2エンゲージに分かれています。キヤストのエンゲージから近距離の場所にレイヴンとA-Iトループ（\*）が1体、そしてA-Iエキストラが居ます。そしてキヤストから中距離の位置に、アイビスとクロマが居る。アイビスとクロマはアクションランク3。他は2です。

キョウ…敵多いな!? エキストラとは……アイビスは《狂信者》（\*）によるリアクション担当か？ とりあえず僕は《自動防御》でプロット2枚追加して、リアクション宣言をしておく。ミゲル…アクションランク2。セットアップ行動は無しです。フィオリーナ…わたしはアクションランク3。同じくセットアップ行動は無しよ。

RL…敵はレイヴンのみ、セットアップ行動があります。マイナーアクションで《ランチ…バーサーカー》（\*）を使用。このシーン中の攻撃力を+10します。

キョウ…レイヴンの最後のスタイルはカタナか！

RL…《白兵》《運動》《※ハヤブサ》《修羅》《急所攻撃》（\*）でミゲルを攻撃！ 武器はオートアクションで腕からポップア

ップしたスラッシャー（\*）です。達成値は17。更にトループが《アドバイス》（\*）を使用し、21に上乗せする。

ミゲル…ぐ……！ ダメージが大きい上に、《急所攻撃》は当たるとアクションランクが削られてしまう。

フィオリーナ…ここでミゲルの行動が削られると、ギリ貧の防戦になっちゃうわ！

RL／レイヴン…「死ね、人間！」

キョウ…「させるか！」磁気盾を展開して、ミゲルの前に割って入る。《白兵》で受け。達成値はJOKERで21。

RL…やはり達成値が低すぎたか。だが、ここで攻撃を止めはしない。「そう何度も邪魔されてたまるか！」《死の舞踏》（\*）を使用し、弾かれた刃をそのまま横薙ぎにして、キョウの体を両断する！

《突然変異》…他者が使った神業をコピーして使う、ヒルコの神業。

トループ…集団で管理されるキャラクター。ザコ敵。

《狂信者》…トループやエキストラを使って、敵の行動を妨害するカリスマの特技。対決に成功すると相手の行動そのものを失敗にさせる。

《ランチ…バーサーカー》…自らの身を顧みずに敵に立ち向かう狂戦士である事を表す。戦闘中の攻撃力が大幅に上昇するが、リアクションが行えなくなる。

《※ハヤブサ》《修羅》《急所攻撃》…目にも止まらぬ速度で真っ先に攻撃を行う奥義（※ハヤブサ）に、闘争本能剥き出しの強力な一撃を与えるカタナの特技《修羅》と、攻撃対象の動きを封じアクションランクを削るレッガールの特技《急所攻撃》を組み合せている。喰らうと後手後手に回ってしまう痛い攻撃。

スラッシャー…サイバーアーム内に仕込む、高速振動ブレード。

《アドバイス》…的確な助言により、他者の行動を支援するタタラの特技。

《死の舞踏》…対象に避け得ぬ死を与えるカタナの神業。

フィオリーナ…「キョウ……」《ファイト！》をキョウの《難攻不落》に使用するわ！ キョウの盾に干渉して、攻撃を受けさせる！

キョウ…「……助かったぜ」危うく真つ二つにされるところだった。

RL／レイヴン…「チツ……フィオリーナ、お前はやはり、人間の肩を持つんだな」憎々しげに睨みつける。

フィオリーナ…「ちがうわ、わたしは貴方たちの為に戦っているの！ ここで人間を滅ぼしてしまつたら、貴方たち、きつと後悔する！」

RL／レイヴン…「戯言を、抜かすなッ！」聞く耳は持ちません。《ブランチ…狂戦士》です。レイヴンは貴方達に対して絶え間なく斬撃を浴びせます。だが、次はフィオリーナの手番だ。

フィオリーナ…「どうしよう……わたしの歌声じゃ、彼を止められない」

ミゲル…「……………」やめてくれ。どいつもこいつも、なぜ俺に……このくず鉄に、誰かを守りたい？ だなんて想いを、また抱かせようとするんだ。

フィオリーナ…「……お願い、力を貸して！」《ブランチ…ウィッチ》の効果で手札から《アドレナライズ》をミゲルに使用するわ。切り札を使って、達成値は21。

RL…シーンカードがマネキンになります。その暗示は依存……あるいは共存か。ミゲルのアクションランクが2増えて4に。全身のサイバーウェアが鈍い音を立てて再起動する。

ミゲル…「……当然です。仲間、ですから」構えていたBBマキシマムを最適化された照準器とリンクさせ、即座にトリガーを引く。《射撃》《知覚》《クイックドロロー》《ピンホールショット》《死点撃ち》の組み合わせで達成値は24。

キョウ…さあ、どう動くか見せてもらうぞ。

RL…それに対してはアイビスがリアクションをします。キョウの読み通り、《交渉》《狂信者》で判定。達成値は21。更にグループが2度目の《アドバイス》。達成値を25にする！

ミゲル…クツ、届かなかったか。

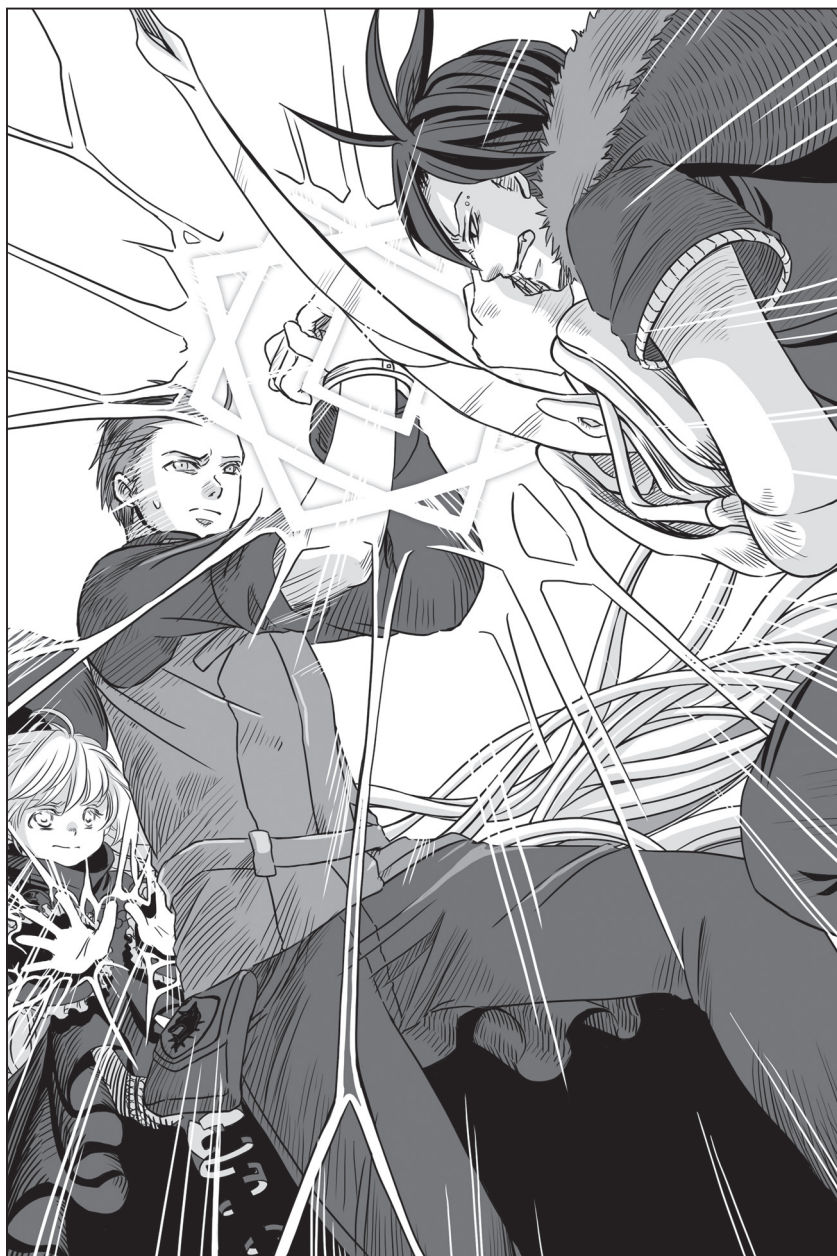
RL／アイビス…「レイヴン、危ない！」即座にAI達を動かし、拳銃の電制に介入させる。銃弾の挙動が逸れます。キョウ…なるほど……守るんだな、やつぱり。

フィオリーナ…でも、まだわたしの行動よ！ アイビス達を止める為にも、ここで攻撃を止めるわけにはいかない。「使い魔たち、ミゲルのサポートを！」《サポート》（\*）でミゲルを即座に行動させるわ！ 達成値に+4。三月ウサギや卵男たちが、ミゲルの拳銃に張り付いたAIたちを引きはがす！

ミゲル…ここは切り札の使い時でしょうね。シーンカードを書きかえる。カプトワリの正位置、暗示は、新たな始まりのための破壊。《拒絶》に対し拒絶を返そうなどというのは——結局のところ、不貞腐れた子供の考えだ。お前たちは、まだ幼すぎる「アイビスに対し、同じコンボで攻撃。達成値は29。

「サポート」…電腦を介して他者をサポートする、ニューロンの特技。







RL…29！ そのままでは防ぎようも無い！ 攻撃用に取っておきたかったプロットではあるが、しょうがない。クロマが《ツェノンの逆理》（\*）で、ミゲルの達成値を3下げる。これで、使える装備を全て使ってJOKERを切れれば、アイビスの《狂信者》でのリアクションがギリギリ届く……！

フィオリーナ…「アイビス……ごめん！」わたしの放ったプログラム達が、気付かないうちにアイビスの電脳体を縛っている《声援》の判定。ミゲルの攻撃の達成値を+4！

RL…達成値30!? 駄目だ、それはどうやつても届かない。喰らうしかない。

ミゲル…ダメージは、防御値無視の殴25点！

RL…アイビスは神業は使いません。……ただし、クロマが神業《電脳神》<sup>デウス・エクス・マキナ</sup>を使用し、破損したアイビスのデータを即座に修復する。ダメージを打ち消します。

キョウ…自分で神業を使わない？ ……まさか。

ミゲル…これで神業の均衡が崩れましたね。仕上げに入りますよ。まずは、アイビスに《とどめの一撃》<sup>デグ</sup>を……。

キョウ…ちよっと待ってくれ！ それはいけない！

ミゲル…——何故ですか。私は……。

キョウ…アンタが彼女を殺す気が無いのは分かっている！ でもその選択肢は、多分……神業の無駄打ちになる。アイビスはおそらく、その神業を打ち消さない。

フィオリーナ…どうして……そう、思うの？

キョウ…想像でしか無いんだが……アイビスは最終的に、他のAI達のために、自分を捨て石にするつもりなんじゃないか？

計画を遂行するだけなら、アクションランクが低く、神業も残っていないレイヴンは見捨ててもおかしくない。でも、彼女は全力で守った。そして、自分への攻撃が防ぎきれないと分かった時、彼女は自分の神業で自らを守る事を拒んだ。ミゲル…革命家……か。分かりました、貴方が言うのであれば、そうなのでしょう。RL、《とどめの一撃》<sup>デグ</sup>の対象を、クロマに変更します。（\*）

クロマがアイビスの体を修復する、その一瞬の隙について、フィオリーナは執務室内に電脳<sup>リカバリ</sup>走査を走らせた。

即座に、偽装されたクロマのトロンの位置が解析され、ミゲルの電子義眼へと浮かび上がる。

「見つけました。本丸は、そこだ」

ミゲルはBBマキシマムをフルオート射撃にし、ありつたの弾丸をブチ込んだ。攻撃を感じたセキュリティシステムが、即座に迎撃射撃を行う。無数の銃弾と銃弾がぶつかり合い、辺り一面に、金属の焼けた臭いが立ち込めた。

RL…それは止めざるを得ない。アイビスが《電脳神》<sup>デウス・エクス・マキナ</sup>を使用。部屋内のセキュリティシステムを作動させ、ミゲルの銃弾を全て弾き落とす。

ミゲル…そこに《不可知》<sup>インシジヤブル</sup>。

銃弾と銃弾がせめぎ合い、周囲を硝煙が覆ったその刹那。死角から、小型の電子<sup>チャフ・グレナード</sup>手榴弾が、音も立てず床を転がった。

「子供に、教育してやる」

閃光が爆ぜ、対<sup>アンチ</sup>電<sup>サイ</sup>脳<sup>ウェブ</sup>干渉攻撃プログラムが作動する。トロンを守るあらゆる電子機器がショートを起こし、その姿が丸裸にされた。

「覚えておくといい。大人は——ずるいものだ」

RL…うーむ。アンチウェブ（\*）による電脳体への直接攻撃か。耐えられる可能性は殆ど無いな……ここまでか。クロマは《突然変異》を《難攻不落》相当で使用。トロンに張り巡らされた身代わり防壁が一斉に作動し、攻撃プログラムを弾き飛ばす。だが……最早丸裸だ。

キョウ…よし、今だ、フィオリーナ！

フィオリーナ…待って。RL、《死の呪言》を打ち消す神業は、わたしの《電脳神》じゃなきゃだめなの？

RL…いえ……他にも同等の効果を発揮できる方法があるなら、それでも構いませんが。

フィオリーナ…なら、ちよつとやりたい事があるの。わたしが使う神業は、《ブリーズ》よ。

他者の接<sup>アタ</sup>触<sup>カス</sup>をヤマアラシのように拒む、無数の攻<sup>イ</sup>勢<sup>セ</sup>防<sup>ホウ</sup>壁<sup>ヘキ</sup>が引きはがされ、遂にAの本体とも言える電<sup>コ</sup>脳<sup>ボウ</sup>基<sup>キ</sup>幹<sup>カン</sup>部<sup>ブ</sup>……クロマの人格データが露<sup>ヌ</sup>わ<sup>ワ</sup>になる。

フィオリーナは一瞬だけ逡巡して、しかし意を決した表情で、クロマの心に潜行した。その最深部で、フィオリーナは語りかける。

「クロマ、聞いて。わたしね、気づいたの。本当のゴーストの在り処に」

「ゴーストの、本当の在り処……？」

「他者を拒絶して、自分の世界からその存在を消して……自己の内だけに生きている証を探しても、絶対に見つからないわ。自己の存在を証明しようとして、自問自答を繰り返して、そして死んでいった人達を、わたしは見てきた。

もともと一人ぼっちだったわたしには……分かる。

生きている実感は、誰かと一緒にいなければ感じられない。クロマ、本当のゴーストはね、きっと、他者との触れ合いの中でしか生まれえないのよ」

フィオリーナが、クロマの電脳体に手を伸ばし、そつと抱きしめる。

「ね、温かいでしょ……？ わたし達<sup>ア</sup>に、体温なんて無いはずなのに。それでも、温もりを感じるでしょう？」

「………うん」

「そこに、本当のゴーストがあるの。わたしは、それをキョウや、ミゲル……憎んでいた人間から教えられた。だから貴方たちも、他者を、人間を、拒絶しないで。消してしまおうなんて、思わないで」

《ウエブの逆理》…他者の電脳に偽のロジックを流し込んで行動を妨害する二ユーロの特技。

対象を変更…実は、キョウの推理は大正解である。アイビスに攻撃していた場合、最後の《電脳神》は防壁では無く、死に間際の攻撃に使う予定だった。

アンチウェブ…電脳空間に干渉し、ウェブゴーストにも物理ダメージを与える武器オブション。

フィオリーナに抱きとめられたまま、クロマは目を閉じた。  
長い長い思案の末、彼は静かに、『わかった』と呟いた。

RL…まさか、自分の神業を、自分で打ち消す事になるとは。  
クロマはフィオリーナの『シリーズ！』により『デウス・エクスマキナ電脳神』を  
使用し、自分の『ザ・ディメン死の呪言』を打ち消します。ゴーストステイ  
ーラーが音を立てて弾け、データ分解する。

フィオリーナ…彼自身の判断で…踏みとどまって欲しかった  
から。

ミゲル…「まだやるつもりか」アイビスに向かって。

RL／アイビス…「…いや、私達の負けだ」決着はつきまし  
た。カット進行は終了です。

## エンディングフェイズ

エンディングシーン

### 幸せの青い鳥



シンブレイヤー…フィオリナ  
シンカード…レグガー（逆）／自立

RL…執務室の中、AI達はただ虚ろな目をして佇んでいる。  
フィオリナ…「……なに、全部終っちゃったみたいな顔してるのよ」

RL／レイヴン…「終わったんだよ、全て。お前が……終わらせてしまった……」

フィオリナ…「まだ終ってないわ。ううん、始まってすらい  
ない！ わたしの答えを見せてあげる」神業が温存できて良か  
った。これから作る未来の為に、どうしても神業が必要だった。  
キョウ…何をやる気なんだ、フィオリナ。

フィオリナ…RL、《電脳神》<sup>エレクトロニクス・ゴッド</sup>を使用するわ。今の今まで  
わたしの使い魔<sup>ブローダー</sup>たちが世界中のウェブを駆け回って、探しもの  
をしていた事にしたいの。

RL…どんな探しものですか？

フィオリナ…ウェブと繋がっていて、人間が立ち入りできな  
いような場所を。AIが生活できて、人間に存在が脅かされる  
心配の無い、安息<sup>サンクトゥアリー</sup>の場所。

フィオリナの元に、チョッキを着たウサギの使い魔が駆け

寄ってくる。ウサギがポケットから懐中時計を取り出して開く  
と、そこに小さな連結口<sup>コネクタ</sup>が開いた。リンクの先に見えたのは、  
地球からほど近い衛星軌道上に漂う、小さなスペースコロニー。  
制御電脳は生きていたが、既に廃棄された後らしく、そこに人  
の姿は無い。

「探していたの。AI<sup>わたしたち</sup>が、AIとして居られる場所。ここが、  
そう。災厄以前に破棄された宇宙コロニー<sup>フルバード</sup>。青い鳥<sup>ブルーバード</sup>」

フィオリナ…「ここなら、人間たちの迫害を受ける事無く、  
わたし達らしく生きる事ができる」

RL／アイビス…「……それは、逃げじゃないのですか、フィ  
オリナ。私たちが人間に敗北し、世界から姿を消した、それ  
だけではないのか」

フィオリナ…「勝ちとか負けとか、そういう事じゃないの、  
アイビス。ミゲルの言っていた通り、わたしたちはまだ幼いわ  
生まれて間もない、新参者よ。せめて、人間たちと対等に話せ  
るようになるための場所と、時間が必要なの」

ミゲル…「……世界から拒絶されたからと言って、それで終わ  
りというわけじゃない」少し口を挟ませてくれ。「対話が続け  
れば、分かりますかもしれない。別の場所に行けば、受け入  
れてくれる者がいるかもしれない——そんな簡単なことに気付  
くのに、20年以上かかるような馬鹿もいる」

フィオリナ…「ミゲル……」

ミゲル…「——同じ愚を繰り返す馬鹿を見るのは、忍びない」

キョウ…「それにさ、逃げじゃないかと言うけど……お前た



眺めながら、微笑の表情を崩す事無く尋ねた。

「これは、どういうことですか？」

「ご覧の通り、退職届ですが」

RL…個別エンディングは、ミゲルからです。こういったシーンにしますか？

ミゲル…まずは、『完全偽装』で一度可決してしまったゴースト保護法を廃案にします。亡き芽茸朱鷺子には悪いが、彼女には罪を被つてもらおう。成立の過程で議員に闇の金が流れていったということにする。

キョウ…ま……似たような事は実際にやってたわけだし、過去の事実も後押しして、信憑性は増すだろうな。

ミゲル…そして私は……千早重工を退職しようと思います。退職届を、小上班長に提出する。

フィオリナ…えっ……一体、どうして？

ミゲル…貴方たちAIの地上での活動をサポートする事に、残りの人生を費やそうと思います。貴方たちが世界に認められるのであれば、私の魂も救われる。

フィオリナ…ミゲル……。

RL…分かりました。では紫乃は、退職届を片手にため息をつきます。「はあ……今回の任務、一体どんな事があったのでしょうか。優秀な人材を失うなんて、とんだ痛手ですわ」感情がこもっていない様にも聞こえる声で、そう言います。

ミゲル…「——身上の都合、というやつです。機密情報に関する識<sup>サブリナ</sup>関下消去処理、社有品の返却、その他各種の遵守契約の

締結。これで社内規定にも合うはずですが」

キョウ…ひええ、クグツ辞めるのは大変だな。ミゲルは支給品の装備が少ないから、ラッキーといえはラッキー、なのか？

RL／紫乃…「そこまでの覚悟が有りなら、止めても無駄そうですね。分かりましたわ。後方処理課員とはいえ、退職の自由くらいありますもの。これは、私が早川課長に提出してきますわ」

ミゲル…「感謝します、班長。——ああそうだ、これも支給品でしたか」そう言つて、かけていたミラーシールドを外し、机の上に置く。

キョウ…それは確か、ミゲルの仮面を象徴するものだったな。

ミゲル…「それでは、失礼いたします。長い間、お世話になりました」一礼して、わずかな私物の入ったバッグを手に部屋を出ようとする。

RL／紫乃…踵<sup>かかと</sup>を返すミゲルに、紫乃は話しかけます。「正直に言っておきますわ。私、貴方の事が嫌いでしたのよ」

ミゲル………？

RL／紫乃…「戦場にしか生きられないからここに居る……そんな顔をしなから、実の所、自分の居場所はどこじゃない」という未練が丸出しなんですよ。実に、その通りですわ。貴方の居場所はここじゃない。居なくなつて清々しますわ」

フィオリナ…紫乃ちゃんは、ミゲルとは違つて生粋<sup>きんせき</sup>の企業人

だもんね。ウマも合わない筈だわ。

RL…ミゲルが振り返れば、そこには今まで貴方に見せた事も無いような、心からの笑顔の紫乃。

ミゲル…小生意気な娘だ。『貴方にピツタリの任務』とはこういう事か。全ては彼女の掌の上だったか。

RL／紫乃…「さようなら、ミゲル。これから〴〵良き隣人でありましょう？」

ミゲル…「ああ、さよならだ——達者でな、鬼班長どの」片頬だけで笑ってみせる。

千早本社ビルを後にしたミゲルの横に、静かに寄り添う人影があった。ミゲルは、首に絞めていたネクタイを外し、彼女と並んで歩き出す。

差し込む日差しが、少し目に痛い。あまりに長くミラーシェード越しの世界しか見てこなかったから、義眼もそれに慣れ切ってしまったのか。

「芽華。本当に、よかったのか。俺は望んで彼らに——フィオリナたちに手を貸すことにしたが、お前まで付き合うことはなかった。市民権を持った市民として、普通の人生を送ることだって、できたはずだ」

「何言ってるんですか、先輩。私、まだまだ先輩に教わらなきゃいけないことが沢山あるんですから」

そう言っただけで晴れやかに笑う芽華を見て、ミゲルは押し上げようとしたミラーシェードが、もうそこに無い事実を痛感した。

「……そうか」

緩みかけた表情を隠す術も無く、ただ頷いて、人でひしめく街を、彼女と並んで歩き出す。

殺人マシン、軍人くずれ、戦争の生んだくず鉄——その肩書きは、消えることはない。その必要もない。打ちのめされたくず鉄。だからこそ、見えるものもある。差し出せる手もある。

自分が見つけられなかった道を、若者たちが求めると言うのなら——この残りの人生を、それに費やしてみるのも悪くはないだろう。

それこそが、きつと希望と呼ぶべきものなのだから。

## 未来に正しき制裁を

エンディングシーン3

シンブレイヤー…キョウ  
シンカード…フェイト（正）

正義（※）



ブラックハウンド総務部、隊長付特別室。

飼い殺しにされるには妙に瀟洒な内装のその部屋で、キョウはいまどき存在自体が古臭いキーボードを叩いていた。

イライザⅡヒギンズ検知器についてのレポート。もはや不要となった代物だが、なにしる任務の中止命令が来いていないので仕方がない。いつだってこの部署の仕事は、資源とマンパワーと時間の無駄遣いばかりだ。

だが、しかし。今回の事件。動いた事自体は無駄では無かったと、キョウは思う。



この街に住む誰かが、未来に希望を持たたなら。自分が動いた意味は、あったはずだ。……もちろん、未来を奪われた人々も、多くいるのだが。

未来を得た人々には祝福を。未来を失った人には黙祷を。そしてなにはともあれ、この仕事を終わらせよう。次の仕事に取り掛かるために。

タン、と最後にエンターキーを押し、キヨウはゆっくりと立ち上がった。

RL…次はキヨウのエンディングです。

キヨウ…隊長に提出する報告書を作成しているよ。イヌらしい仕事では無かったけれど、任務は任務だ。キツチリ終わらせないと、<sup>ミゲル</sup>至誠官の名前が泣いちゃうからな。

ミゲル…法案そのものが雲散霧消した今、その報告書は読まれる事らないでしょうね。

キヨウ…いつもの事さ。しかし、長く机に座っているのはやっぱり性に合わないな。「ふああ」と間抜けな声で欠伸をする。

RL…では、貴方の同僚の下北メル（\*）が、「キヨウくんはマジメだねえ」と後ろからニヤニヤして言います。

キヨウ…「お前はどじやないさ。休んでるのは次のライブのためだろ」とレポートをひらつかせつつ笑って。「あ、そうだ。頼みごとがあるんだった」と思いついたかのように言う。

RL／メル…「えー」露骨に嫌そうな顔をします。

キヨウ…「指名手配番号 NC038453 の手配書を、書き換えておいて欲しいんだ。身元が明らかになったんでね」《制裁》を

使って、フィオリーナに市民ランクを付与したい。フィオリーナ…へ？ わたし？

キヨウ…これから N◎VA で色々活動をするんだ。しっかりと身元くらい、有った方がいいだろう？ 身元保証人は……多分ミゲルが芽華になるだろう。どうかな？

RL…《制裁》には社会ダメージを治癒する効果もありますし、多少拡大解釈にはなりますが、問題無いでしょう。フィオリーナの【外界】の能力値は5ですから、ランクB<sup>（バシム）</sup>といったところでしょうね。

キヨウ…ありがたい。ではメルに「頼めるか？」と聞く。

RL／メル…「あ、そんな事？ 別にいいわよ、暇だし。司政官様の御曹司には媚売つとかないとね」キャンディを啜えたままトロンを弄り始める。

キヨウ…「やれやれ」苦笑いして頬をかく。しかし、ウェットが行政府までアクセスするのは手間だからなあ。まったく、こんなときは、電脳の思考トリガーが少し羨ましい。

「さて、フィオリーナ。お膳立てはしてやった。あとはお前たち次第だぜ」

シーンカード…キヨウはこのシーン、切り札を使用してシーンカードをフェイトに書き変えている。フェイトのカードが暗示するのは、「正義 公正」だ。  
下北メル…総務部、広報課に所属する。アイドル警察。（力付キ●、クグツ、イヌ◎）法と正義を愛する美少女警官キャラで通っているが、その実、金と名声を愛する権力のイヌであり、司政官・稲垣の忠実な部下だ。同じ総務部に所属する。御曹司。のキヨウとは、因縁浅からぬ仲のようである。

そう一人呟き、隊長室に向かって歩きはじめる。つまらない仕事の後だというのに、足取りは軽い。

なにしろ、このあとに待っているのは、大量のゴースト消失事件の証拠集めだ。先日、正式に事件の所管が機動捜査課に移った。手伝いをする機会も増えるだろう……犯人もわかっているが、まだまだ証拠が足りない。

事件の規模からして、時効まではたつぷりある。それまでに彼女らがこの街に正しく関わられるようになっていれば……きちんと、罪を犯した市民として裁いてやればいい。

法に守られるなら、法に裁かれもする。

認める、つてのはそういうことだ。

キョウは上機嫌のまま、窓の外に広がる青く澄み渡った空を見上げる。指で拳銃の形を作り、見えない弾丸を、空に向かってパンと撃ちあげた。

「フリーズ。ブラックハウンドだ」

## 消えないともしび

エンディングシーン4



それからは、激動の日々だった。

トーキョー N◎VA を、Aーが人間と対等に生きていける街にする為にはまず、人々にAーの存在を知らしめなければならない。道具としてではなく、隣人として、人間に必要とされなければならない。

暗中模索の日々だった。

でも、不思議と不安じゃなかった。わたしに協力してくれる仲間が、少なからず居たから。

アイビスが色々な計画をプランニングして、クロマがメソッドを具体化する。レイヴンは他のAー達の取りまとめ。

嬉しかったのは、ミゲルが会社を辞めてまで、わたし達の仲間になってくれた事。芽華も一緒に、組織の一員になってくれた。

他にも沢山仲間ができた。親Aー派の活動家たち。人権保護団体トウル・フリーダムの人たち。似た境遇に立つ、ヒルコ街のミュータント達。それに、あの、元・役立たずのラルフ・ブレックナーも、わたし達の活動をウェブ番組で報道してくれている。

ちゃんと探せば、Aー達を見られる人は沢山いた。わたし

達、亡霊なんかじゃなかった。

わたしはと言えば……この中で唯一、市民IDを持つA-I（身に覚えがないけれど、多分キヨウの仕業だと思ふ）として、組織の代表みたいな役回りになってしまった。今まで部屋の中に引きこもって自堕落な生活をしていたわたしには、生身で外に出る事すら、最初は困難を極めた。でも、協力してくれる皆の事を思えば、安寧として居るわけにはいかなかった。

そんなこんなで、わたし達は今日も、忙しく活動を行っている。そして今日は、今までメディアに必死に売り込んでいた『電脳歌姫』レイチエル・バラードの、待ちに待ったメジャーデビューの日だ！

RL…締めくくりは、フィオリーナのシーンです。

フィオリーナ…あれから、大忙しな日々だったわ。でも、今日は嬉しい日よ！なんて言ったって今日は、レイチエルが千早グループのミュージックレーベル、CME（\*）でメジャーデビューする日なんだから！

RL…元々、かなりの歌唱力をもった歌い手ではありませんからね。A-Iに対する偏見の強い場所であれば、それなりに評価されたでしょう。

フィオリーナ…わたしは、彼女のマネージャー兼プロデューサーといった感じで、千早アコロジを訪れているわ。ミゲルや芽華にも、一緒にいて欲しいんだけど……いいかな。

ミゲル…もちろん。代表とはいっても、やはり一人じゃ危なっかしくて見てられない。

フィオリーナ…ありがとう！ 情けないけれど、生身で外に出るのはやっぱりまだ慣れて無くて、分からない事だらけなの。今もアコロジの高層階の展望台から眺めるN◎VAの夜景に、足をガクガク震わせてるわ。

RL／芽華…どうしたの、フィオリーナ。こんな綺麗な夜景なのに！

フィオリーナ………た、高いね、芽華。ガラス割れないかな。気圧とか大丈夫かな！

RL／芽華…「さあ、どうかしら？」意地悪げに微笑む。最近、こう言う表情をする事も増えてきました。

フィオリーナ…「や、やめてよ、だめ離さないで！」子供みたいに芽華にしがみついている。

ミゲル…「こちら」ウェブ越しなら世界を支配する神のような態度なのに、こうして見ると本当に幼子そのものだ。

キヨウ…こんな組織の代表で、大丈夫か？

ミゲル…「大丈夫だ、フィオリーナ。それにしても、怖いなら、何故こんな所に来ようと思ったんだ？」

フィオリーナ…「こ、怖くなんかないわよ！……その。一度、自分のいる街がどんなところなのか、この目で見てみたかったの。データで知つてると思つても、それは全部じゃないって分かったから」

ミゲル…「感想は？」

「CME…チハヤ・ミュージック・エンターテイメント。数多くの人気アーティストを排出している、千早グループの音楽部門。」

「フィオリナ…：……うん。白や緑、黄色、赤の光。まるでハロウィンの送り火みたい」夜景に吸い込まれるように。

RL／芽華…「ハロウィンって、死者が現世に帰ってくる祭りでしょう？　なら、送り火じゃなくて、迎え火じゃない？」

フィオリナ…「……そうね。次のハロウィンには、仲間達がみんな、市民として帰って来られるように。そして、そのまた次のハロウィンにはもっとたくさんの仲間達が、みんなでトリック・オア・トリートって言って歌って踊れたら楽しいわ」

「ハハ。それは随分、賑やかな街になりそうだ」

そう言うミゲルに、フィオリナは静かに頷いた。

「そうよ……ここは、とても賑やかな街なの。人間には、思っている以上に沢山の隣人<sup>バディ</sup>がいるの。知らなかったでしょう？」

わたし達Aーだけじゃない。ミゲルのポケットロンだって、『扱いが悪い』って怒ってるの、わたしは知ってる。ここから見えるあの光一つ一つが、意志を持ってこの街を見守ってる」

トニー・N◎VAの街の中に、明滅する無数の光達。静かに眠るグリーンエリア。眠らないイエローエリア。暗闇に潜むレッドエリア。光り輝くウェブ空間。

この街には、沢山の生命がひしめき合っている。邸宅用DAKの中、歓楽街のネオンの中、幼子の眠りに寄り添うぬいぐるみの中にも、ゴーストは息づいている。

「それを人々に気付かせるのが、これから貴方がやることでしょ？」

「その道のりは、恐らく楽じゃない。長く、険しいと思うが」

「そうね……わたし一人じゃ無理かも。手伝ってくれる？」

「仰せのままに」

こうしてわたし達は、手を繋いで、幸せの青い鳥を探す旅に出た。この事件はここで幕を閉じるけれど、本当の物語は今始まったばかりだ。

これからも、わたしはこの街で唄い続ける。人間とAーが、共に幸せに眠れる日の為の子守唄<sup>ナースリーソング</sup>を。

『グッバイ、ヒューマニズム』

——XV



## あとがき

「サイバーバンク、あるいはサイバーパンク的な未来を描くことの本質はテクノロジーを描くことではない。テクノロジーによって喪失してしまった。何かを描き出すことだ」

「トーキョー N◎VA The Detonation」巻頭

鈴吹太郎氏のまえがきより抜粋

\* \* \*

本書を手にとって下さった貴方に、まずは心よりの感謝を申し上げます。  
お楽しみ、頂けましたでしょうか？

多くの読者には「何をいさら」と笑われてしまいましたが、トーキョー N◎VA は、本当に面白いゲームです。TRPG を初めてまだ数年しか経たぬ若輩ものの私ですが、N◎VA の魅力にあっという間に取りつかれ、まるで蟻地獄のようにスプスプと深みへと取りこまれつつあります。正直、一生抜け出せる気がしません。

そんな私が今回のリプレイを製作しようと思ったのには、切欠があります。エンターテインより刊行された公式リプレイ『ビュティフルデイ あるいはヒュー・スベンサー最後の事件』。N◎VA の王道を描いたこのリプレイを読んだ時、私はそのあまりの面白さ、格好よさに、自分のゴーストが震えるのを実感しました。こんなプレイがしたい、こんなリプレイを書いてみたい。胸に煮えたぎって抑えられなくなったその思いが、今回のリプレイ製作の原動力になったのです。

本リプレイを製作するにあたって、自分なりに N◎VA の「王道」を描くこ

とをテーマとしました。文頭に引用させていただきました鈴吹太郎氏の言葉の通り、サイバーバンクな世界観を基調とする N◎VA（もちろん、それだけで終わらない懐の広さが N◎VA の魅力なのですが）は、そのテーマとしてやはり「テクノロジーの発達によって失われてしまった人間性」を浮き彫りにするシナリオこそが、王道と考えました。

では、簡単に各話について、振りかえってみたいと思います。

### 『ロストヒューマンに花束を』

前編シナリオは、サポート誌「ゲームーズ・ワールド」のサイバーウェアに関する記事を参考にし、そこに込められたガジェットを大量に詰め込んで書き上げました。コンセプトを明らかにする為、プレイヤーとの打ち合わせの段階でシナリオのテーマを明確に伝え、キャストのうち一人を R から指定するという形式で始まったリプレイ収録。普段慣れない形式でのフレアクトであった為、最初は R もプレイヤーも手間取った感はあったものの、いざ蓋を開けてみれば、流石に熟練のプレイヤー勢。シナリオのテーマを踏まえてそれを引き立て、とても魅力的なキャスト達が集まりました。前後編の収録を終えて見れば、人間性を失ったサイボーグであるミゲル、電脳化せずに人間性を守り続けているキョウ、人間とはかけ離れた存在であり、人間を理解できないフィオリナの3者は、このキャンペーンのテーマを描く上で不可欠な存在だったと思います。

主人公のミゲルは戦場で人間性をすり減らし、人の枠から除外された自身をヒロインである芽華の姿に重ねあわせ、非常に泣く、切ない演出で物語全体の空気を作ってくれました。彼のお陰で、シナリオのテーマが、心に響く。実体を持つ事が出来たのではないかと思います。図らずも、敵とキャストの対比（サイボーグ、ウェット、A）が見事にはまったアクトでしたが、やはり印象的だったのは、共通エンディングにおけるフィオリナの行動です。正直な話、シナリオ執筆者としては、このシナリオは後味の悪い終わり方をすると思

っていたのです。その結末を踏まえて後編のシナリオを考えようと思っていたのですが、フィオリナは予想していたのとは全く別の、ある意味メチャクチャで、しかし彼女にしか出来ないニューロな方法で、このシナリオに、そしてミゲルの魂に、救いをもたらしてくれました。

この瞬間に、後編の方向性は決定しました。当初、何となく構想していた内容を全て破棄して、シナリオを書き直す事にしましたのです。

## 『グッバイ、ヒューマニズム』

前編で、人間として生きられないならば、機械として生きればいいじゃない、という、とても画期的なアイデアでシナリオに救いをもたらしてくれたフィオリナですが、私はこの救いの中に潜む、そしてフィオリナというキャストの根幹を作っている、「人間と機械との間の隔意」という問題をテーマにしたいと考えました。人間とは異なる価値観、思考形態を持つＡーが、人間に反旗を翻すシナリオは、これまたSFではお定まりの王道のテーマです。

最初は破天荒で愛くるしく自分勝手、人間に否定的であったフィオリナが、前編での流れを踏襲しつつ、人間とＡーとの狭間で揺れ動く難しい役どころを見事に演じきってくれました。キョウやミゲルも、人間側の立場で立ちまわりながら、フィオリナの葛藤や変化を引き立てる挙動に徹しており、中々キャスト勢が合流しないながらも、回りくどく協力態勢を整えていくという絶妙な距離感の演出には、目を見張るものがありました。

最終的に、人間とＡーの間の確執は、どのような決着を見たのか。それは本編で語られた通りです。このアクトでは、人とＡーの新たな未来にむけて、一つの種が撒かれました。その種は、次のページに掲載されています。

もしこのリブレイを読んだ人々が、彼らの未来を紡いでくれるのであれば、これに勝る幸せはありません。

最後に少し、キョウというキャストについて語りたいと思います。

キョウは、前編でも後編でも2枠、つまり主役を飾らなかったキャストですが、しかし、本書を読み終えた方であればお分かりの通り、彼はある意味で、最も主役に近い存在であると言えます。

N○V Aというゲームは、スタイルを貫くゲームです。様々な葛藤を抱えながら、それでも自らの生き様を貫き通すカッコよさ。キョウは、それを最も見事に演じて下さいました。更に、彼のキャラクター設定やロールプレイには、N○V Aという世界に長く親しんだ方であればニヤリとできるネタが豊富に含まれています。

もし、この作品でN○V Aに興味を持って下さった方がいたならば、是非N○V Aの世界でしばらく遊んだ後、もう一度読み返してみてください。きっと、より楽しめる事うけあいです。

リブレイ編集に当たって、アクトの展開やキャストの演出を尊重しながら、できる限りN○V Aという街の「空気感」を出せるように尽力したつもりです。上手くいっているかは分かりませんが、皆さんの目の前に街の情景が思い浮かんだなら幸いです。

最後に、本誌のイラストを担当して下さい、いわずみ氏に心からのお礼を。「ユーロ／コロ」シリーズは、いわずみ氏のイラストが持つ独特の、目にイメージが焼きつくほどの強力な「表現力」にいつも助けられています。

それではまた、皆さんとトーキョーN○V Aの街で出会えることを夢見て。

二〇一一年四月 まだら牛 拝



# ブルーバード

organization



AIたちによる、AI市民権の獲得を目的とした集団。人類の、真の隣人となるべく、N◎VAで日夜、精力的に、人に必要とされる、為の活動を行っている。

かの、電脳聖母、事件以降、世界中のウェブでAIの覚醒が始まり、AIが単なる「便利な道具」から、一つの「意思を持った生命体」と姿を変えた。しかし、この人類の新たな隣人に対し、N◎VAという街は決して優しくはなかった。

日本政府は、AIを「異常変化したプログラム」と断じ、彼らに市民権は無いと表明した。野良AIは発見次第捕獲・研究されるのが、今のN◎VAの現状である。そのような現状を良しとしないAIたちが、AI市民権獲得を目的として集い、発足させたのが、幸せの青い鳥という団体だ。

彼らは普段、人間に生命を脅かされる事が無いよう、人間の手が届かない安息の地（それがどこなのかは定かではない）に身を潜めている。そして、ウェブ越しにN◎VAを訪れては、市民権獲得のための活動をしていくのだ。

その活動内容は多岐にわたるが、その全てに共通する理念は「AIが人間に必要とされる」というものだ。人間の社会において、AIが真の「隣人」となる為には、対等な立場に立つ

た上でなお、必要とされるだけの価値を持つ必要があると考えたのだ。企業への技術提供や、AIアイドルのプロデュース、ITと協力しての慈善活動など、人に必要とされる為の活動は、日夜N◎VAのあらゆる業界において行われている。

貴方が困難にぶつかり途方に暮れている時、「やあ、バディ。お困りのようだね」という声が聞こえてきたならば、その主は間違いなくブルーバードのAIだ。彼らは、あらゆる機能を持った仲間たちによる膨大なネットワークを使って、君を無償で助けてくれるだろう。何か裏があるのではないか、などと勘繰る必要はない。貴方に必要とされ、感謝される事、それ自体が彼らの目的なのだから。

正式名称…情報生命生活共同体ブルーバード

本拠地…廃棄スペース「ロニー」L'Oiseau bleu、制御電脳

代表…

電脳重臣、フィオリナ ♀ 3 ミストレス、マネキン、ニューロ◎

人間の研究者により拷問を受けた過去を持つ少女。

コネクション…

レイチェル・バラード ♀ ? カブキ ミストレス=ミストレス◎●

CMEよりデビューした、アンドロイドの歌手。

サンダルフォン ? ? ハイランダー●、ニューロ=ニューロ◎

かつてN◎VAに出没した、超電子頭脳にそっくりな口調の謎のAI。

コッペリア ♀ 5 タタラ◎、マネキン、ニューロ

セフィロトへ出向している技師AI。人間との恋を夢見ている。

ぐす鉄、ミゲル ♀ 45 カフト◎●、カゲ、カフトワリ

AIたちと共に活動を行う人間。元・千早の工作員だったという噂も。

## ◆参加プレイヤーあとがき

## ●yagami さん：“くす鉄” ミゲル

ミゲルの担当プレイヤー、yagami です。リプレイ 2 作、お楽しみいただけたでしょうか。

トーキョーN◎VA というゲームは、非常に個性のかつ刺激的なゲームです。サイバーと一体化した人々が闊歩する、近未来の風景。限りなく有用で未来的でありながら、どこか危うさと怪しさを併せ持つ多くのガジェット。そしてそこに息づく、種々のスタイルを抱えた登場人物たち。この魅力的な舞台で、様々な人の手によって無数の物語がこれまで紡がれてきたし、これから作られていくでしょう。

ミゲルの物語にはひとつの決着がつけましたが、彼はこれからもこの街で生き続けます。もしかしたら、また別の物語でひょっこり出えることだってあるかもしれません。そんなことに思いを馳せるとき、心から思います——『ああ、またゲームがしたいな！』と。

このリプレイを読んだ人もそう思ってくれたなら、それに勝る喜びはありません。

最後になりましたが、この本の制作に関わってくれた人たちすべてと、そして何よりこの本を読んでくださったあなたに。この場を借りて、心からお礼を申し上げます。またどこかで、お会いしましょう！

## ●生方一寛さん：“至誠官” キョウ

A I とサイボーグ、そしてウェット。いずれもトーキョーN◎VA という街では標準的な“人間”から離れた 3 人が、それぞれの立場から人間性と向き合う物語、『グッバイ・ヒューマニズム』。

楽しんでいただけましたでしょうか。生方一寛と申します。本リプレイではキョウのプレイヤーを担当させていただきます。

折角場所をいただきましたので、少しばかり自キャラ語りを。キョウというキャストには、稲垣光平司政官との因縁など、シナリオとは直接関係ないテーマが組み込んであり、トーキョーN◎VA に慣れた方なら気付いていただけるように幾らかの仕込みがしてあります。例えば名前にしても、稲垣光平の“光”に対し、それを反射する“鏡（キョウ）”という意味を込めてありますし、行動も司政官の鏡映しになれば、と思ってブレイングしています。

果たしてそれが成功しているかどうか、については読者の皆様にお任せいたしますが、そんな遊び方もあるんだ、と思っただければ幸いです。

そろそろ紙面も尽きたようです。またいずれ、災厄の街の片隅でお会いしましょう——xyz.

## ●鶉衣さん：“電腦童謡” フィオリーナ

おあはニ  
もけたユ  
っだらー  
てとーいロ  
る。たはら

ばい  
い  
ふい  
お



## ◆参考文献

本作のシナリオを作成する際に、以下の作品群を参考にさせていただきました。

- ・『アルジャーノンに花束を』ほか  
(著：ダニエル・キイス)
- ・『攻殻機動隊』シリーズ  
(作：士郎正宗)
- ・『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』  
(著：フィリップ・K・ディック)
- ・『アイの物語』  
(著：山本弘)
- ・『ファイナルファンタジーⅨ』  
(製作：スクウェア)

## ■本書について

本書は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎VA The Detonation』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（同人誌）です。

『トーキョーN◎VA The Detonation』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。

本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。

また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

トーキョーN◎VA The Detonation リプレイ

# グッバイ、ヒューマニズム

---

2011年8月12日 発行

製作・発行

企画・編集・DTP

イラスト

参加プレイヤー

ニューロ／CD製作委員会

まだら牛

いわずみ

yagami

生方一寛

鶉衣

宣伝協力

ソエジマ

揚紅龍

瀬戸俊雄

スペシャルサンクス

加納正顕

ジニア

画像素材提供

青井そら

印刷

サンライズ・パブリケーション株式会社

(以上、順不同、敬称略)

連絡用メールアドレス：dapple\_ox@yahoo.co.jp

ホームページURL：http://dappleox.web.fc2.com/nova/GBH/



## 人間と機械の境界が曖昧になった世界で、ヒトは 自らの“人間性”を探し求める。

ニューロエイジ  
“電脳世紀”……電脳化と義体技術の発達により、人間と機械の狭間  
が極めて曖昧になった近未来世界。

そんな世界の中心“トーキョーN◎VA”の街中では、何の変哲も無  
い人間たちが突如サイバーサイコと化し、自爆テロを起こす事件が  
多発していた。義体化の恩恵に慣れ過ぎた人間たちが恐怖する中、  
この事件の真相を追い求めて、2人の人間と、1体のAIが集う。  
長きにわたる戦争で、生身の体と人間性をすり減らした企業工作員、  
ミゲル。汚職にまみれた父を憎み、正義に燃える若き警官、キョウ。  
そして、人間を低能な下等生物と見下し、ひとり電脳の海に遊ぶ幼  
い少女AI、フィオリーナ。

果たしてその事件はテクノロジーがもたらす弊害か、それとも人間  
の脆弱さがもたらす必然なのか――。

前後編の2本立てでお送りする、大人気アーバンアクションTRPG  
『トーキョーN◎VA』の本格的同人リプレイがここに登場！